

平成 21 年度

群馬大学大学教育・学生支援機構  
報 告 書



群馬大学大学教育・学生支援機構

# 群馬大学の理念及び目標

## 前 文

群馬大学は、上毛三山に抱かれた明るく豊かな自然風土の下、昭和二十四年に新制の国立大学として誕生した。それ以後、北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献することを目的として、その社会的使命を果たしてきた。

二十世紀後半は、科学技術の飛躍的発展と経済の繁栄に象徴される時代であり、同時に、人類の生存と繁栄の根幹に関わる諸問題が地球的規模において顕在化した時代でもあった。この中にあって、本学は、教育学、医学、工学、社会情報学の各分野における教育及び研究を通して、真摯に時代の要請に応えてきた。

ここにおいて、群馬大学は、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、地球規模の多様なニーズに応えるため、新しい時代の教育及び研究の担い手として、次の基本理念を宣言する。

## 基本理念

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

## 目 標

群馬大学は、以上の基本理念に基づいて、次の目標を定め、その実現に努力する。

### 1. 教育の目標

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、課題に対して主体的かつ継続的に取り組むことのできる人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理性に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、高度な専門的知識及び技術を備えた職業人を養成するとともに、創造的能力を備えた研究者を養成する。

### 2. 研究の目標

- (1) 専門分野において独創的な研究を世界的水準において展開するとともに、細分化された各専門分野を総合する視点に立った研究へと、パラダイムの転換を図る。
- (2) 本学の伝統をなす実践的、実学的研究と基礎的諸科学との融合を図りつつ、適正なる競争的環境を整備し、時代と社会の要請に応じた新しい知の創造と先端的学問体系の確立を目指す。
- (3) 地域社会に生起する様々な問題や課題について、学外の関係機関、自治体等との共同研究を活発に行い、その成果を地域社会並びに広く社会全般に還元する。

### 3. 社会貢献の目標

- (1) 自然環境を守り、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創るために、学内外の関係機関と連携した活動を展開し、その成果を基に、健康で文化的な人間生活の実現に寄与する。
- (2) 地域の自治体、産業、市民との連携作業を推進し、まちづくりをはじめとして地域社会の活性化を図るとともに、生涯学習など地域住民の多様なニーズに応えることを通じて、本学と地域社会との連帯を強める。

### 4. 国際貢献の目標

- (1) 世界各国からの留学生の受け入れ体制を充実するとともに、本学学生が進んで世界の大学、研究機関等で学ぶことができるように、その支援体制を整備し、これらを通じて国際交流の輪を広げ、異文化への理解を深めることによって、国際平和に貢献する。
- (2) 本学教員が世界各国の大学、研究機関等で学術交流を行う機会を拡充するとともに、国際学会等における学術的活動を活発に行い、学術面における国際貢献を促進するとともに、社会面における国際協力を一層推進する。

### 5. 大学運営の目標

- (1) 大学の自治の理念を基盤とし、大学構成員の総意と主体性を尊重し、一層の自主性、自律性をもって大学運営を進めるとともに、開かれた大学として、教育及び研究に深い理解と識見を有する学外有識者の大学運営への参画を求める。
- (2) 情報化が急速に進行する今日のネットワーク社会に対応して、大学の総合情報システムを拡充、活用し、大学運営の効率性を図るとともに、その透明性を一層高めるため、大学情報の積極的な公開に努め、真摯に学内外への説明責任を果たす。
- (3) 厳正な自己点検評価、外部評価を実施するとともに、第三者評価による評価結果を組織的かつ主体的に活用して、大学の諸活動の質的向上を図る。

# 「平成21年度 群馬大学 大学教育・学生支援機構」報告書 巻頭言

大学教育・学生支援機構長

平塚浩士

大学教育・学生支援機構は学生の学習や学生生活を支援するという大学の基幹業務を担当しています。本機構は、教務関係全般、なかでも教養教育を主に担当する大学教育センター、学生のクラブ・サークル活動や奨学金、授業料免除などの生活支援・サービスを行う学生支援センター、広報を含めた入試関連業務を行う学生受入センター、全学的な健康支援業務を行う健康支援総合センターからなっています。

現在、第一期中期目標期間の最後の年を迎えています。グローバル化が進展し、大学のユニバーサル化を目前にして、大学で「何を教えるか」ではなく、学生が「何ができるようになったか」ということが社会から問われ、これが次の中期目標期間における課題となっています。平成20年度の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」で指摘された“学位授与の方針”では、学士力を持つ人材の養成掲げられ、その参考指針として、人類の文化、社会、自然などに関する知識と理解、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能、チームワーク、リーダーシップ、自己管理能力、倫理観、市民としての社会的責任などの態度・志向性、さらに創造的思考力など、さまざまな学士としての能力が挙げられています。したがって、大学では単に授業によってのみ専門能力の高い人材を養成するのではなく、大学生活の中で人間としてのさまざまな能力を身につけ、高い専門性と豊かな人間性を持つ人材を養成して行くことが求められます。そのために私たちは、学生の学習支援と学生生活全般の支援を、教職員が一体となって組織的に展開することが必要であり、本機構の重要性が増大しているところです。

本機構の業務に関する報告書の発刊は、平成18年度から始まり、今回が4回めとなりますが、本学学生の大学生活をより豊かなものにするために、この報告書にもとづいて活動結果を検証し、各センターの新たな方針を構築して今後の活動を展開して行きたいと考えています。本学構成員の皆様の益々のご支援とご協力をお願い申し上げます。

なお、本報告書の作成に当たり、各センターの活動を担い、日々忙しく活動している中でご協力頂いた教職員の皆様、また執筆に当たった関係者の皆様に深く感謝致します。

# 目 次

<b>1</b>	<b>大学教育センター</b> .....	<b>1</b>
1.1	共通教育企画部.....	1
1.1.1	はじめに.....	1
1.1.2	平成21年度活動概要.....	1
1.1.3	平成21年度活動内容.....	2
1.2	外国語教育部.....	4
1.2.1	はじめに.....	4
1.2.2	英語習熟度別クラス編成.....	4
1.2.3	TOEIC IP.....	4
1.2.4	TOEFL ITP.....	5
1.2.5	ドイツ語技能検定試験.....	5
1.2.6	e-ラーニングの推進.....	5
1.2.7	CALLシステムの拡充.....	5
1.2.8	外国語教育についての全学的な検討.....	5
1.2.9	ドイツ語到達目標の設定とアチーブメント・テストの実施.....	6
1.2.10	GLT-NET Newsletterの発行.....	7
1.2.11	その他.....	7
1.3	教育方法企画部.....	8
1.3.1	はじめに.....	8
1.3.2	全学FD.....	8
1.3.3	ベストティーチャー賞.....	8
1.3.4	教養教育授業評価.....	33
<b>2</b>	<b>学生支援センター</b> .....	<b>72</b>
2.1	入学料免除及び徴収猶予.....	72
2.1.1	免除申請者数, 免除者数.....	72
2.1.2	徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数.....	72
2.2	授業料免除及び徴収猶予.....	72
2.2.1	免除申請者数, 免除者数.....	72
2.2.2	徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数.....	72
2.3	寄宿料免除.....	73
2.3.1	免除申請者数, 免除者数.....	73
2.4	奨学金.....	73
2.4.1	日本学生支援機構第一種奨学生数(平成21年10月1日現在).....	73
2.4.2	日本学生支援機構第二種奨学生数(平成21年10月1日現在).....	73
2.4.3	日本学生支援機構以外の奨学生数(平成21年10月1日現在).....	73
2.5	学生相談体制及び学生相談.....	73
2.5.1	学生相談体制.....	73
2.5.2	主な相談事項.....	73
2.5.3	学生相談アンケートの実施及び活用.....	73

2. 6	授業欠席状況調査	74
2.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由	74
2.6.2	実施方法, 時期	74
2. 7	障害学生への支援	74
2.7.1	障害学生数	75
2.7.2	支援内容	75
2. 8	学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険	75
2.8.1	加入者数	75
2.8.2	請求種別保険金請求件数	75
2. 9	通学証明書, 旅客運賃割引証	75
2.9.1	発行枚数及び主な発行理由	75
2. 10	学生寮	76
2.10.1	養心寮入寮者数	76
2.10.2	啓真寮入寮者数	76
2. 11	生活支援施設	76
2.11.1	食堂	76
2.11.2	売店	76
2. 12	課外活動施設	77
2.12.1	体育施設	77
2.12.2	文化施設	78
2.12.3	課外活動共用施設	78
2.12.4	合宿所	78
2. 13	学生団体及び主な活動	79
2.13.1	学生団体	79
2.13.2	大学祭	79
2.13.3	関東甲信越大学体育大会	79
2.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	79
2. 14	研修施設	79
2.14.1	北軽井沢研修所	80
2.14.2	草津セミナーハウス	80
2. 15	学生の就職支援	80
2.15.1	進路状況及び主な就職先	80
2.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	81
2.15.3	キャリアカウンセリングの充実	81
2.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	81
2.15.5	就職支援の体制強化の充実	81
2.15.6	専門家による就職活動のための実践的支援の充実	82
2.15.7	就職支援BOOKの作成・配付	82
2. 16	アルバイトの紹介体制の充実	82
2.16.1	主な依頼先	82
2. 17	キャンパスニュース群の発行	82

2. 18	学生支援センター資料集	82
<b>3</b>	<b>学生受入センター</b>	<b>99</b>
3. 1	はじめに	99
3. 2	オープンキャンパス等	99
3. 3	入学者の追跡調査	100
<b>4</b>	<b>健康支援総合センター</b>	<b>101</b>
	はじめに	101
4. 1	平成 21 年度年間業務実施概要	101
4.2.1 及び 4.2.2	学生の定期健康診断状況	104
4.2.3 及び 4.2.4	学生定期健康診断受検状況	105
4.2.5	学生定期健康診断における疾患別要観察者数（前橋地区）	105
4.2.6	学生定期健康診断時に発見された異常者数と事後指導結果（前橋地区）	106
4.2.7	健康診断時における精神保健調査	107
4. 3	外国人留学生健康診断状況	107
4. 4	ウイルス性疾患抗体検査	108
4. 5	健康支援総合センター利用者等	108
4.5.1	利用者数	108
4.5.2	利用件数	108
4.5.3	疾病領域別利用者数	109
4.5.4	医療機関紹介の診療科分類	109
4.5.5	薬剤別処方日数	109
4.5.6	常備薬使用数	109
4. 6	健康相談・精神保健相談	110
4.6.1	健康相談・精神保健相談の対応内容	110
4.6.2	精神保健相談者数	110
4.6.3	精神保健相談内容	110
4. 7	カウンセリング状況	111
4.7.1	学外臨床心理士による心理カウンセリング数	111
4. 8	教員による教養教育への参加等教育への参加状況	112
4. 9	教員による健康管理に関する調査研究業務	112
4. 10	健康支援総合センター所属教職員等及び工学部所属学校医等	114
4. 11	健康支援総合センター主催の委員会等	114
4. 12	平成 21 年度健康支援総合センター運営委員会委員	115
4. 13	健康支援総合センターでの全国委員会等出席	115
4. 14	学内諸会議への教職員の出席	115
4. 15	学内行事実施に伴う救護業務	116
4. 16	出版・広報活動	116
4. 17	社会貢献活動	116
4. 18	その他の活動	117
4. 19	健康支援総合センターの抱える問題点と改善の方向性	117
4. 20	健康支援総合センター資料集	120

# 1 大学教育センター

大学教育センターは、教養教育を中心とした全学の共通教育を企画・運営している。センターにはセンター長（教学担当理事・副学長）と各学部から推薦された副センター長を含む兼任教員4名がいる。またセンターには共通教育企画部、外国語教育部、教育方法企画部の3つの部門があり、外国語教育部には専任教員が4名所属している。これらの所属教員を柱に、全学の教員が参加して共通・教養教育を企画・運営・実施している。

さらに大学教育センターでは、全学学生に向けて、新入生オリエンテーション、ウォークラリー・キャンパスクリン作戦、文化講演会など、キャンパス生活を有意義に送るために必要な様々な行事を企画・運営・実施している。

## 1.1 共通教育企画部

### 1.1.1 はじめに

大学教育センター共通教育企画部も改組4年目となり、活動はひとまず軌道にのった。群馬大学の共通・教養教育全体のカリキュラムの企画・立案・運営を担当するという業務の大筋は前年度とかわらない。大学教育センター企画部の組織も前年度の組織を踏襲しているが、昨年度からは企画部副部長を設けた。副部長制度は、次の企画部長への業務引継をスムーズにするために設けたものであり、さまざまな業務を企画・運営する上で、より客観的な結論を見いだすことが出来るようになった。

### 1.1.2 平成21年度活動概要

共通教育企画部は定例の活動として毎月1回の会議をもち、教養教育全体の問題について討議している。平成21年度については8月の休会を除き、11回の定例会議をもった。通常業務は前年と変わらず、次年度の全学共通教育の授業計画が主たるものである。教養教育棟耐震工事は、教養教育G棟の改修が終了し、教室スペースは一応確保は出来た。改修工事等に伴う講義教室、試験教室の確保など、企画部の本来業務である「よりよい環境づくり」については、事務組織、他学部、各センターに大変なご協力を頂いていることに感謝したい。

平成21年度企画部の通常業務は、下記の通りであった。

- 4月 新入生のオリエンテーションの実施  
当該年度の検討課題の整理  
学長、理事と学生との懇談会の実施  
新入生によるキャンパスクリン&ウォークラリーの実施
- 6月 文化講演会の実施  
科目登録集団についての照会、確定  
教養教育関係予算案の作成
- 7月 次年度教養教育の各学部の担当コマ数の決定  
前期期末試験の実施  
次年度学年暦の作成
- 8月 次年度教養授業担当の学部等への照会
- 9月 次年度教養教育の担当者の決定
- 10月 防災訓練の実施  
次年度開講表の作成
- 11月 次年度教養教育の非常勤講師の決定  
次年度の教養教育関係の印刷資料（履修手引、授業案内、時間割等）の作成
- 1月 教養教育関係TAの照会と確定

- 2月 後期期末試験の実施
- 3月 次年度新入生オリエンテーション計画の作成  
共通教育企画部会員の交代等の確認(※企画部会員は原則として2年ごとに交代する)

### 1.1.3 平成21年度活動内容

#### (1) 前年度に見直した総合科目について

総合科目は学修原論と並ぶ本学教養教育の大きな柱である。平成20年から見直した総合科目の区分は、次の通りである。

- 1 人間理解と多文化共生
- 2 現代社会と環境問題
- 3 科学的世界と生命・健康
- 4 国際社会と地域社会
- 5 情報社会と技術
- 6 総合科目特別講義／演習

総合科目は、1から4については以前の分野を統合再編したもので、内容的に大きな違いはないが、分野を広くすることで、本来の総合科目の趣旨にも合うようになった。5,6は新設の分野で、従来は情報関係の総合科目は科学的把握などに含まれていたが、近年の情報科学の発展、とくにいわゆる情報処理のみならず、情報倫理等幅広いニーズに対応できるような体制を整えた。6の特別講義では、「群馬大学・学」をテーマに学長・理事らによる連続講義を開講し、群馬大学の理解と大学で学ぶことの目的づくりを期待した。さらに、国内外からの研究者の招聘等に伴い、本学学生に向けてその年度特別の科目を開講していただいている状況があるので、それに対応できる枠として活用していきたい。また、総合科目特別講義／演習に「野菜づくりから日本の文化を考える」を新しく開講した。本総合科目は、県立農林大学校の圃場にて体験的野菜づくりから食文化の大切さを学ぶものである。

#### (2) 学生の要望に応えるべく学修原論コマ数の増加

群馬大学の教養教育の柱である「学修原論」は、教員・学生間の対話や討論を主とした少人数教育を目指しており、学生による授業評価が非常に高い。必然的に受講希望者数が非常に多く、時代に即した講義テーマ例えば「健康問題」等は、定数(20名)の何倍もの受講希望者が押し寄せる現実であり、開講コマ数を増加させ、学生の要望に応える努力を行って来た。解決には全学の理解と協力が必要であり、徐々にではあるが学生の期待に応えようと思っている。

#### (3) ウォークラリー&タウンクリーン作戦について

ウォークラリー&タウンクリーン作戦は、教育学部保健体育講座・健康科学専門委員会が中心になり、企画・立案・運営を行い、盛況のうちに終了した。本年度も晴天に恵まれ、学長の挨拶に始まり、事故も無く無事終了した。学生の参加率は約99%、教職員の参加は少なく今後の課題として残った。分別収集したゴミの量は、約4t車1台程であった。

入学間もない学生は、ウォークラリー&タウンクリーン作戦を通して、群馬・前橋の歴史・文化に触れ、4年間学ぶ荒牧キャンパスを探索し、新しい友だちとコミュニケーションを深め、エコ問題について考え、ウォーキングと健康づくりについて考え・・・スタートした学生生活について考える良い機会を得たと思われる。また、本企画は、ISO14001認証取得に優れた企画と高く評価されている。

#### (4) 文化講演会について

平成21年度の文化講演会は、平成21年6月29日(月)ミューズホールにおいてドイツ大使館政務部政務部長はアンナ・プリンツ公使による「環境にやさしい技術が上昇トレンド

ドに「インターソーラー 2009」であった。参加者は、本学学生、教職員等 150 名程の参加者であった。学生は、ドイツの環境対策について学ぶことが出来た。

#### (5) 専門教育科目と教養教育科目の連携のあり方について

本学の教養教育は全学部の専任教員の科目登録制により、すべての教員が何らかの形で教養教育に参加することで運営されている。科目登録は毎年見直し更新が行われて、原則として各教員は科目登録をした教養科目について最低 1 コマの教養科目を担当することになっている。キャンパスが多岐に渡っているため、1 年生の教養教育にそれぞれのキャンパスの先生が平均的に携わることは物理的に無理が有り、実際上の運用は主として荒牧地区に研究室を置く教員がより多くの教養科目を担当している。また、工学部桐生キャンパスでも総合科目や学修原論は開講され、工学部 2 年生が主に受講している。科目登録制の運用として専門科目を一定の条件の下で「特別開放専門科目」として開放し、教養教育と位置づけることができるようになっている。この制度の見直しも含めて、専門科目と教養教育科目の連携をどのような形で実現できるのかは、今後の大きな課題である。

#### (6) 学内各種行事の主催

企画部主催の各種行事は以下の通りである。

新入生向けのオリエンテーションの実施

ウォークラリー・タウンクリーン作戦の実施

文化講演会

新入生合宿研修旅行の実施

防災訓練の実施

#### (7) 各種配付資料の作成、改訂

学生向けパンフレット「知の創造に向けて（教養教育への誘い）」の改訂作成

本学教員向けパンフレット「本学の教養教育について」の作成

教養教育授業案内、履修の手引、時間割表の作成

## 1.2 外国語教育部

### 1.2.1 はじめに

外国語教育部は、平成 18 年 4 月の大学教育・学生支援機構創設に伴い、全学の外国語教育の改善を図るために発足したもので、ネイティブ・スピーカー 3 名を含む 4 名の専任教員が所属することになった。

平成 21 年度の外国語教育部は、平成 20 年度に外国語教育部が取り組んできた諸プロジェクトを継続し、習熟度別クラス編成の実施、TOEIC IP の実施、TOEFL ITP の実施、ドイツ語技能検定試験の実施、e-ラーニングの推進、群馬大学語学担当専任教員のネットワーク (GLT-Net) の Newsletter の発行等を行った。

新しい事業としては、CALL 教室の増設、語学教育における到達目標とアチーブメントテストの実施に向けての試行を、ドイツ語について行った。

### 1.2.2 英語習熟度別クラス編成

英語習熟度別のクラス編成は、平成 19 年度に行った英語習熟度別のクラスに対するアンケート調査によって確認された、教員側のきわめて高い評価と受講生の一定の好評価に基づき、平成 20 年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施され始めたもので、最終的には全クラスに英語習熟度別編成が導入されることが望まれる。

平成 21 年度は、工学部応用化学・生物化学科 1 年、保健学科看護学専攻 1 年 (保健 A・B クラス)、社会情報学部 1 年、2 年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成を行った。クラス分けの方法と実施、学生への周知は各部局の責任で行った。

習熟度別クラス編成が行われた際、学生が成績評価に不公平感を持つ可能性があることが 1 つの懸念としてあるが、拙速に機械的な処理を持ち込むことには問題が伴うので、当面、担当の教員にどのクラスが担当であるのかを周知し、それぞれに柔軟な対応をしてもらうことになっている。

### 1.2.3 TOEIC IP

群馬大学では外国語能力向上のため、外部の検定試験制度利用推進の一環として、平成 15 年度から TOEIC IP を、「選択英語 AI」「選択英語 AII」と連動させながら継続的に実施しており、外国語教育部が設置されてからは、当部が中心となって、選択英語の受講生だけでなく、多くの学生の TOEIC 受験を促すことになった。

実施は年 2 回 (7 月 / 1 月) で、平成 21 年度からは、申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより、受験料を低く抑えることが可能になった。また平成 21 年度からは、1 月期の実施に対し、工学部の全学生が参加することになった。このような全員参加は、全部局に対して開かれており、学部 / 学科がそのように希望すれば、全員の受験が可能である。実施については外国語教育部の責任で行うが、監督業務については、受験者の多い部局には応分の協力を要請することになった。実施日時、参加者数は以下の通りである。

1 回目：平成 21 年 7 月 15 日 (水；17:40～20:10) 実施：参加者 111 名

2 回目：平成 22 年 1 月 20 日 (水；17:40～20:10) 実施：参加者 541 名 (工学部 1 年全員受験；補助監督者数：16 名で、荒牧事務 8 名、荒牧語学担当専任教員 5 名、工学部教員 3 名)

結果 (平均点) は必ずしも高いものではなかったが、1) motivation を高める努力、2) 英語の授業における基礎学力の再構築、3) 「選択英語 A」の拡充、4) 将来の到達目標設定の中に、TOEIC 対策的なものを含めること、5) 外国語教育部が中心となって、TOEIC 対策に特化したプロジェクトを立ち上げる、等の対策によって、継続的に平均点向上を図っていくこととした。

#### 1.2.4 TOEFL ITP

海外留学を希望する学生にとって TOEFL の成績が要求されることが多く、これまでその受験場が近くにないため群馬大学の学生には不便であったので、平成 20 年度から、TOEFL の本試験とは別であるが、過去に出題された問題を使った、本試験とほぼ同じ正確さで実力を判定できる TOEFL ITP を荒牧キャンパスで年 2 回（7 月と 1 月）、TOEIC と両方受験する学生の便宜を考え、なるべく TOEIC とは別の日程で、実施することとした。平成 21 年度の日程と受験者数は以下の通りであった。

- 1 回目：平成 21 年 7 月 1 日（水；17:40～20:10）実施：参加者 24 名
- 2 回目：平成 22 年 1 月 13 日（水；17:40～20:10）実施：参加者 11 名

TOEFL ITP は、10 名以上が参加しないと実施ができないため、今後も外国語教育部が中心となって、広報に努力を払い、各部局の協力を得ながら、参加者の拡充を目ざしていくこととした。

#### 1.2.5 ドイツ語技能検定試験

群馬大学では、外国語教育部が実施主体となって、ドイツ語、フランス語担当教員の協力のもと、群馬大学を会場にして、周辺地域の受験希望者がドイツ語技能検定試験、フランス語技能検定試験を受験できるよう継続的に努力してきており、平成 21 年度もドイツ語技能検定試験（5 級～準 1 級）を、荒牧キャンパスの G A 棟の 3 教室を使って実施した。実施日時と受験者数は以下の通りである。

実施日時：11 月 22 日（日） 受験者数：34 名（うち、4 名が群馬大学の学生）

#### 1.2.6 e-ラーニングの推進

e-ラーニングを推進するために、平成 21 年度も前年度に引き続き ALC NetAcademy2 の説明会（4 月 8 日）を開催し、260 名の学生が参加した。またさらに学生に周知を図るために、英語の全クラスを通じて、ALC NetAcademy2 へのアクセス方法の説明書を配付した。ALC NetAcademy2 のプログラムには、直接 TOEIC 対策となるような内容も含まれており、ALC NetAcademy2 を利用して勉強した学生の TOEIC の得点は、そうでない学生の得点よりも高いという調査結果も出ているので、今後、到達目標設定や実際の授業に、e-ラーニングをどのように取り込んでいくかが検討課題となった。

#### 1.2.7 CALL システムの拡充

CALL（Computer Assisted Language Laboratory）システムは、従来型の LL 設備に比べより大きな教育効果の可能性を持つものであり、平成 20 年度の教育研究環境重点設備費により、「全学共有スペース」の教育学部 B 棟 1 階の広域マルチメディア室および同準備室に設置され、平成 21 年度前期から利用されている。しかしながら、規模がやや小さいこと、教育学部の専門課程の授業にも使用されることもあって、スペース的に十分な広さのある、教養教育専用の CALL 教室設置が強く望まれた。そこで平成 21 年度の G C 棟改修工事に伴い、従来の LL 教室を CALL 教室に刷新してもらうことにした。設計に当たっては、教養教育事務、情報メディアセンター、外国語担当教員の、熱心かつ綿密な協力が得られ、使い勝手のよい CALL 教室が実現できた。

#### 1.2.8 外国語教育についての全学的な検討

群馬大学の語学教育のあり方については、平成 17 年度に「外国語教育改善検討作業部会」が設置され、その提言には幾つかの建設的な内容が盛り込まれていた。

それを継承するような形で平成20年度には、大学教育センターが中心となって2回にわたり、群馬大学における英語教育と、英語以外の外国語教育の基本的ポリシーにつき検討し、それを承けて外国語担当教員間でも活発に議論が行われ、おおむね以下のような合意が得られている。

1) 大学の教養教育としての英語は、社会に出たときの一般常識、個人的実用、職業における実用、大学の専門教育において(論文を読む等で)必要とされる実用、リベラル・アーツ的な力の養成、というさまざまな要請を受けているため、単線的には対応ができず、複合的、総合的、柔軟な対応が必要である。2) 英語の基礎力の再構築という緊急の課題に対処する必要がある。3) 現在の学生の実力に見合った共通の目標設定が必要である。4) 教養教育英語担当教員相互の、また教養教育の英語担当教員と専門課程の専門英語担当教員との意思疎通を行いやすくするシステムを構築する必要がある。

英語以外の外国語教育については、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、中国語、韓国語という科目開設状況は、学生にニーズのあるなるべく多くの外国語を取りそろえておくのがよいという観点から、存続させていくのが望ましいということ、4単位(週2回1年間)を基礎とした到達目標を設定して担当教員へ周知し、担当教員相互の連携を強化する必要があることがすでに合意されている。

また、平成19年度には、「学長と語学担当教員との懇談会」が計4回開催され、群馬大学の語学教育について熱心に議論が積み重ねられ、英語教育については、1) 英語については、「基礎力の再構築」を1つの重要課題とする、2) TOEIC、TOEFL、英検等の外部試験への学生の参加を促す、等のことが合意されている。

平成21年度も、「学長と語学担当教員との懇談会」が、11月26日(水;16:00~17:40分)に実施され、群馬大学の語学教育について忌憚のない意見が交わされた。語学担当教員からは、1) 当該言語へのexposureを増やすこと(英語の場合、現在の週1時間では少なすぎる)、2) クラスの少人数化(現在は平均40名程度であるが、最終的には20名台を目標にする必要がある)、3) 英語以外の外国語を軽視する風潮は長期的に見て賢明なものではないことが共通認識として提出された。外国語教育の現場にいる教員と執行部との間のコミュニケーションが図られたという意味で、一定の意義のある懇談会であった。

(なお、語学クラスの少人数化については、現状では医学部医学科の2クラスが50名台になっているので、まずここを3クラス(1クラス30名台)にし、同時に英語習熟度別のクラス編成を導入してはどうかという計画が外国語教育部から提案されている。)

### 1.2.9 ドイツ語到達目標の設定とアチーブメント・テストの実施

今後の群馬大学の語学教育の改善においては、到達目標の設定とアチーブメント・テストの実施が重要なポイントになるという観点から、平成21年度においては、学力にすでにばらつきの出ている英語ではなく、初修外国語であるドイツ語において試行を行ってみた。到達目標としては、独検3級、初級文法、基本語彙500を基準に設定された。1) 筆記式であること、2) 教育へのフィードバックがしやすい設問を工夫すること、3) ドイツ語担当教員だけでなく、他の教員の参加に対して開かれたものであること、が民間の検定試験とは異なる特記すべき点である。この試行により、統一テストであるため、異なるクラス間の比較が可能であり、また学生の進捗状況を把握する上でも有用であるという所見が得られたので、今後はこれを踏まえて、フランス語や英語においても同種の実施し、継続的に洗練されたものにしていけば、群馬大学の実情に合った語学教育を推進していくための大きな力になることが期待される。

### 1.2.10 GLT-NET Newsletter の発行

現在群馬大学の語学担当教員は、教養部の改組以降、異なった部局に配属され、相互に話し合うことがあまり行われないうちになっているので、全体の統合が取りにくい状況になっている。その欠点を補い、互いがどのような考えを持ってどのような教育を行っているのかについての情報交換と意思疎通を行うため、自発的な組織である GLT-Net（群馬大学外国語担当専任教員のネットワーク）を平成 20 年度に設立し、GLT-NET Newsletter を発行している。（英語担当教員と英語以外の外国語の担当教員が相互に教育内容について話し合うというのは、群馬大学では初めての試みとなる。）内容は以下の通りである。

1. クラス（言語）
2. 受講生数
3. 使用したテキスト，教材
4. 授業の運営方法
5. 成績評価の方法
6. クラス全体に対する評価
7. 反省点，問題点
8. 自由記述
9. 各号で定めるテーマについての考え

平成 21 年度は、GLT-NET Newsletter を 2 回発行（第 3 号・第 4 号）し、統一テーマとしては、「（語学における）基礎学力とは何か」等について、各教員の意見を募り、各教員からそれぞれの教育経験に基づく貴重な意見が寄せられた。

### 1.2.11 その他

長年群馬大学の英語教育に尽力されてきた新藤一男准教授の退職に伴い、外国語教育部として最初の採用人事が行われ、諸規定に則り、草薙優加氏（准教授）を採用した。平成 22 年 4 月からの授業担当となる。

## 1.3 教育方法企画部

### 1.3.1 はじめに

今年度は、全学FD連続講演会を初めて企画するとともに、前年度と同様、ベストティーチャー賞選考、教養教育授業評価を行った。

### 1.3.2 全学FD

全学レベルのFDとして、学長・理事・教育研究評議員・各学部の教務委員や将来構想委員を主な対象に、全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」を企画した。

平成21年12月4日に、第1回として、愛媛大学教育・学生支援機構副機構長兼教育企画室長小林直人教授による「Diploma Policy から考える大学教育改革—初年次教育を中心に—」を開催した。

### 1.3.3 ベストティーチャー賞

平成18年度に創設された「ベストティーチャー賞」を継続実施した。平成18～20年度において連続受賞者が複数いたため、ベストティーチャー賞の趣旨に鑑み、連続受賞を認めないよう実施要項を改訂し、各学部等で受賞候補者の選考を行った。

平成22年5月7日に、各学部等から選出された最優秀賞候補者による公開模擬授業、及び、学長・理事・学部長等による審査委員会を開催し、最優秀賞・優秀賞受賞者を決定した。最優秀賞受賞者は、教養教育で選出された瀬山士郎教授(教育学部)で、他の受賞候補者は全員が優秀賞を受賞した。

なお、これまで公開模擬授業を荒牧地区で実施してきたが、その効果を全学に波及させるため、今年度は、教員数の最も多い昭和地区で実施した。



## ベストティーチャー賞行事プログラム

1. 日 時：平成22年5月7日（金）13：30～17：30

2. 場 所：刀城会館ホール，同会議室及び石井ホール（昭和キャンパス）

3. 日 程

(1) 公開模擬授業（13：30～15：45）

場所：刀城会館ホール

司会：吉田 亨（大学教育センター教育方法企画部長）

1-1 開会

1-2 挨拶・趣旨説明 平塚浩士（企画・教学担当理事）

1-3 模擬授業 最優秀候補者6人

13：35～13：55 大上厚志（医学系研究科 講師）

13：55～14：15 山口 昇（医学部保健学科 講師）

14：15～14：35 瀬山士郎（教育学部 教授）

（休憩）

14：45～15：05 江森英世（教育学部 教授）

15：05～15：25 田代亜紀（社会情報学部 准教授）

15：25～15：45 天羽雅昭（工学研究科 教授）

1-4 閉会

(2) 審査委員会の開催（15：50～16：20）

場所：刀城会館会議室

議長：高田邦昭 学長（審査委員会委員長）

2-1 審議（審査委員会 学長・理事・学部長・機構長）

(3) ベストティーチャー賞授与式（16：20～16：50）

場所：刀城会館ホール

進行：平塚浩士（企画・教学担当理事）

3-1 開式

3-2 審査結果・学長挨拶

3-3 表彰状・副賞授与

3-4 受賞者代表挨拶

3-5 閉式

3-6 記念撮影



(4) 学長・受賞者を囲んでの茶話会

（17：00～17：30）

場所：石井ホール

進行：中田吉郎（副機構長）

4-1 開会

4-2 受賞の感想

4-3 懇談

4-4 閉会



## 受賞候補者の選考経緯と推薦理由

### 1 教養教育における選考経緯と推薦理由

教養教育のベストティーチャー賞受賞者の選考は、21年度の教養教育履修者に以下のようなアンケート実施し、それに基づき実施した。以下の、選考の経緯と、その選考理由を記述する。

\*\*\*\*\*  
ベストティーチャー選考用紙（2009年度後期）

2010年3月

「ベストティーチャー賞」は、専任教員の教育・授業方法の向上を図ることを目的に、優れた授業を行う専任教員を学長表彰するためのものです。教養教育における教員選考は、本選考用紙による学生皆さんの評価に基づいて行われます。宜しくご協力をお願い致します。

群馬大学大学教育・学生支援機構  
大学教育センター長 平塚 浩士

#### [1] 学部（番号に○印を付ける）：

1. 教育学部、2. 社会情報学部、3. 医学部医学科、4. 医学部保健学科、5. 工学部

学籍番号 \_\_\_\_\_ , 氏名 \_\_\_\_\_

#### [2] 優れた科目の選考

以下の欄に本年度履修の教養教育科目で、授業内容、授業方法、学生の皆さんとの良好な関係等の観点を総合し、優れていたと思う教員のうち、前期の授業担当教員から2名以内、後期の授業担当教員から2名以内を選び、その「教員名」「授業の曜日・時限」「授業題目名」「欠席回数」「優れていたと思う理由」を記入して下さい。

選考対象となる、教員名、授業の曜日・時限、授業題目名については一覧表を参照して下さい。非常勤講師、昨年度受賞教員は対象外です。

	教員名	授業の曜日・時限	授業題目名	この授業での欠席回数	この授業が優れていると思う理由 (があれば簡単に記述して下さい)
例	赤城太郎	水、3-4	日本文化の形成	2	内容がよく整理され、理解し易かった
前期					
前期					
後期					
後期					

\*\*\*\*\*

## 選考の経緯

1. 大学教育センター教育方法企画部会(2月17日)および大学教育センター運営委員会(2月23日)で、21年度の教養教育ベストティーチャー賞候補者選考手順を審議し、決定した。
2. 1年後期の成績配付時(3月15、16日(夜間主コースは2月26日))に、学生に「教養教育ベストティーチャー選考用紙(2009年度)」への記入を依頼し、935名から回収した。記入の対象は、1年次開講のすべての教養教育科目の単位認定教員から、非常勤講師と20年度教養教育ベストティーチャー賞受賞者を除いた教員とした。学生からの記載は、前期2名、後期2名の連記とし、教員名のほかに、授業時限、授業題目名、欠席回数、優れていると思う理由も記載してもらった。
3. 候補者選考手順に基づき、候補者のべ14名(実人数11名)をリストアップした。
4. 3月23日に、平塚大学教育・学生支援機構長/大学教育センター長、中田大学教育・学生支援機構副機構長/大学教育センター副センター長、柳川共通教育企画部長、荒木外国語教育部会副会長(南谷部長代理)、吉田教育方法企画部長で候補者選考を行い、同日の大学教育センター運営委員会に結果を報告した。候補者選考にあたっては、得票状況に加え、優れていると思う理由、教養教育への貢献等も考慮し、総合的に判断した。

## 推薦理由

### (最優秀賞候補者)

#### 教育学部 瀬山士郎教授の推薦理由

瀬山教授は、教養教育では、前期に、総合科目「遊びの数理」、分野別科目(自然)「2変数の微分積分学」、学部別科目(工学部電気電子工学科)「線形代数学Ⅰ」を、後期に、学修原論「幾何学の散歩道」を開講しており、教養教育での開講数が比較的多い教員の一人である。

学生が履修制限なしに自由に選択できる、「遊びの数理」と「2変数の微分積分学」では、それぞれ289名と106名が履修登録し、各科目区分の平均登録者数をそれぞれ上回っている。また、得票総数も、同数以上の授業題目を担当する他の教員を大きく引き離しており、学生から広く支持されている。さらに、履修登録者数に対する平均得票率は27～35%であり、どの科目区分においても学生から高く評価されている。

学生が記載した、授業が優れている理由は、数学パズルを扱う「遊びの数理」では、「面白い」「楽しい」が多く、「2変数の微分積分学」と「線形代数学Ⅰ」では、「わかりやすい」が多く、科目区分を考慮した授業内容となっているものと推察された。また、「遊びの数理」では、「独特な授業の仕方」「頭が柔らかくなる」「生徒たちの個性を高める授業」「授業外でも考え続けてしまう」などの理由が記載されており、受講生のレベルに応じた数学パズルを提供することで、考える習慣を身につけさせる授業になっているのではないかと思われた。さらに、各授業題目のシラバスには、瀬山教授の「数学を楽しむホームページ」へのリンクがあり、興味を持った学生が学習内容を深められるよう工夫されている。

以上から、瀬山教授を、最優秀賞候補者として推薦した。

### (優秀賞候補者)

#### 教育学部 勝部 太教授の推薦理由

勝部教授は、教養教育では、後期に、総合科目「オペラ概説」を開講している。履修登録者数が250名と多く、得票率も高かったため、結果として授業題目あたりの得票数が最も多かった。

学生が記載した、授業が優れている理由は、「映像を使った授業で楽しめた」「解説がわかりやすかった」「先生のやる気がすばらしかった」「オペラが好きになった」などで

あった。また、音楽専攻の学生からは「内容の濃さ(解説等) 音楽専攻にはたまらなかった」との理由があげられていた。これらを総合すると、適切なオペラの映像と、熱意ある丁寧で奥深い解説により、ただ単に楽しいだけではなく、オペラに触れたことがなかった学生にも、オペラへの興味を引き起こす授業になっているものと思われた。

以上から、勝部教授を、優秀賞候補者として推薦した。

### (優秀賞候補者)

#### 大学教育・学生支援機構 Barry Keith 准教授の推薦理由

Keith 准教授は、教養教育の英語を計9コマ担当している。その内訳は、1年次で、工学部夜間主コース(太田)「英語1年」1コマ、2年次で、工学部(桐生)「英語2年」5コマと「英語(再履修)」1コマ、工学部(太田)「英語2年」1コマ、工学部夜間主コース(太田)「英語2年」1コマである。ただし、2年生の授業については、手続き的な問題から、今回の選考対象とはなっていない。

工学部夜間主コース(太田)「英語1年」では、履修者の約半数が、Keith 准教授を選んでいった。この授業は、英字新聞(Asahi Weekly)を教材にした授業だが、学生が記載した、授業が優れている理由は、「内容が工夫されていて、おもしろかった」「課題が多かったが、英語にふれる楽しさが勉強でき、非常に内容が濃い授業だった」「グループ学習でわかりやすく楽しかった」「ニガ手な英語を楽しく受け入れました」などがあげられており、授業方法の工夫により、英語が不得意な学生も興味を持って学べる授業内容となっているものと思われた。

他にも、同様の得票率の授業は複数存在したが、80名が想定履修者数である「総合科目」「分野別科目」の授業では履修者数が極端に少なかったり、20名が想定履修者数であり、40名を超える場合には履修制限を要請している「学修原論」の授業では履修者数が多かったりした。また、Keith 准教授は、2年次も含めると教養教育で多くの授業を担当していることも考慮し、優秀賞候補者として推薦した。

## 2 教育学部における選考経緯と推薦理由

昨年の選考方法と同様にベストティーチャー選考の資料とすることを学生に周知し、学部3・4年生全員を対象に自専攻の教員2名と自専攻以外の教員2名を投票用紙に連記の上、投票させた。

また、学部教育の活性化というベストティーチャー選考の趣旨に照らし、ベストティーチャー賞受賞者はその後2年間は選考対象外としている(このため、一昨年及び昨年度のベストティーチャーである斎藤理生、豊泉清浩、上原景子及び三田純義教員は選考対象外とした)。投票により得票を得た教員18名をベストティーチャー候補教員とした。

ついで、これらの候補教員について、平成21年度授業評価結果を所定の算定方法に基づき点数化し、上位2名を平成21年度教育学部ベストティーチャーとして選出した。

その結果、教育学部ベストティーチャー最優秀者として江森英世(えもりひでよ)教授を、また、教育学部ベストティーチャーとして西田直嗣(にしだなおつぎ)准教授を選出した。

### 教育学部ベストティーチャー最優秀者 江森 英世(えもり ひでよ)

受賞理由:

氏は数学教育講座に所属し、数学科指導法、初等科数学、実践的数学教育論、数学教育概説などの授業を担当している。数学教育学、特に数学的コミュニケーション論について研究をしている。

氏の授業では、学生はとても大切にされている。そして、そのお返しとして、学生たちは、氏の授業の中で、実によく考え、学んでいる。90名ほどの多集団の授業においても、

誰一人として話し声をあげる者も、鉛筆を動かさない者もない。学生たちは、こうした規律の取れた授業に参加しながら、みんなが真剣に学んでいるという喜びを共感している。理論に裏付けされた具体的な問いかけを基底とする授業は、教壇の上での現実的な問いとして、一人ひとりの学生の真摯な思考を呼び起こしている。実践的な内容の授業は、算数・数学の授業を超え、他教科の授業にも広く活用できる知恵として、学生たちに好評を博している。

平成21年度授業評価結果の点数化による序列では18名中1番に位置付けられ極めて高い授業評価を得ていることも勘案し、教育学部ベストティーチャー最優秀賞として選考した。

### 教育学部ベストティーチャー 西田 直嗣 (にしだ なおつぎ)

受賞理由：

氏は音楽教育講座に所属し、作曲、音楽理論、指揮、ソルフェージュ、初等科音楽を担当し、作曲、編曲を中心とした創作活動、研究を行っている。授業では、音楽科教員養成のための「作曲法」、「和声学」、「指揮法」、「ソルフェージュ」、「初等科音楽」を担当している。

講義では、多分野にまたがる授業を担当している事が授業内容に生かされるよう、相互の授業の繋がりを重視し、有機的な授業の在り方を目指している。特に机上の学習になりがちな、音楽理論（「和声学」、初等科音楽における「楽典」）の講義では、実際の音楽作品との関連を持たせ、それが「作曲」や「鑑賞」、また、感受の方法に結びついて行くことを示しながら、「音楽」のしくみ、成り立ちを知る事によって、より大きな音楽の魅力の発見に繋げている。「作曲法」、「指揮法」などの演習では、高い水準の指導を要求される教育現場において、学生達が臆することなく力を発揮できるよう、難度のやや高い課題を設定し、きめ細い指導を行っている。

また、指揮、指導を行っているオーケストラは音楽科の多くの学生が所属しており、日頃の授業の総括的な位置づけとなっている。

このような授業の進め方やきめ細かい指導が学生から高く評価され、平成21年度授業評価結果の点数化による序列では18名中2番に位置していることから、教育学部ベストティーチャーとして選考した。

### 3 社会情報学部における選考経緯と推薦理由

社会情報学部では、教授会において、次のような受賞者の決定方法が承認され、それに基づき受賞者を決定することとなった。

#### 【決定方法】

授業評価アンケートにおける授業内容評価（5項目）および総合評価（それぞれ4段階評価）の「教員別平均ポイント」が最も高かった教員にベストティーチャー賞を授与する。ただし、次の科目は算定の対象から除く。

- ①「社会情報学ゼミ」および「卒業研究」
- ②総合評価の回答者数が10名未満の科目
- ③複数の教員で担当する科目

#### 【受賞理由】

上記の決定方法のとおり、授業評価アンケートにおける授業評価（5項目）および総合評価（それぞれ4段階評価）の「教員別平均ポイント」が最も高かったため。

#### 4 医学部医学科における選考経緯と推薦理由

標記の推薦に関しまして、昨年度の医学科学友会授業向上委員会において実施した授業評価アンケート結果に基づき、医学科教務部会においては、医学科におけるベストティーチャー候補者として分子予防医学講師 大上厚志氏及び機能形態学講師 村上 徹氏の両教員を選出いたしました。

なお、同教員においては、昨年12月に実施した医学教育教授法ワークショップ（FD）において模擬授業を行い、医学科教員出席による授業アンケートにより、ベストティーチャー石井賞として受賞しております。

ついで、標記賞候補者として、医学科教務部会においても同者を推薦することを決定しておりますので、ここに推薦申し上げます。

#### 5 医学部保健学科における選考経緯と推薦理由

保健学科では、連続受賞者の推薦を避けるために、昨年度の受賞者を除外して、教授・准教授・講師・助教のすべての教員を候補者として、保健学科各専攻の全学生にアンケートを実施した。1名の学生が推薦できる教員数は3名以内として、ベストティーチャーにふさわしい教員氏名と推薦理由を記入してもらった。投票率を上げるために、各学年のクラス委員に依頼して回収し教務係に提出させた。

アンケート集計結果及び上位者への推薦理由を参考に教育課程専門委員会において審議した。教授会で最終審議し、上位者3名が選出された。1位は、作業療法学専攻山口昇講師、2位は、看護学専攻金泉志保美講師、3位は、理学療法学専攻（保健学科長）渡邊秀臣教授である。上記の3名を保健学科のベストティーチャー賞とした。

最終的に最も高得点を得た、作業療法学専攻山口昇講師を保健学科からの全学推薦のベストティーチャー賞に選出した。

#### 6 工学部における選考経緯と推薦理由

工学部では、ベストティーチャー賞優秀賞候補者の選抜を、次の日程で実施した。

- 平成21年10月14日 平成21年度候補者の選出学科を決定  
(旧学科：応用化学科・材料工学科／生物化学工学科  
／共通講座)
- 平成21年12月末日まで 学生投票の実施
- 平成22年2月10日 工学部ベストティーチャー選考委員会開催  
(構成員：学部長・評議員・副研究科長・副学部長・  
副評価委員長)
- 平成22年3月10日 工学部代議員会で優秀賞候補者を決定
- 平成22年3月31日 学長への推薦

## 受賞者による授業・教育方法の紹介

1. 授業名（受賞対象となるものから2科目以内）
2. 授業の概要
3. 授業で特に工夫をしている点
4. 学生に接する場合に留意している点
5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

瀬山士郎（せやま しろう）：教育学部 数学教育講座 教授

### 1. 受賞授業名

2変数の微分積分学(分野別自然科学目) 幾何学の散歩道(学修原論)遊びの数理(総合科目)  
線型代数学Ⅰ(基礎科目)

### 2. 授業の概要

2変数の微分積分学は、微分積分の概念の修得を目的とし、技術的な鍛錬を最小限にして、微分や積分とはなんなのかを直感的に掴んでもらうことを目標としている。いたずらに技術的な厳密性を追求することなく、概念を明快に理解することを心がけている。

幾何学の散歩道では、高校までにあまり触れられることがなかった、分解合同や非ユークリッド幾何、トポロジーについての知識を身につけ、数学の素養を豊かにしてもらおう。高校数学とは少し違った数学の世界が開けてもらえると嬉しい。

遊びの数理では「論理的に考えること」の雛型としての数理パズルをいくつか取り上げ、考えることの楽しさを体験して貰う。たとえ雛型であっても、単なる試行錯誤ではない論理的な考えの育成に役立てようとした。数理パズルを解くということで、達成感の育成も視野に入れ、考えるとはどういうことかを学んで貰う、と公式には言っているが、実際は知的に遊んで貰うことが目標。遊びは人生を豊かにします。

工学部学生向けの線形代数には、工学部基礎科目としての役割があるので、概念の理解と共に、線形計算の技術的な習熟も考え、なるべくたくさんの計算演習をして貰うようにしている。計算はやっただけの進歩が目に見えるはずである。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

「知識として学ばなければわからないこと」と「それまでの知識で考えればわかること」の2つの知の在り方を学生に体験して貰いたい。数学でも、知識として知らなければ答えようがない問題はたくさんある。新しい知識を学ぶことは楽しみでもあるし、それで見えてくる世界がある。しかし、数学の問題の中には「それまでの知識で考えればわかること」がたくさんある。たとえば、2の累乗は連続整数の和では表せないことは、論理的に考えれば大学生ならわかる。授業の中で新しい数学の知識を身につけて貰うことも大切だが、もっと大切なことは「考える習慣を身につけること」だ。遊びの数理ではそれを全面に出しているが、ほかの教養の授業でも、できる限り学生に考えて貰うことをモットーにしている。そのため多くの学生と問答をすること、学生の間を歩き回りながら、学生の反応をできる限りすくい取ることを心がけているが、授業は生きている。うまくいくときもあれば、落ち込むときもある。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生の視点に立って授業をみること。数学の場合、学生と教員との間には相当の知識の段差がある。自分には自明なことでも、学生にとって見れば大変なギャップかもしれない。そのことを常に忘れないように、自分が学生だった時分、何がわかっていたのか、なにがわかっていたのかをいつも心にとどめておくこと。そして、学生の些細な質問を粗末に扱わ

ないこと。レポートなどは学生に返却すること。

## 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

特にはありません。40年間の教師生活で、教える技術だけは多少はうまくなっていると思いますが、うまい授業がいい授業とは限りません。破綻がなくてもダイナミックな面白い授業はあります。多くの学生諸君が私の授業スタイルを支持してくれ、面白がってくれたことを、心から感謝し嬉しく光栄に思います。

## 勝部 太 (かつべ ふとる) : 教育学部 音楽教育講座 教授

### 1. 受賞授業名

(教養・総合科目)「オペラ概説」(後期)

### 2. 授業の概要

オペレッタの最高傑作「こうもり」(カルロス・クライバー指揮、オットー・シェンク演出、バイエルン国立歌劇場公演)。まず受講学生のオペラへの興味を高めるためにこの作品を選択。流麗で最高に美しいクライバーの指揮に酔い、洒脱で豪華な舞台を楽しむ。出演している素晴らしい歌手たちの達者な歌唱・演技を堪能する。

次に日本人にとってもっとも馴染みの深いプッチーニの「蝶々夫人」を異なった二つのプロダクションによる上演によって鑑賞する。いかに演奏者や演出の違いによって受ける印象が異なるかを学び、とりわけ天才演出家ポネルがいかに日本について深く研究し、それをこのオペラの演出に生かしているかを詳しく検証する。

学生からの要望のあったビゼー「カルメン」を最高のメゾソプラノ、アグネス・バルツァのカルメンで鑑賞した後、今をときめく人気絶頂のソプラノ、アンナ・ネトレプコがヴィオレッタを演じたヴェルディの名作「椿姫」を鑑賞。これは5年前のザルツブルグ音楽祭における新演出で話題になった公演で、その斬新で象徴的な舞台、ネトレプコという類まれな才能なくしては不可能と思われる作品の内面を深く掘り下げた素晴らしい演出で、これは本当に素晴らしく、学生たちも大きな感動を味わっている様だった。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

一回毎の授業を一つのオペラの上演と考え、学生たち(言い換えればお客さま)を退屈させないようにその構成を考えている。

例えば授業が午前中の為、学生の目を覚ます為にまずモーツアルトのオペラの音楽で授業を開始し(モーツアルトの音楽は人間の精神活動を活発にする良い効果があると言われてい)、余り理屈っぽくならない様、オペラ歌手として長年経験してきた蓄積の中から、作曲家、指揮者、演出(家)、歌手、声、言葉、劇場などに関する興味深い話を織り込みながら鑑賞させる。

ほとんどが余りオペラについて知らない学生ばかりなので彼らにとっても十分に理解でき、その素晴らしさを味わうことができると思われる演目及び演奏を十分に吟味する必要がある、この点が授業が上手くいくかどうかの分かれ道と思っている。

DVDによる映像をスクリーンで見る為(C202教室の装置は素晴らしい!)暗幕を引いて明かりを消し教室を暗くする必要があるが、その為学生たちが寝てしまう危険性がある!一作品を全曲通して全くカットなしに観賞することは時間の制約上難しいが、オペラ公演の際に休憩があるように、この授業でも段落ごとに時々明かりを点けて一息入れさせるようにしている。

観終わって明かりを点けたとき彼らが目を輝かせてうれしそうな表情を見せていたら最高にうれしい!

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

まずオペラを鑑賞し楽しむのに特別なことは何もいらぬということを伝え、この授業を

通してオペラに興味湧き、実際のオペラの舞台を観に行ってくれる学生が一人でも二人でもいてくれたらこの授業をやった甲斐があるといことを強調している。

それから学生一人一人の価値観、人生観を認め、それをもってオペラという最高の芸術を鑑賞し楽しんで良いのだということも伝えている。(オペラを理解？するのに特別な価値観が必要だと思っている学生が多い)

明かりを点けたとき、寝ている学生が多かったら私の負け！みんなの目が輝いていたら私の勝ち！と思ってやっている。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

素晴らしい作曲家・オペラ作品、素晴らしい演奏家・演出家・劇場、受講してくれた(あるいは投票してくれた)学生たちの素直で純粋な音楽に対する感受性、広い教室(C-202)と多くの受講生、素晴らしいAV機器。

以上のようなことが挙げられる。

## キース・ベアリー : 大学教育センター 外国語教育部 准教授

### 1. 受賞授業名

教養教育英語1年・2年、大学院工学研究科「論文発表技法」

### 2. 授業の概要

最近約5年間の授業のテーマは「新聞英語」と「動機付け」でした。学生はテキストブックの代わりに、学期中に朝日ウイークリーを3ヶ月間購読します。その中から、自分が興味があったニュース記事を選んで、プレゼンしたりレポートを書いたりしました。つまり、生きた英語と時事ニュースを学んで、世の中に起きていることに関心をもってもらい、それに対して何かリアクションする、それを他人(クラスメート、教員)に考えていることを伝える、ということを目指しました。学生は自分は何に対して関心があるのか分からない場合がよくあります。新聞を読むことによって自分を発見することもできればと思い授業をしていました。

※平成22年度から、テーマはScientific & Technical Englishに変更し、外国語教育部は新しい教員を迎え、教材や試験を共同開発します。今度、二人で協力し、工学部の教養英語教育に、より一貫性のある教育を目指したいきます。体系的かつ一貫性のある授業にしていくつもりです。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

とくにすごいことはやっていないと自分では思いますが、あえて、二つの点をあげると、まず一つは授業を絶えず進化させています。群馬大学に着任したときからTOEICの問題演習を、次にコミュニケーションを中心にした英会話の教科書、そして「英字新聞」を題材にしポートフォリオ学習を導入しました。

もう一つの点としては、時事英語の授業をしていた際には、準備に時間がかかりましたが、最新のニュースの題材を毎回パワーポイントを用いて、視覚からも分かりやすい授業にしました。また、朝日ウイークリーに毎号載せられるミュージックコラムで扱われる曲の一部をディクテーションさせ、音楽からの英語教育も活用しました。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

人数は多いですができるだけ学生の名前(下の名前)を覚えるようにしていました。ネームカードを作らせ、見える所に置いてもらっていました。ちょっと子供っぽい感じもしますが、授業運営に本当に効果的です。キャンパス内で学生に会うと名前でするので、コミュニケーションのきっかけにもなります。「学生の立場に立つ」が重要です。外国語を学ぶことは大変有意義ではありますが、難しいものです。学生に課題を与えるときには自分もその課題をやり、学生に見せるようにしています。学生に要求していることを自分も体験し共有

することによって学生らが課題に取り組む際、より前向きにまた課題内容を理解できた上で課題に取り組めます。それと、自分が外国語を学んできた経験は参考になります。

### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

性格はユーモラス、親しみやすい、話しやすい教員でいたい。この数年では、授業以外にもいろいろなところで群馬大学のために活動しています。例えば、工学部における現代GPのe-ラーニング教材の監修、オーディオの吹き込みを担当しました。「五大連携」への参加したり、高大連携プログラムの分科会で発表、JABEE 認定審査で授業を紹介、また知的財産教育の開講講座での通訳や知材の海外研修も受けました。ミツバコーポレーションのe-ラーニング教材を共同研究として受け入れ、完成しました。教員・大学院生のため数々の論文の英語添削をしています。重粒子センターの英文パンフレットなど多岐にわたる活動が評価されたのではと思います。

昨年、大学メディアセンターの情報倫理教育e-ラーニング教材英語版を作成しました。前後期を通して留学生や職員などの英会話ランチテーブル通称「フライデーランチャーズ」を今も継続開催しております。

## 江森英世（えもり ひでよ）：教育学部 数学教育講座 教授

### 1. 受賞授業名

数学教育概説

### 2. 授業の概要

私は、「よい授業とは学習者の自然な思考にそった授業である」と考えている。よい授業は、教師が、学習者の思考の流れを適切に捉え、学習者にとって最適の学習環境を提供できたときに成立する。それゆえ、教師は、教室で展開されるコミュニケーションの質に注意を払う必要がある。このコミュニケーションの質を決める要因は、情意と認知という2つの思考の側面である。私の授業では、まず、学生たちが安心感を持てる授業になるように心がけている。一人ひとりの学生たちが、自分がこの授業で大切にされているという安心感をもてるようになれば、学生たちは、授業に参加することを喜び、授業に積極的に参加するようになる。こうした信頼関係が構築された後は、私は、学生たちに積極的に質問を投げかけることで、教室に神聖な緊張感をみなぎらせるようにしている。適度の「ハラハラ、ドキドキ」が、学生たちの学びをレベルの高いものにすると考えるからである。

### 3. 授業で特に工夫している点

教師に求められる資質は、多種多様な教育問題に対して、自分自身で考え、自らの解決方法を見出すことができる問題解決能力である。こうした問題解決能力を育成するために、私が担当する授業では、学生たちは、知識を学ぶのではなく、考えるということを学んでいる。必要最小限の知識で、どこまで深く考えることができるのか、その深さを提示することで、学生たちは、人間の思考の深さに驚嘆し、数学教育学に興味を持つようになる。選考対象となった4年生対象の「数学教育概説」の授業では、数学教育を学ぶ者としての誇りと専門性を高めることを主眼としている。そのため、授業内容のレベルをかなり高く設定している。学生たちが、数学教育学という学問の難しさを肌で感じるとともに、学問をすることの喜びを感じられるように工夫している。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

私は、授業の中で、すべての学生が大切に扱われているという実感をもてるようにしている。特に、学生とのアイコンタクト、遅刻者や欠席者の扱い方、話し方などに注意を払っている。例えば、遅刻者や前回の欠席者に丁寧に対応している姿を他の学生にも見せることで、自分も同じように扱ってもらえるだろうという安心感を教室全体に浸透させるように心がけている。

## 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

私の授業では、学生はとても大切にされている。そして、そのお返しとして、学生たちは、私の授業の中で、実によく考え、学んでいる。90名ほどの多集団の授業においても、誰一人として話し声をあげる者も、鉛筆を動かさない者もない。学生たちは、こうした規律の取れた授業に参加しながら、みんなが真剣に学んでいるという喜びを共感している。教師がベストティーチャーなのではなく、この時間を共有している学生の真剣な学びあい、教師と学生との相互作用によって作り出される、この授業そのものがすぐれた授業になっているということを、学生たちは高く評価してくれたのだと思う。学生がベストスチューデントなのである。

## 西田直嗣 (にしだ なおつぎ) : 教育学部 音楽教育講座 准教授

### 1. 担当授業名

【学部】「和声学Ⅱ」、「和声学Ⅲ」、「指揮法Ⅱ」、「ソルフェージュⅠ」、「ソルフェージュⅡ」、「作曲法Ⅰ」、「作曲法Ⅱ」、「初等科音楽(四)」

【大学院】「音楽科内容研究D」、「音楽科内容研究D演習」

### 2. 授業概要

「作曲法Ⅱ」は日本歌曲の作曲です。期末試験では公開演奏による演奏審査を行い、教員自身も作曲し、毎回発表を行っています。その折、次年度履修予定の学生、前年度履修済みの学生が聴講し、講評します。日本歌曲は教員が選ぶ課題詩と受講生が選ぶ自由詩の2曲の作曲を課しています。授業はまず詩の探索から始まり、詩、楽曲の分析を交えながら、テキストの読み取り、日本語の扱い、旋律や和音の設定、楽曲の構造についての講義と個人レッスンをしています。

「初等科音楽(四)」は、「小学生を超えなければ小学生を教えられません」をスローガンに掲げ、楽典(基礎音楽理論)を中心に行っています。楽典の講義では記譜法、音程、音階、和音、形式について順に進めて行きますが、裏付けされた理論が楽曲(教材)の中でいかに生かされているかという事を実演や鑑賞を交えながら理解させることを目的としています。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

#### 【専門科目】

本学部は教員養成学部であり、それを踏まえた授業を行う事を心がけてはいますが、小、中等音楽教育が日本の音楽文化の発展に多大な影響力を持つことは間違いなく、その根幹を担う音楽の教員に必要な音楽能力を身につけさせる事が、私が行っている授業の持つ最大の役割であると考えています。音楽理論の授業では机上の学習活動に終止することなく、それらが音楽作品に、我々の感受性に、また生活自体に如何に結びついているかを解き明かす事を常に念頭においています。また、鑑賞、演奏、創作のそれぞれの立場からアプローチさせ、濃密な関係を築かせることによって、音楽活動においてコミュニケーションが重要な役割を担っている事を体感させるよう努めています。そしてそれらが「適当」、「なんとなく」に陥ることなく丁寧に作り上げるよう「めんどくさい」を禁句(禁忌)に掲げながら指導しています。

#### 【教職科目】

理論中心の授業ではありますが、その都度実演を行い、理論を知ることにより音楽自体の魅力新たに発見し感受できるよう考えています。また、音楽という教科の必要性を理解させ、生活の中に無くてはならない存在としての音楽を提示するとともに、学生達自身に音楽に興味を持つきっかけを授業の中で与えたいと思っています。それは魅力を知らない人間が魅力を伝える事はできないという考えに基づいています。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

いかなる態度に対しても、感情的にならぬ事。学生の質の良さに甘えないこと。自分の学生時代を振り返るよう努め、世代、立場の違いにより学生と対峙しない事。教授する内容にできるだけ学生達の生活との共通点を見いだすこと。問いかけること。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

専門科目においては、音楽科の学生の殆どが、私が指揮を務めるオーケストラに入っており、日頃から学生と接触する機会が多いことが起因していると考えられ、授業云々の問題ではないように思います。初等科では教授する内容が教員採用試験や就職試験の教養に直接役だっていることが考えられますが、内容が難しいためか、少しずつ履修者が減っているため受賞に相応しいかどうか疑問です。

### 田代亜紀（たしろ あき）：社会情報学部 情報社会科学講座 准教授

#### 1. 受賞授業名

憲法Ⅰ（人権）、憲法Ⅱ（統治）

#### 2. 授業概要

憲法Ⅰ（人権）：日本国憲法が保障する基本的人権とはいかなるものかを学びます。基本的人権は、人間に固有の権利であり、人種や男女、年齢などの相違を問わず保障され、「侵すことのできない永久の権利」（憲法97条）と規定されています。その基本的人権の内容と限界について、学説を理論的に学びつつ、判例を題材として具体的に把握します。

憲法Ⅱ（統治）：国会、内閣、裁判所について学び、日本国憲法が規定する基本的人権は、制度上どのように保障される仕組みになっているか、日本の統治体制がどのように運営されているかの知識を身につけます。地方自治については、国レベルの統治と地方レベルの統治がどのように異なるか、民主主義との関係で学びます。

#### 3. 授業で特に工夫をしている点

憲法の勉強は、抽象的な議論になることも多いため、できるだけ具体的な事例や学生にとって身近な例を出すことで、理論と現実を近づけるイメージを持ってもらうようにしています。同時に、学問と現実のギャップを感じることで、学問が現実社会のなかでどのように位置づけられるかを、学生自身に考えてもらいたいと思っています。法律学は、人間の社会生活に密着したものであり、人権とそれを担保する統治制度が如何に重要なものであるかを訴えています。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

どの講義でも、説明する際に、説明していることの学問的意義を話すようにしています。授業で説明していることが、どうして学問的に重要なのか、面白いのかを話し、学生自身がその問題を発展的に考える余地を残せるように心がけています。

できるだけ、教室全体を見回し、学生それぞれに話しかけるような気持ちで講義をしています。時には、くだけた感じで話しかけ、教室の空気がなごやかになるようにすることもあります。

大学生は大人だと考えていますので（または、そうであってほしいので）、対等な関係を築けるようにしています。もちろん、授業中の私語を注意する事もありますが、基本的には丁寧な対応を心がけています。

質問には、丁寧に答えつつ、学生自身の考え方も聞き、議論するようにしています。答えが出にくい学問なので、最終的な答えは学生に委ねるようにして、学生自身の思考をサポートしつつ尊重しようとしています。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

授業は聞いていて面白い事ばかりではないと思いますが、この専門分野を好きになって研

究対象としている私自身が、この勉強をどのように面白く思って研究しているかについて熱く語っていることを学生が受入れてくれたのかもしれませんが。そうであれば、とても嬉しいですが、確証はありません。

## **大上厚志 (おおうえ あつし) : 医学系研究科 生体防御機構学講座 分子予防医学 講師**

### **1. 受賞授業名**

「レトロウイルスとがん遺伝子」

### **2. 授業の概要**

ウイルスが増殖するためには、寄生する細胞が必要です。細胞に感染して、子孫ウイルスが産生されるまでをウイルスのライフサイクル（生活環）といいます。ライフサイクルを大きく3つに分けると、(1) ウイルスと細胞の結合、(2) 細胞内でのウイルス複製、(3) 子孫ウイルスの細胞からの放出になります。エイズの原因の HIV-1 に代表されるレトロウイルスのライフサイクルには、他のウイルスには見られないステップも存在しています。講義では、レトロウイルスはどのような特徴をもったウイルスかを理解することを目的としています。そのためにレトロウイルスのライフサイクルを中心に内容を進めています。さらに歴史上、レトロウイルス研究は、分子生物学の発展、遺伝子治療への応用、そしてがん遺伝子の発見と密接に結びついています。講義では、これらとレトロウイルスとの関連についてもふれていきます。

### **3. 授業で特に工夫をしている点**

上記ウイルスのライフサイクルは、初期から後期過程へと続いています。そのようなウイルスの一生の理解には各ステップを個別に見ていくのも大切ですが、全過程を連続してみたほうがよいと考えています。そこで、参考図書に付属の動画を講義で使用させていただいています。動画の使用によって、ウイルスと細胞の空間的・時間的な相互関係を理解する助けになると思っています。実際、学生さんのなかには動画によって非常に理解しやすいという意見もありました。また、講義の内容と関連のある最近の話題（新聞にもとりあげられるような）も含めて、興味をもってもらえるように工夫をしています。

### **4. 授業で学生に接する場合に留意している点**

話しは、なるべくゆっくりするように心がけています。特に重要な点などは、繰り返す等して強調しています。プリントも後から見直ししやすいようにし、学生さんから質問があった項目については、次回のプリント作成時に意識して、加筆・修正するようにしています。

### **5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点**

わかりやすい授業をこころがけている点が評価されたのではないかと思います。なかなか他の先生がどのような講義をなさっているか知る機会はないのですが、これまで医学部 FD で模擬授業を拝見させていただいてきたのが、自身の講義を行ううえで非常に参考になっていると思います。

## **村上 徹 (むらかみ とおる) : 医学系研究科 器官機能制御学講座 機能形態学 講師**

### **1. 受賞授業名**

解剖学

### **2. 授業の概要**

解剖学の授業、全 12 週（約 250 時間）は、系統解剖学の講義と肉眼解剖学実習から成っており、後者が授業の大半を占めています。週毎にその週の実習内容を説明する講義もあり、その 1 つ、実習第 8 週の説明の講義を模擬授業で紹介することにしました。

この週から翌週にかけての実習で解剖するのは下肢です。そこでこの授業ではまず、下肢を定義し、その主な機能が運動すなわち直立と歩行であることを確認します。続く内容は、運動を理解するための解剖学的基礎です。下肢の関節運動を定義した後、歩行時の各部の動作を解析的に示します。それぞれの動作のための筋や神経を示し、知識整理のコツを紹介し、関連する臨床医学のトピックも入れます。注目すべき構造や、解剖手技で注意すべき点も随時示します。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

私の主に担当する解剖学は、医学科のなかでも特に学習量や作業量の多い科目の一つであり、学生は12週の期間中、連日朝夕を通して講堂や実習室で学びます。押し寄せる知識に、考える間もなく混乱に至る者も少なくありません。しかし解剖学は医学教育の最も基礎を成す科目の一つですから、疎かにはできません。

そのため、私は、学生が知識を自ら考察・整理して身につけることと、学習へのモチベーションを惹起することを目安に、教育を工夫してきました。要点をまとめたプリントを用意し、授業では詳細にとらわれず大局的なパースペクティブを提示するようにしています。一方、学生に解剖学を学ぶ目標や意義を示すため、解剖学の知恵が役立つような実際の診療事例を授業に取り入れています。図やムービーを利用して印象に残るプレゼンテーションを制作し、そのための新しい機器もトライしています。また、授業に関する情報をブログ<<http://anatomy.dept.med.gunma-u.ac.jp/>>やメーリングリストで配信するなど、コンピュータやインターネットも活用しています。反対に、板書だけの授業を試みるなどして、それぞれの効果を評価するなどもしています。授業後には学生にアンケートをとってフィードバックを得、次年度の授業に反映するようにしています。

平成21年度には、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムに、我々の「人体解剖とCTの統合による先駆的医学教育」<<http://anatomy.dept.med.gunma-u.ac.jp/ct/>>が採択されました（平成23年度まで）。各履修生に1台ずつ iPod touch を貸与し、それを使って解剖体とCT画像とを比べながら学習できるよう計画しています。世界に類をみない取り組みであり、成果を期待しています。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

解剖学実習では長時間にわたり直接個別に指導するため、どのように対応するかが授業の質に大きく影響します。(4)と同様、学生が自分で観察し考えることを身につけられるよう留意し、教えずぎないように、解剖操作でも手を貸しすぎないように注意しています。医学科の学生は入学時にはいずれも成績優秀であることを尊重し、甘い出題や評価は控えています。一方で、受験勉強で身につけた学習方法が解剖学の授業に通用せず困惑する学生もおり、学び方やまとめ方の手本を示すこともあります。

### 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

(4)で言及したアンケートによれば、解剖学を担当する教員はいずれも高評価を得ます。困難な授業に真摯に取り組んできた結果と自負しています。その代表として私が受賞したのだと考えています。

## 山口 昇 (やまぐち のぼる) : 医学部保健学科 作業療法学専攻 心身障害作業療法学 講師

### 1. 受賞授業名 (担当授業科目)

(詳細は分かりませんが、おそらく下線を引いた授業が該当)

身体障害作業治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 感覚運動評価学, 運動学Ⅰ, 日常生活活動学・同実習, 機能代償学, 作業療法評価学実習, 作業療法学概論, 地域作業療法学各論, 地域作業療法学演習Ⅰ, 作業治療学実習, 作業療法管理論, 作業治療学特講, 原書講読Ⅰ

## 2. 授業の概要

作業療法の4領域（身体障害、精神障害、高齢期障害、発達障害）の内、身体障害作業療法領域は従事している作業療法士の数が最も多く、臨床実習でも学生は必ず経験しなければならない領域であり、学生の将来にわたっても関わりの深い領域である。この身体障害作業療法について対象者（患者）の評価から治療法までの授業を一貫して担当している。心身機能の検査・測定法から各種疾患に対する作業療法までかなり幅広い内容をカバーしている。また、身体障害に対する治療法だけでなく、運動学や日常生活活動学、機能代償学とも関連させながら授業を行っている。

## 3. 授業で特に工夫をしている点

学生がどうしても覚えなければならない部分もあるが、それ以前になぜ記憶しなければならないか、あるいはなぜ・何を学んでいるかなど、学生が迷わないよう学習内容を俯瞰させたり、背景を解説したりする機会をできるだけ設けるようにしている。

## 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

カリキュラム上、実技の時間が十分取れないが、学生が空き時間を使って自主練習を行っている場面になるべく参加して実技指導を行ったり、随時質問に答えるようにしている。

## 5. ベストティーチャー賞を受賞した理由として思い当たる点

自分自身としては、当たり前のことを当たり前のように行っているつもりであり、特に理由として思い当たる点はないが、あえて挙げれば以下の2点だと思われる。

作業療法学専攻は、他専攻と比べて臨床実習が厳しいとの評判がある。特に、身体障害作業療法領域の実習は、ほとんどの学生が経験しなければならない領域であるため、授業に対する学生の参加意識が高いと思われる。授業においても、なるべく臨床場面や臨床実習と結びつけた内容を構成し、実施するようにしている。学生のニーズに合致した実践を重視した授業であることが最大の理由であると思われる。

また、上述したように学生の自主学習になるべく参加し、付き合うようにしていることも理由の1つであると考えている。

## 天羽雅昭（あもう まさあき）：大学院工学研究科 情報工学専攻 情報工学 教授

### 1. 受賞授業名

学生が実際に履修した全ての本学部専門教育科目が対象授業である。

主な担当科目として、ベクトル解析、微分方程式演習、複素解析などがある。

### 2. 授業の概要

#### ○ベクトル解析

ベクトルの基本から始めて、勾配・発散・回転などの微分概念および線積分・面積分などの積分概念について詳しく解説してから、それらを総合してガウスの発散定理・ストークスの定理などの基本定理を定式化する。さらに、基本定理の物理への応用について述べる。

#### ○微分方程式演習

常微分方程式の解法を中心にして、講義と演習を行う。主に、変数分離形・同次形・1階線形・完全形などの1階方程式および高階線形方程式を扱い、ラプラス変換を用いる方法も含めて、出来るだけ多くの解法を紹介する。

#### ○複素解析

複素数の基本から始めて、複素微分の概念とその性質（コーシー・リーマンの関係式など）および複素積分の概念とその性質（コーシーの積分定理・積分公式など）について詳述した後、留数解析への応用について解説する。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

学生が教科の内容についてはっきりしたイメージを描き、具体的な問題が解けるようになることを手助けするために、以下のようなことに注意しています：1) 主要な定義の導入を丁寧に行い、それに引き続く定理を明確に定式化する；2) 証明は、定理の真偽性を確認するためというより、その内容をよりよく理解するための手段と考え、本質的なアイデアを伝えることに重点を置く。それにより、学生が定理を「機械的に覚える」ことがないように心掛けている；3) 具体的な例題を、時間の許す限りできるだけ多く扱う。その際、易しいものから難しいものへと段階を踏み、無理なく理解できるよう考慮している；4) 講義の中で演習の時間を設けるようにしているが、それができないときにも適切な宿題を出し、次回の講義の最初に詳しく解説するようにしている。

また、数学の面白さ・数学的に考えることの面白さを伝えたいと常に思っているため、この定理のどこが面白いのか、この考え方のどこが数学的なのか、といったことを折に触れて話すようにしています。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

こちらにとっては慣れ親しんだ教科でも、学生にとっては初めて接する内容であることを忘れないようにしています。そのために、何度も教えた教科でも、担当する度に授業の組み立てや説明の仕方を検討し直し、学生の新鮮な勉学意欲に答えられるよう準備しています。実際、検討し直すことで新たな発見もあり、そのことが、授業をする側としてもモチベーションを向上させることにつながっています。

学生の「理解したい欲求」こそが授業を推進するエネルギー源なので、それを最大限に生かしたいと思っています。従って、いかなる質問であれ、学生からの質問は大切にしています。「先生、その計算間違ってますか？」という質問でも・・・）質問に答えること、さらに言えば、質問を元に学生と一緒に考えることは楽しい行為であり、それを通じてお互いのステップアップを目指したいと考えています。

### 5. ベストティーチャー賞を受賞する理由として思い当たる点

項目[4]と[5]で述べたことがある程度うまく機能し、その結果分かりやすい授業として評価されたのでしょうか。その他に、院試受験者も含め、研究室に質問しに来た学生に対しては、担当している授業・担当していない授業の区別なく、その都度丁寧に接していることも、評価に影響を与えているかも知れません。

## 原野安土（はらの あづち）：大学院工学研究科 環境プロセス工学専攻 准教授

### 1. 受賞授業名

学生が実際に履修した全ての本学部の専門教育科目（卒業研究を含む）が対象授業である。主な担当科目として、卒業研究のほか、物理化学Ⅰ、分離工学Ⅰなどがある。

### 2. 授業の概要

#### ○物理化学Ⅰ

学生が学ぶ最初の専門科目として、エネルギーの保存則や系の安定性（平衡）がどのような論理で記述されているかを学生が把握することを目標とし、専門分野における厳密な論理立てと現象の記述の出発点となることを期待して授業を進めている。具体的な授業内容は

- ・熱的平衡と温度の概念の理解
- ・熱力学第1、2、3法則の理解
- ・自由エネルギーの導入とその意味の理解
- ・化学反応と熱力学の関係の把握

を中心に行なっている。

## ○ 分離工学 I

化学プラントを設計する際に単位操作の考え方は非常に重要である。その中でも分離に関する単位操作は工学的に体系化され、使いやすい形となっている。本講義では単位操作の概念を分離操作を通じて学ぶことを目的として授業を進めている。内容は拡散的単位操作の中で、蒸留、吸収、吸着操作の原理を習得し、分離プロセスの設計を行うための手法を学ばせている。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

授業でもっとも重要なことは学生に自己学習をするきっかけを与えることと考えている。しかし、この難題は簡単に解が見つかるものではなく、毎年の学生の反応を見ながら、効果的な方法はないかと手探りで授業を進めている段階である。

学部での講義で最も工夫している点は、講義では学生になるべくわかりやすいように説明し、わかったような気をさせておいて、演習で若干骨のある問題を解かせることで、十分理解していないことを認識させる。最初からあまり難しくしてしまうと学生が引いてしまうし、逆に、わかり易くすると、解った気になって自己学習をしないため、まったく理解しないまま自己満足で終わってしまう。このさじ加減がとても重要である。新学科のカリキュラムから環境プロセス工学科では、従来の大学教育で行なわれていた担当教員が講義と演習授業を一貫して行ない、学生からのフィードバックのかかった授業を開始した。具体的には物理化学 I では環境プロセス工学演習 I とタイアップして、講義と演習を合わせた形式で全体の授業を計画し進めている。その他、工夫している点は以下のようなものである。

- ・オリジナルテキストを使用するが、このテキストは空欄や空白が多く、常に授業中に理解したことを記入できるようになっている。また、授業に使用するスライドの内容の 1/2 程度を掲載しているが、1/2 程度は自分でスライドを見ながら写すようにしている。
- ・授業中の説明は必ず 2 回反復するように努力している。1 回目は注目させるようにし、2 回目はゆっくりと説明するように努力している。少しくどいとも自分では思っているが、この程度が良いようである。
- ・飲み物は持ち込み可で（食べ物は不可）、リラックスしたムードで授業ができるようにしている。
- ・授業途中に 5 分休憩を設けている。これにより、集中力の維持ができ、寝ている学生も休憩時間中に復帰することが多い。
- ・試験に関しては工夫している点は、A4 用紙の持込を許可している点で、学生は試験のためにびっしり A4 に試験対策を書き込んでくる。それを作るためにずいぶん時間を割いており、これも勉強のうちと考えている。
- ・授業前 30 分に今日話す内容の予習を行っている。授業中はなるべく余談は少なくして授業内容のみ行うように努力している。

### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

最も留意している点は、なるべく普段すれ違った学生に声を掛けることである。やはり、コミュニケーションが基本であり、それを大切にすることでお互いの信頼関係が生まれ、授業中に解らない点などを素直に質問できる雰囲気があると考えている。その他に学生と接するときに留意している点は以下のようなものである。

- ・演習を行う際は、教壇から降り、歩き回って、学生の回答を見ることにより、学生の理解度を確認し、話しかけることにより、質問ができる雰囲気をつくっている。
- ・質問はなるべく受け付けるが、何がわからないかはっきりしない場合は、何がわからないかはっきりするまで自己学習するよう突き放している。
- ・なるべく全体の学生を見回すように講義をし、あまり学生にプレッシャーを与えないようにしている。

### 5. ベストティーチャー賞を受賞する理由として思い当たる点

私自身が群馬大学出身で大学を何度も辞めようと思った経験がある。そのとき、穏やかな

先生の面談によって自分は救われたため、できない学生については、なるべく細やかに指導しようと考えている。このような点がたぶん学生にアピールしたのだと感じている。

群馬大学には土地柄ゆえの精神的ゆとりと学生と教職員、学生同士の触れ合いを大切にしたい人間味溢れる教育がある。人間性豊かな何事にも前向きに取り組める学生を育てたいという熱意が、少しでも学生に伝わっていると理解したい。

## 海野雅史（うんの まさふみ）：大学院工学研究科 応用化学・生物化学専攻 機能材料化学 教授

### 1. 受賞授業名

実際に学生が履修した全ての本学部教養ならびに専門教育科目が対象である。主な担当科目としては、化学（1年）、有機化学1（1年）、有機化学2（2年）、有機構造化学（3年、夜間4年）、技術英語（2年）、特別講義（2年）、学修原論（2年）などである。

### 2. 授業の概要

#### ○化学

1年次の最初の講義であることを考慮し、まず、暗記に頼らず理解をすることで知識を発展させる勉強のやり方を徹底させる。その上で、化学や物理に興味を持てるように、また、大学での勉強が楽しいものであるように、高度に専門的な話も交えながら、とにかく分かりやすい講義を行っている。内容的には、高校の化学を総括した上で教養レベルの内容を盛り込み、高校で化学2を履修していない学生にとってもついていけるようにしている。

#### ○有機化学1、2

専門科目として、研究に最低限必要な内容について、わかりやすく講義を行う。有機化学1、2、3で全ての範囲を網羅し、有機化学演習で理解をさらに深める講義システムをとっている。新学科において、生物を主分野とする学生も入学してくるため、少しレベルを落とし、高度な内容については4年、大学院の講義で触れるようにしている。

#### ○有機構造化学

化合物を合成、単離して、その構造を確認するため必要なスペクトルの解釈や、立体的な構造をどのように区別するかをまとめて講義する。本科目は選択科目であり、特に有機系を志望する学生以外にとっては、直接研究に役立つものではないが、ほぼ全員（180名以上）の履修があった。

#### ○技術英語

本科目は工学部で施行されていた現代GPの一環として、企業から講師を招聘し、英語でプレゼンテーションを行うことを目的として行われた。講義の前半では、わかりやすく間違いのない英文を書くトレーニングを行い、後半ではグループに分かれて決められたテーマに関して調査をし、スライド並びに原稿を英語で作成し、発表する。特に、学生同士で評価を行うことで、色々な視点から自分の利点、欠点を把握できると好評であった。化学系では実際に、大学院において国際会議で発表することが平均して年間1件程度あり、この講義はそのための良いトレーニングとなっている。

#### ○特別講義

本来研究内容を紹介する講義であるが、特にこれから科学者として活躍することを期待される学生のため、温暖化に関する研究を例にとり、「科学者であるためには」というタイトルで、実験結果またはデータに基づいた論理的思考による結論の導入が重要であることを説いている。

### 3. 授業で特に工夫をしている点

もともと今の学生はよく勉強するし、昔に比べて意欲も高い。従って、正しいガイダンスに興味を持つようにすればほとんどの学生が良い成績をとることが出来る。問題は、講義をつまらなく感じること、将来必要になるような内容とは思えなくなることが意欲を減退さ

せることである。今の学生は入試のために、特に化学や生物は暗記に頼って勉強してきたため、新しい事を知る楽しさ、理解出来てそれが応用出来ることの楽しさを知らない場合が多い。全ての講義において、まず、暗記に頼らず、基本的な（有機化学ではそれほど多くない）性質を基にして、全ての反応が理解できることを教える。

また、学期は長く、レポートや講義の多さによって学生が疲弊してくることもある。そのような場合のリフレッシュとなるように、たとえば、アニメーションで化学式を表示したり、実際にカリフォルニア大学バークレー校で行われている有機化学の講義を視聴させたりして変化をつけている。また、学生の書き取りに遅延がないよう、基本的にパソコンに手打ちで書き込んだものを筆記させている。黒板に書くのと同様、学生と同じ操作を教卓でも行っているため、講義が早すぎてついていけないということはないと思う。

#### 4. 授業で学生に接する場合に留意している点

学生には色々の勉学のレベルがあるので、どのあたりをターゲットのするのが難しいこともある。私の講義では基本的に全ての学生が理解出来る、つまり一番下のレベルを想定し講義を行っている。15年ほど前に初めて、有機化学演習で習熟度別クラス編成を行った（以来現在まで継続されている）そのときに分かったことは、内容が簡単すぎるからと怒る学生はいないことである。彼らにとって、講義が分かりやすいということは試験で良い成績がとりやすいことであり、高度な内容については卒業研究から大学院で学ばばいいということであろう。

また、講義は聴くだけの一方通行では、分かっていたつもりでも理解出来ていないことも多い。講義の最後に、簡単な問題を出し、5分以内でそれを解かせることで、今回の講義がきちんと理解出来ているかどうかを確認させている。また同時に、その解答用紙に質問があれば書かせ、次の講義の時に質問に対する回答を全員の前で行っている。学生にとって見ると一対多の関係ではなく、一対一で会話出来るため、よりきちんと指導を受けている（という気分になっている）ようである。

#### 5. ベストティーチャー賞を受賞する理由として思い当たる点

化学系では、専門教育の理解が足りないことは卒業研究、大学院の研究において、研究進展の齟齬に直接つながるため、各講義をかなりきっちりと行っている。従って、私の講義が特に他の先生のものに対して優れているとは言えず（また、より若い先生のようにエネルギーと意欲にあふれているとも言えず）、理由として考えられるのは、受講した学生の数が多かった、ということによるのであろう。

あとは、有機化学以外の分野に進んだ学生にとって、有機化学が理解出来た、と（勘違いでも）思うことが自信の一つになっていること、あるいは、国際会議できちんと応対が出来たことが（個人の實力と努力の賜なのであるが）、学部でプレゼンの講義を受けたためであると勘違いしている事などが理由であろうか。

講義の中では、折に触れて学生の将来設計に対するアドバイスを行っている。単に国際会議の写真やアメリカでの研究生生活を写真で紹介しているだけだが、私の講義を聴いて、ポストで海外に行くことを決心しました、と学生に言われることもあるようになり、化学や英語以外の部分で、印象に残っていることもあるのだろう。

## 受賞者のプロフィール

### 瀬山士郎（せやま しろ）：教育学部 数学教育講座 教授

1946年1月、群馬県富岡市に生まれる。中学校まで高崎市で過ごす。都立高校を経て、1964年4月旧東京教育大学理学部数学科入学、1968年同大学大学院理学研究科修士課程入学、1970年3月修了、同年4月群馬大学教養部講師となる。同助教授教授を経て、1993年教養部廃止に伴い教育学部に移る。現在群馬大学教育学部教授。

専門は位相幾何学。大学院時代は高次元の結び目の研究をしていたが、近年はグラフ理論について学んでいる。教養部着任後、大学初年次を含む数学教育にも関心を持ち、数学教育協議会に参加、多くの現場の先生方と数学教育についての研鑽を積んでいる。現在数学教育協議会副委員長。

著書「トポロジー 柔らかい幾何学」(日本評論社)「はじめての現代数学」(ハヤカワ文庫)「基礎の数学」(朝倉書店) 絵本「ぐにゃぐにゃ世界の冒険」(タイガー立石・絵 福音館書店)「計算のひみつ」(さえら書房) 他



### 勝部 太（かつべ ふとる）：教育学部 音楽教育講座 教授

1949年長崎県長崎市生まれ。1976年東京藝術大学大学院音楽研究科声楽独唱専攻修了。文化庁オペラ研修所第1期生修了。

1979年文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンに留学。第45回日本音楽コンクール声楽部門第1位。第7回、第19回ジロー・オペラ賞受賞。第1回出光音楽賞受賞。東京藝術大学非常勤講師、東邦音楽大学総合芸術研究所教授を経て、1999年より本学教育学部教授。

1976年「カルメン」のエスカミーリョでデビュー。翌年「蝶々夫人」シャープレスで一躍注目を集め、モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」タイトルロールを見事に演じ絶賛される。その後「ラインの黄金」「ワルキューレ」「ジークフリート」のヴォータン、アルベリヒ、「タンホイザー」のヴォルフラム、「ニュルンベルグのマイスタージンガー」のコートナー、「ファルスタッフ」のフォード、「カヴァレリア・ルスティカーナ」のアルフィオ、「フィガロの結婚」の伯爵、「魔笛」の弁者、「こうもり」のファルケ、「ヴェニスに死す」(日本初演)のバリトン7役、「欲望という名の電車」(日本初演)のスタンリー・コワルスキー等、また邦人作品ではオペラ「ちゃんちき」の狐のおとっさま、「金閣寺」(日本初演)の溝口、「沈黙」(世界初演)のキチジロー、新国立劇場開場記念公演「建・TAKERU」の同伴、『遠い帆』の支倉常長、「スサノオ」(世界初演)のタイトルロール等、重要な役を次々に演じた。また、数多くのコンサートでも国内外の著名な指揮者、オーケストラと協演。歌曲の分野でも常に高い評価を受け、特にドイツリートの第一人者として知られている。二期会会員。



## キース・ベアリー（きーす・べありー）：大学教育センター 外国語教育部 准教授

アメリカオクラホマ州タルサ市出身。1988年にタルサ大学教養学部外国語・文学学科（スペイン語専攻、フランス語副専攻）を卒業しましたが、当時アメリカは大変不景気な時代で就職先はなく Japan Exchange & Teaching Programme (JET プログラム) に応募し「英語指導助手」として来日。京都府亀岡市の中学で英語指導したあと、立命館大学と京都大学の大学院を経て、オクラホマ州立大学及び、京都学園大学にて非常勤講師として在籍し、平成14年に群馬大学工学部に講師として赴任。平成19年に大学教育センターに異動し、同20年に外国語教育部の准教授に。好きなことはいろんな外国語を学ぶことです。英、仏、独、西、日本語、中国語など今まで習ったことばは5カ国語以上です。



## 江森英世（えもりひでよ）：教育学部 数学教育講座 教授，タイ王国コンケン大学客員教授

博士（教育学），1959年東京都生まれ。埼玉県立高校の教員を6年間，その後同職を退職して，筑波大学大学院博士課程教育学研究科にて数学教育学を学ぶ。関東学院大学工学部助教授，宇都宮大学教育学部助教授，群馬大学教育学部准教授を経て，2009年4月より現職。タイ王国コンケン大学客員教授。博士（教育学）。専門は数学的コミュニケーション論。主著に「数学学習におけるコミュニケーション連鎖の研究（風間書房，2006）」がある。主な社会的活動として，文部科学省学習指導要領改訂協力者会議委員（中学校数学：平18.7～平22.3）がある。数学的コミュニケーション論という新しい研究領域を開拓した功績が認められ，2010年1月に出版された The Marquis Who's Who in the world 27th Edition, 2010 (p.743): Marquis Who's Who LLC, New Jersey, U.S.A. に biographee として選考される。また，2000 Outstanding Intellectuals of the 21th Century, 6th Edition, 2010: International Biographical Center, Cambridge, England ならびに，The Marquis Who's Who in the world 28th Edition, 2011 にも biographee として選考が内定している。2007年5月，第1回群馬大学ベストティーチャー賞最優秀賞受賞。



## 西田直嗣（にしだ なおつぎ） ：教育学部 音楽教育講座 准教授

1968年岡山県倉敷市生まれ。1992年東京芸術大学音楽学部作曲科を首席で卒業。1995年東京芸術大学大学院音楽研究科作曲専攻修士課程修了。2001年群馬大学教育学部講師を経て、2006年より准教授。

専門は作曲・音楽理論。東京芸術大学在学中に安宅賞受賞。第1回東京室内楽作曲コンクール第一位。第61回、65回日本音楽コンクール、第10回吹田音楽



コンクールに入賞。第 60 回、62 回日本音楽コンクール、第 13 回奏楽堂日本歌曲作曲コンクール、現音新人賞に入選。昨年第 17 回日本歌曲振興会日本歌曲作曲コンクールにおいて、2 作品がそれぞれ最優秀賞と優秀賞を受賞。本年、みどり市の市歌を作曲。近年は日本歌曲、合唱曲を中心に作曲を行っています。(社)日本作曲家協議会、(社)日本歌曲振興会会員。

2008 年より毎年群馬大学大学入学式の奏楽を行っているオーケストラ「群馬大学教育学部音楽科シンフォニカ」の指揮を務め、同大学医学部主催の献体慰霊祭では 2007 年から同年作曲した鎮魂歌「こころ」が毎年歌われています。

### **田代亜紀 (たしろ あき) : 社会情報学部 情報社会科学講座 准教授**

1976 年千葉県生まれ。2004 年東北大学大学院法学研究科博士課程修了。博士 (法学)。

日本学術振興会特別研究員を経て、2006 年に群馬大学社会情報学部講師、2010 年より同准教授。

これまでに、宮城学院女子大学、東京学芸大学、山形大学、東都医療大学、法政大学、前橋工科大学などで非常勤講師を務めた。2004 年東北大学男女共同参画奨励賞 (沢柳賞) 研究部門特別賞受賞。

専門は日本国憲法。主著・主論文は、「憲法解釈とフェミニズムの視点」齋藤豊治・青井秀夫編『セクシュアリティと法』(東北大学出版会)、「平等」辻村みよ子編著『基本憲法』(悠々社)、「リベラリズムとフェミニズムの対話可能性 - ポルノグラフィをめぐる議論についての一試論 (1) (2・完)」など。



### **大上厚志 (おおうえ あつし) : 大学院医学系研究科 生体防御機構学講座 分子予防医学 講師**

昭和 62 年山口大学農学部獣医学科、同大学院農学研究科修士課程を経て、平成元年東京大学大学院医学系研究科博士課程に進学しました。修士課程、博士課程における研究テーマは、それぞれ「神経病誘発マウス白血病ウイルスの分子クローニング」、および「精巣特異的タンパク質リン酸化酵素の解析」でした。平成 5 年に群馬大学医学部衛生学教室に助手として着任後今日まで、HIV-1, HTLV-I などのヒトレトロウイルスの感染機構の研究に従事させていただいております。また、平成 11 年より 2 年間、米国国立がん研究所での留学機会を与えていただきました。自分では決して講義が上手などと思ったことはありませんが、10 年ぐらい前から Powerpoint によるプレゼンテーションを用いるようになってから、プリント内容をずいぶん学生さんに伝えやすくなったように思います。



## 村上 徹 (むらかみ とおる) : 大学院医学系研究科 器官機能制御学講座 機能形態学 講師

群馬大学医学部医学科を卒業後、同大学院医学研究科を修了して、博士（医学）の学位を取得しました。その後、同医学部医学科（現 大学院医学系研究科医科学専攻・医学部医学科）において、助手、後に講師として、細胞生物学の研究と解剖学教育に携わってきました。途中3年間、米国ペンシルバニア大学において発生生物学を学び、帰国後はその研究を継続しています。現在の主な担当科目は、解剖学、生命医学Ⅰ、人の成長と発達（いずれも分担）です。



## 山口 昇 (やまぐち のぼる) : 医学部保健学科 作業療法学専攻 心身障害作業療法学 講師

1972年 鹿児島大学法文学部文学科卒業 文学士  
1980年 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院 作業療法学科卒業  
1980年 作業療法士免許取得  
(以後、東京大学医学部附属病院, 専門学校社会医学技術学院, 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 石心会狭山病院, 東京YMCA医療福祉専門学校を歴任し臨床および学生教育に従事)  
2006年 群馬大学医学部保健学科作業療法学専攻 助手 (9月)  
2007年 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修士課程修了 修士 (保健学)  
2007年 群馬大学医学部保健学科作業療法学専攻 講師 (4月～)



## 天羽雅昭 (あもう まさあき) : 大学院工学研究科 情報工学専攻 情報工学 教授

昭和34年2月6日生まれ

### 【学歴】

- ・昭和57年3月 東京理科大学理学部数学科卒業
- ・昭和59年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
- ・平成2年3月 東北大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学
- ・平成3年2月 理学博士 (東北大学)

### 【職歴】

- ・昭和60年10月 一関高等専門学校非常勤講師
- ・昭和63年4月 日本学術振興会特別研究員
- ・平成2年6月 群馬大学教養部講師
- ・平成5年10月 群馬大学工学部講師
- ・平成13年2月 群馬大学工学部助教授
- ・平成15年4月 群馬大学大学院工学研究科准教授
- ・平成21年4月 群馬大学大学院工学研究科教授 (現在に至る)



### 【主要な研究内容】

ディオファンタス近似の観点からの超越数の分類、測度論の観点からの超越数の性質、ある種の関数方程式をみたす解析関数の特殊値の数論的性質、などについての研究。

## 原野安土 (はらの あづち) : 大学院工学研究科 環境プロセス工学専攻 准教授

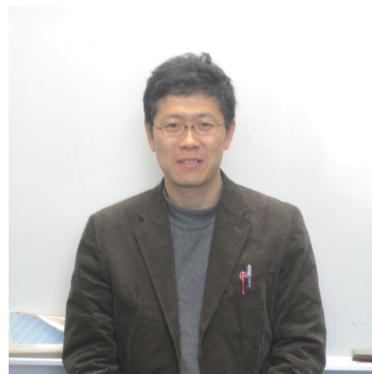
昭和 38 年 7 月 20 日生まれ

### 【学歴】

- ・昭和 61 年 3 月 群馬大学工学部化学工学科卒業
- ・昭和 63 年 3 月 群馬大学大学院工学系研究科化学工学専攻修士課程修了
- ・平成 3 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科反応化学専攻第 1 種博士課程単位取得の上退学
- ・平成 5 年 2 月 博士 (工学) 取得 (東京大学)

### 【職歴】

- ・平成 3 年 4 月 東京大学助手工学部
- ・平成 8 年 4 月 群馬大学講師工学部
- ・平成 16 年 3 月 群馬大学准教授工学部
- ・平成 19 年 4 月 群馬大学准教授大学院工学研究科 (現在に至る)



### 【主要な研究内容】

主に大気中に浮遊しているエアロゾルの変質や反応に関する研究を行なっている。現在以下のテーマを中心に研究を進めている。(1) 静電噴霧を用いたナノ粒子の捕集、(2) 各種エアロゾルの吸湿特性に関する研究、(3) 大気エアロゾルの変質と反応に関する研究、(4) 微量液滴を用いた新規環境浄化技術の開発。

## 海野雅史 (うんの まさふみ) : 大学院工学研究科 応用化学・生物化学専攻 機能材料化学 教授

昭和 36 年 3 月 19 日生まれ

### 【学歴】

- ・昭和 54 年 3 月 兵庫県甲陽学院高校卒業
- ・昭和 58 年 3 月 東京大学理学部化学科卒業
- ・昭和 60 年 3 月 東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程修了
- ・昭和 63 年 7 月 東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了

### 【職歴】

- ・昭和 63 年 10 月 ネバダ大学リノ校博士研究員 (L. T. Scott 教授)
- ・平成 2 年 10 月 カリフォルニア工科大学博士研究員 (B. Imperiali 教授)
- ・平成 4 年 5 月 理化学研究所フォタダ付ミクス研究センターフロンティア研究員
- ・平成 5 年 1 月 群馬大学工学部助手 (応用化学科)
- ・平成 14 年 4 月 群馬大学工学部助教授 (応用化学科)
- ・平成 17 年 4 月 群馬大学工学部教授 (応用化学科)
- ・平成 19 年 4 月 群馬大学大学院工学研究科教授 (応用化学・生物化学専攻) (現在に至る)



- ・平成 20 年 3 月 群馬大学大学院工学研究科  
ケイ素科学国際教育研究センター教授（併任）
- ・平成 21 年 9 月 群馬大学大学院工学研究科  
ケイ素科学国際教育研究センター長（現在に至る）

#### 【主要な研究内容】

ケイ素、酸素、窒素、リンなどの多様な元素を含む化合物の合成と応用。最近および今後 5 年の集中的に行うトピックスとしては以下のようなものがある。

- ・岩石または廃棄物からのケイ素化合物合成
- ・高度に構造が規制されたシリコンの合成、並びにその超耐熱性材料、高屈折率材料、LED 封止剤への応用
- ・色素増感太陽電池の色素合成、ならびに耐久性向上による実用化金属および金属酸化物の表面修飾

#### 1.3.4 教養教育授業評価

各授業科目に対する授業評価アンケートを分野別科目で実施するとともに、1 年生全員を対象に、教養教育全体に対するアンケートを後期成績配付時に実施した。

授業評価アンケートでは、履修登録者数が 250 名を超える授業科目に問題が多く、履修者数の制限、時間割の工夫などを検討することになった。

教養教育アンケートでは、平成 18 年度以降の経年変化を初めてまとめた。その結果、「窓口対応」は顕著に改善されていたが、その他の項目には大きな変化はなかった。学生の評価が常に高かったのは「健康科学」「学修原論」「総合科目」「学部別科目」であり、逆に低かったのは「英語」「分野別(人文)」「分野別(社会)」であった。

## 授業評価質問票（分野別科目）

この授業評価の結果が、あなたの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。各質問に対する答えを選択肢から選び、□の中にV印を付してください。

A. あなたの所属学部等についてお尋ねします。

- 1 教育学部  
 2 社会情報学部  
 医学部 (  3 医学科       4 保健学科 )  
 工学部 (  5 昼間コース       6 夜間主コース )

B. あなたが今学期受講した「分野別科目」の授業についてお尋ねします。

あなたが受講した分野別科目を選んで下さい（人文□1 社会□2 自然□3）

あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
-------	---------	------------	---------

- |                                    | 1                        | 2                        | 3                        | 4                        |
|------------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| (1) 各学問分野の基礎的な枠組みと考え方を理解することができた。  | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (2) 各学問分野の先端など、より深い内容を知ることができた。    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (3) 専門にとらわれない、幅広い視野を身につけることができた。   | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (4) 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。     | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (5) シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (6) 教員の教え方は、よく配慮されており適切なものであった。    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (7) 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (8) 希望した科目を選ぶことができた。               | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (9) クラスの人数は適切であった。                 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| (10) 教室の環境は適切であった。                 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

C. その他、分野別科目の授業に関して、気付いた点、改善すべき点等を自由にご記入ください。


ご協力ありがとうございました。

以下のアンケートは、平成21年度の教養教育科目を履修した皆さんの、教養教育に対する評価や希望などを知り、今後の改善に活かすために実施するものです。ご協力くださいますようお願いいたします。

大学教育センター  
教育方法企画部会

## 「教養教育」アンケート（21年度）

以下の質問項目について、回答の選択肢の中から該当する番号を選び、右の回答欄に記入ください。

回答欄

〔1〕 所属学部

1. 教育学部 2. 社会情報学部 3. 医学部医学科 4. 医学部保健学科  
5. 工学部(昼) 6. 工学部(夜)

1

〔2〕 教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)について  
どう感じましたか。

1. とてもよかった 2. まあよかった 3. どちらともいえない  
4. あまりいいとはいえない 5. わるい

2

〔3〕 教養教育における教員の授業の教え方について、全体的にみてどう感じましたか。

1. とてもよかった 2. まあよかった 3. どちらともいえない  
4. あまりいいとはいえない 5. わるい

3

〔4〕 事務窓口の対応や、その他の学生支援体制についてはどう感じましたか。

1. とてもよかった 2. まあよかった 3. どちらともいえない  
4. あまりいいとはいえない 5. わるい

4

〔5〕 授業を選択するとき、シラバスはよく利用しましたか。

1. 授業の内容や進度の確認などに学期中何度も見た  
2. 履修届を提出するときなどには参考にした  
3. ほとんど見なかった。  
4. 一度も見なかった。

5

〔6〕 入学時に配付した教養教育の「授業案内」「履修手引」等は役立ちましたか。

1. 大変役に立った 2. 少し役に立った 3. どちらともいえない  
4. あまり役に立たなかった 5. 役に立たなかった

6

〔7〕 総合的に考えて、本学の教養教育に満足していますか。

1. 大変満足している 2. 少し満足している 3. どちらともいえない  
4. あまり満足していない 5. 満足していない

7

裏面につづく

本学の教養教育は、大きく分けて次の〔8〕－〔17〕のような10分野に分かれます。  
〔8〕－〔17〕のそれぞれについて、履修してみてくださいか。選択肢を次の5つの中から選び、該当する番号を各項目の右の回答欄に記入してください。

1. とてもよかった      2. まあよかった      3. どちらともいえない  
4. あまり意味がなかった      5. ほとんど意味がなかった

〔8〕 学修原論

少人数形式で行う授業。

科目名は、人間と文化を理解する、現代社会と歴史を考察する、数理と自然を考察する

8

〔9〕 総合科目

広い視点から総合的テーマで行う授業。

科目名は、人間理解と多文化共生、現代社会と環境問題、科学的世界と生命・健康、国際社会と地域社会、情報社会と技術、総合科目特別講義 / 演習

9

〔10〕 情報処理

対象科目名は、情報処理入門

10

〔11〕 健康科学

対象科目名は、健康学原論、健康・スポーツ科学

11

〔12〕 語学

対象科目名は、英語

12

〔13〕 語学

対象科目名は、フランス語、ドイツ語、中国語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、韓国語

13

〔14〕 分野別科目（人文分野）

対象科目名は、哲学、倫理学、文学、心理学、歴史学、考古学、芸術

14

〔15〕 分野別科目（社会分野）

対象科目名は、法学、日本国憲法、政治学、経済学、社会学、文化人類学、地理学、教育学

15

〔16〕 分野別科目（自然分野）

対象科目名は、地球科学、生命科学、数理科学、物質科学

16

〔17〕 学部別科目

学部ごとに決めている科目で、教育学部は「こどもと世界」、「日本国憲法」、

社会情報学部は「情報社会論入門」、医学部、工学部は「数学」、「物理学」、

「化学」、「生物学」、「地学」など

17

〔18〕 本学の教養教育について希望、意見がありましたら、以下に記述ください。また、「ほとんど意味がなかった」などの回答をされた場合、その理由も記述ください。

## 平成21年度教養教育授業評価アンケート（学生からの意見）集計表

### 学修原論

- 1 学修原論の意図が分からない。
- 2 学修原論をとるのが大変だった。（人数的に）

### 総合科目

- 1 総合科目は、人数が多すぎる。

### 情報処理

- 1 情報処理はほぼ自分がすでに知っていることだったから。
- 2 情報処理入門は、非常に難易度の高い課題が毎週出されたが、その意義が不明だった。もっと実用的な内容の方が良いと思う。

### 健康科学

- 1 スポーツと映像 意味のない講義だった。
- 2 スポーツと映像は先生のなさっていることの意味が全くわかりません。映画を見るだけなら一人でもできます。
- 3 健康科学の回数が多すぎる。前期だけで十分。
- 4 体育は着替えが面倒だし週一では体力作りにもならないから本当にいらないと思う。
- 5 健康科学では、各内容によって分かれて活動したが、グループ名と内容が合っていないかった。

### 英語

- 1 英語が講師によって非常に差があるのが少々気になった。
- 2 英語に先生の教え方がひどかった。あの英語の授業をやっても身に付かないと思う。もう少し授業のやり方を考えた方がいいと思う。
- 3 高校レベルの授業内容のものが多くて非常に残念である。もっと発展した大学らしい講義をして頂きたい。特に英語はやる意味のない授業である。
- 4 英語の内容は、高校のそれよりも数段レベルが低いものでありみんな時間を持てあましていた。あれでは授業で英語を教わる意味がない。
- 5 英語は、高校の授業のほうがマシだった。
- 6 毎週何ページの文章を読んで和訳するのが皆にとってすごく大変そうだった。それよりも英語の文章と和訳が配られて、先生と皆で一緒に話し合っ、色々勉強するのが効率的に良いし、面白いと思う。和訳ばかりしていても、吸収出来ない。
- 7 英語なんて大嫌い。
- 8 総合英語は教授が英語だけ話していたのでよかった。
- 9 高校の時の英語の授業に比べると大学での英語の授業の勉強量が少なくなった。
- 10 後期の英語1年（MEL1）クラスの授業後ダラダラと英文を訳していくばかりで内容がほとんどない。教員の板書も汚いし声も聞きとりづらい。選択英語も基本的な内容をやるA1が前期だけでしかも人数が多すぎて入れない。TOEICを受けさせるぐらいなら授業の中できちんと勉強させるべきです。
- 11 英語の授業は、まるで意味がないように感じた。自分の知識向上はあれでは不可能。
- 12 英語が中学校のようなレベルだった。

## 語学（英語以外）

- 1 ドイツ語は自分でやったほうがよっぽど身につくほどひどい。
- 2 第2外国語は履修していない為。
- 3 英語以外の外国語もネイティブスピーカーがいるといい。
- 4 英語以外の語学は、とっていない。
- 5 語学分野については、あまり興味をもつことができなかった。

## 分野別科目

- 1 文化人類学の授業内容、見直すべきだと思う。
- 2 分野自然に興味があるのがなかった。聞こえない。
- 3 人文・社会・自然分野に関しては、すべて必要。すべて必修にすべき。
- 4 文化人類学は、授業ではなくただの手を運動させるだけ。
- 5 文化人類の先生はよくないと思います。
- 6 特に分野別授業は内容が難しいだけに教え方をもっと工夫してもらいたい。
- 7 分野別科目についてはGB155 とかでやるとざわざわしすぎであまり集中できない。

## 学部別科目

- 1 今後専門で多くの人間が使わない知識を学部別科目でつめこまれ、やる気が出なかった。（たとえば医なら化学でアミノ酸とかやればよかった。）
- 2 生物科なのに学部別必修で生物の授業が前期に1つだけってどういうこと？学部名をあやまっていると判断します。生物やりたくてここにきたのに一年無駄にした気分。
- 3 化学の授業を2クラスに分けると先生によって、難しかったり簡単だったりするのでやめてほしい。
- 4 数学の授業内容にとっても不満があったため他学科の授業に出て勉強した。
- 5 線形代数学の授業が本当にわかりにくかった。勘弁して欲しい。

## 教員の対応、教え方

- 1 大きな教室で声が聞こえにくい授業は非常に困ります。
- 2 GB155 で行う授業の時に生徒がザワザワしているにもかかわらず、先生がそのままボソボソ話すのは、やめてもらいたいと思います。
- 3 教員の質に差がありすぎる。
- 4 教員が授業をやりたくないような雰囲気だった。
- 5 教員の教え方が下手。もっと興味深い題材が欲しい。
- 6 何を言いたいかわからない先生が多かった。
- 7 教授などよく分からない教え方の人がいったりした。
- 8 授業は悪すぎて全く理解できない。他の先生のところに聞きに行ったらすごく簡単なことをすごく難しく説明するし。
- 9 何を言っているか分かんない。うるさい。りふじんであった。

## 時間割編成

- 1 教養教育の時間割をもっとばらけさせるべきだと思う。何もとってない時間が残念。
- 2 授業の取り方について、自由がきかなすぎる。（分自）は、1つも取りたい科目がなかったのに、仕方なく取った。
- 3 教育学部の生徒1年が、韓国語の授業がとれないので、考えてほしいです。4年生でとるしかないのでしょうか？

- 4 授業が一定曜日の一定時間にかたまりすぎていて好きなものが取れなかった。又時間割の配布が非常に遅い。本当に有意義と感じた科目は少ない生徒も先生も「習う」より「こなす」感じで、入った後のモチベーションが下がった。そもそもこんなに狭い所に意見を書かせるのは間違っていないですか？
- 5 もう少し後期の授業をバラケさせて下さい。曜日によって履修できる授業が差が大きいです。
- 6 受講したかった分野別が必修とかさなっていて全然取れなかったので配慮が欲しかった。

## 授業内容、成績評価

- 1 評価がいい加減。内容が役に立たない。
- 2 語学に関しては、高校レベル。意味なし。大学らしい授業が1つもない。
- 3 授業のノートをただ写すだけのテストなら意味がない。
- 4 知識が増えたが、そこからくみいれる意味が見えてこない。薄っぺらい内容の講義だったため。
- 5 単位を取るためのその場限りの勉強。
- 6 全体的に内容のうすい授業が多い。
- 7 大学の授業はもっと高度なことをやり興味がそそられるものだと思っていましたが、「まあこんなものか」というのが多かった。授業が楽だというのが利点という感じになっている。
- 8 時間と授業内容が割りに合わない。
- 9 授業料を返して欲しいと思うような授業がちらほらあった。
- 10 板書した内容をノートに写すだけの出席も取らないような授業だから。

## その他

- 1 良かった。
- 2 意味があるのとないのにわかれた。
- 3 単位ください。
- 4 もっと実用的な授業がしたかった。単位を取ることが目的じゃ意味がないと思う。
- 5 GB155 教室では、マイクを活用して頂きたい。声が聞き取れない。
- 6 シラバスに情報があまり載っていなかったのもう少し情報が欲しい。
- 7 大学の授業は「先生」で選ぶべきということは教養教育を通して良くも悪くも学べたと思います。
- 8 もう少し教養教育で、とるべき単位を減らして、また自由に選べるようにしてほしい。
- 9 部活をしているから。
- 10 何で今教えていることが将来役立つのかが分からない。単位を取得するが故の頑張りにはか過ぎないような力しか出せないそんな気がする授業だ。
- 11 教員レベルが少し・・・
- 12 今後役に立ちそうになかったから。
- 13 今後使える知識でない。授業がずさん。
- 14 自分が興味を持ってないということもあるが、それ以上に講義が分かりにくかった。
- 15 大学でやる内容ならもっと高度なことがやりたかったです。
- 16 選択肢が少なすぎて、選びたい授業がなかった。
- 17 もう少し学生参加型の授業を増やしてほしい。
- 18 自分で勉強した方が有意義な授業だったから。
- 19 意味がないならなにに出席しなくてよい制度だと助かります。
- 20 学費にみあう授業だった気はしない。

- 21 現時点では、教養教育の授業を受けてよかったと実感したことがほとんどない為。
- 22 自分で選択したので、興味ある分野ばかりだったので割合面白かったです。
- 23 履修しなかった。
- 24 語学（英語以外）については履修していないので分からない。
- 25 やらうと思えば一人できる内容であり、+αの内容がほとんどなかった。
- 26 黒板を授業毎にキレイにしてほしい。
- 27 それを学ぶ意味が分からない。
- 28 やっていない。もしくはつまらなかった。
- 29 もう少し専門的（より深い内容）な方がよかっただろうと感じている。学んだことが生活上であまり役立ちそうにならないとも思っているからである。
- 30 説明だけでつまらなかったのがある。
- 31 適当すぎ
- 32 大学の授業はわかりにくいし、何を教えたいのか分からない。
- 33 ただ単位をとるための作業のような気分だった。
- 34 復習しすぎた。
- 35 テストが難しい。
- 36 受講していないから。
- 37 中学生の授業みたいだった。
- 38 ノートをひたすらとって、出席とらず最後の期末にもちこみOKの授業はあまり力がつかない気がした。
- 39 難しいです。大変です。
- 40 自分の予想と大きく異なっていてあまり興味が持てませんでした。
- 41 GB155の授業でマイクが小さいのは非常によくない。
- 42 良いと思う。
- 43 良かったと思う。
- 44 テストの日の日程をもっと早くして欲しい。遅くとも一ヶ月前までには把握しておきたい。
- 45 時事問題を中心とした、講義を拝聴できたらと思います。

## 平成 21 年度教養教育アンケート集計表

区 分	受講者数	回収数	回収率 (%)
教 育 学 部	232	201	86.6
社 会 情 報 学 部	104	61	58.7
医 学 部 医 学 科	92	67	72.8
医 学 部 保 健 学 科	169	126	74.6
工 学 部 ( 昼 )	522	321	61.5
工 学 部 ( 夜 )	29	27	93.1
不 明		2	
合 計	1,148	805	70.1

質問1. 教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)についてどう感じましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	33	16.4	121	60.2	33	16.4	13	6.5	1	0.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	4	6.6	33	54.1	15	24.6	6	9.8	3	4.9	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	4	6.0	21	31.3	23	34.3	12	17.9	7	10.4	67	100.0
医学部保健学科	0	0.0	8	6.3	73	57.9	38	30.2	7	5.6	0	0.0	126	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	32	10.0	147	45.8	105	32.7	28	8.7	9	2.8	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	2	7.4	15	55.6	9	33.3	1	3.7	0	0.0	27	100.0
不 明	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	2	0.2	83	10.3	410	50.9	223	27.7	67	8.3	20	2.5	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまりいいとはいえない 「5」: わるい

質問2. 教養教育における教員の授業の教え方について、全体的にみてどう感じましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	24	11.9	127	63.2	41	20.4	9	4.5	0	0.0	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	10	16.4	32	52.5	10	16.4	8	13.1	1	1.6	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	4	6.0	21	31.3	19	28.4	17	25.4	6	9.0	67	100.0
医学部保健学科	0	0.0	8	6.3	63	50.0	47	37.3	8	6.3	0	0.0	126	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	33	10.0	151	47.0	85	26.5	43	13.4	9	2.8	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	3	11.1	11	40.7	9	33.3	4	14.8	0	0.0	27	100.0
不 明	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	2	0.2	82	10.2	405	50.3	211	26.2	89	11.1	16	2.0	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまりいいとはいえない 「5」: わるい

質問3. 事務窓口の対応や、その他の学生支援体制についてはどう感じましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	28	13.9	81	40.3	71	35.3	14	7.0	7	3.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	17	27.9	27	44.3	16	26.2	1	1.6	0	0.0	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	9	13.4	29	43.3	17	25.4	10	14.9	2	3.0	67	100.0
医学部保健学科	0	0.0	30	23.8	64	50.8	23	18.3	7	5.6	2	1.6	126	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	68	21.2	149	46.4	83	25.9	13	4.0	8	2.5	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	12	44.4	11	40.7	4	14.8	0	0.0	0	0.0	27	100.0
不 明	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	2	0.2	164	20.4	361	44.8	214	26.6	45	5.6	19	2.4	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまりいいとはいえない 「5」: わるい

質問4. 授業を選択するとき、シラバスはよく利用しましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	16	8.0	90	44.8	58	28.9	37	18.4	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	4	6.6	42	68.9	8	13.1	7	11.5	61	100.0
医学部医学科	1	1.5	5	7.5	32	47.8	25	37.3	4	6.0	67	100.0
医学部保健学科	0	0.0	12	9.5	75	59.5	22	17.5	17	13.5	126	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	24	7.5	169	52.6	88	27.4	40	12.5	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	5	18.5	4	14.8	10	37.0	8	29.6	27	100.0
不 明	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	3	0.4	66	8.2	412	51.2	211	26.2	113	14.0	805	100.0

\*「1」：授業の内容や進度の確認などに学期中何度も見た 「2」：履修届を提出するときなどには参考にした 「3」：ほとんど見なかった 「4」：一度も見なかった

質問5. 入学時に配布した教養教育の「授業案内」、「履修手引」等は役立ちましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	98	48.8	76	37.8	18	9.0	6	3.0	3	1.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	36	59.0	22	36.1	2	3.3	1	1.6	0	0.0	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	22	32.8	36	53.7	4	6.0	4	6.0	1	1.5	67	100.0
医学部保健学科	0	0.0	60	47.6	50	39.7	14	11.1	2	1.6	0	0.0	126	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	141	43.9	130	40.5	39	12.1	8	2.5	3	0.9	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	2	7.4	8	29.6	8	29.6	8	29.6	1	3.7	27	100.0
不 明	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	2	0.2	359	44.6	322	40.0	85	10.6	29	3.6	8	1.0	805	100.0

\*「1」：大変役に立った 「2」：少し役に立った 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり役に立たなかった 「5」：役に立たなかった

質問6. 総合的に考えて、本学の教養教育に満足していますか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	0	0.0	22	10.9	104	51.7	55	27.4	16	8.0	4	2.0	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	9.8	30	49.2	18	29.5	4	6.6	3	4.9	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	8	11.9	19	28.4	20	29.9	10	14.9	10	14.9	67	100.0
医学部保健学科	0	0.0	10	7.9	83	65.9	24	19.0	8	6.3	1	0.8	126	100.0
工 学 部(昼)	0	0.0	42	13.1	145	45.2	94	29.3	28	8.7	12	3.7	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	4	14.8	9	33.3	11	40.7	3	11.1	0	0.0	27	100.0
不 明	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	2	0.2	92	11.4	390	48.4	222	27.6	69	8.6	30	3.7	805	100.0

\*「1」：大変満足している 「2」：少し満足している 「3」：どちらともいえない 「4」：あまり満足していない 「5」：満足していない

質問7. 学修原論、履修してみてくださいか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	2	1.0	62	30.8	99	49.3	31	15.4	4	2.0	3	1.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	15	24.6	33	54.1	7	11.5	4	6.6	2	3.3	61	100.0
医学部医学科	1	1.5	15	22.4	32	47.8	12	17.9	5	7.5	2	3.0	67	100.0
医学部保健学科	1	0.8	33	26.2	69	54.8	21	16.7	1	0.8	1	0.8	126	100.0
工 学 部(昼)	7	2.2	67	20.9	160	49.8	69	21.5	16	5.0	2	0.6	321	100.0
工 学 部(夜)	1	3.7	4	14.8	11	40.7	8	29.6	3	11.1	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	12	1.5	196	24.3	405	50.3	149	18.5	33	4.1	10	1.2	805	100.0

\*「1」:とてもよかった 「2」:まあよかった 「3」:どちらともいえない 「4」:あまり意味がなかった 「5」:ほとんど意味がなかった

質問8. 総合科目、履修してみてくださいか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	2	1.0	34	16.9	110	54.7	41	20.4	10	5.0	4	2.0	201	100.0
社会情報学部	1	1.6	6	9.8	31	50.8	15	24.6	5	8.2	3	4.9	61	100.0
医学部医学科	1	1.5	9	13.4	33	49.3	17	25.4	4	6.0	3	4.5	67	100.0
医学部保健学科	1	0.8	18	14.3	71	56.3	32	25.4	4	3.2	0	0.0	126	100.0
工 学 部(昼)	4	1.2	50	15.6	174	54.2	74	23.1	16	5.0	3	0.9	321	100.0
工 学 部(夜)	1	3.7	5	18.5	9	33.3	10	37.0	2	7.4	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	10	1.2	123	15.3	429	53.3	189	23.5	41	5.1	13	1.6	805	100.0

\*「1」:とてもよかった 「2」:まあよかった 「3」:どちらともいえない 「4」:あまり意味がなかった 「5」:ほとんど意味がなかった

質問9. 情報処理、履修してみてくださいか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	34	16.9	96	47.8	47	23.4	19	9.5	4	2.0	201	100.0
社会情報学部	1	1.6	8	13.1	33	54.1	9	14.8	7	11.5	3	4.9	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	7	10.4	19	28.4	19	28.4	14	20.9	8	11.9	67	100.0
医学部保健学科	2	1.6	12	9.5	67	53.2	32	25.4	11	8.7	2	1.6	126	100.0
工 学 部(昼)	5	1.6	58	18.1	165	51.4	78	24.3	13	4.0	2	0.6	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	11	40.7	10	37.0	4	14.8	2	7.4	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	9	1.1	130	16.1	392	48.7	189	23.5	66	8.2	19	2.4	805	100.0

\*「1」:とてもよかった 「2」:まあよかった 「3」:どちらともいえない 「4」:あまり意味がなかった 「5」:ほとんど意味がなかった

質問 10. 健康科学、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	77	38.3	86	42.8	25	12.4	9	4.5	3	1.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	13	21.3	29	47.5	9	14.8	2	3.3	8	13.1	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	9	13.4	24	35.8	17	25.4	10	14.9	7	10.4	67	100.0
医学部保健学科	1	0.8	44	34.9	55	43.7	21	16.7	2	1.6	3	2.4	126	100.0
工 学 部(昼)	5	1.6	108	33.6	136	42.4	56	17.4	10	3.1	6	1.9	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	5	18.5	13	48.1	6	22.2	3	11.1	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	7	0.9	258	32.0	343	42.6	134	16.6	36	4.5	27	3.4	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり意味がなかった 「5」: ほとんど意味がなかった

質問 11. 語学 (英語)、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	25	12.4	85	42.3	61	30.3	22	10.9	7	3.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	14	23.0	28	45.9	11	18.0	6	9.8	2	3.3	61	100.0
医学部医学科	1	1.5	4	6.0	24	35.8	19	28.4	13	19.4	6	9.0	67	100.0
医学部保健学科	2	1.6	7	5.6	56	44.4	42	33.3	15	11.9	4	3.2	126	100.0
工 学 部(昼)	4	1.2	34	10.6	142	44.2	101	31.5	29	9.0	11	3.4	321	100.0
工 学 部(夜)	0	0.0	4	14.8	10	37.0	8	29.6	5	18.5	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	8	1.0	88	10.9	347	43.1	242	30.1	90	11.2	30	3.7	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり意味がなかった 「5」: ほとんど意味がなかった

質問 12. 語学 (フランス語他)、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%								
教 育 学 部	1	0.5	36	17.9	97	48.3	44	21.9	14	7.0	9	4.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	14	23.0	24	39.3	18	29.5	3	4.9	2	3.3	61	100.0
医学部医学科	2	3.0	9	13.4	25	37.3	19	28.4	9	13.4	3	4.5	67	100.0
医学部保健学科	26	20.6	5	4.0	26	20.6	51	40.5	9	7.1	9	7.1	126	100.0
工 学 部(昼)	26	8.1	34	10.6	90	28.0	127	39.6	29	9.0	15	4.7	321	100.0
工 学 部(夜)	8	29.6	0	0.0	2	7.4	13	48.1	2	7.4	2	7.4	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	63	7.7	98	12.2	265	32.9	273	33.9	66	8.2	40	5.0	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり意味がなかった 「5」: ほとんど意味がなかった

質問 13. 分野別科目（人文分野）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%								
教 育 学 部	1	0.5	40	19.9	90	44.8	47	23.4	17	8.5	6	3.0	201	100.0
社会情報学部	1	1.6	13	21.3	29	47.5	10	16.4	6	9.8	2	3.3	61	100.0
医学部医学科	1	1.5	10	14.9	22	32.8	20	29.9	9	13.4	5	7.5	67	100.0
医学部保健学科	1	0.8	15	11.9	62	49.2	29	23.0	13	10.3	6	4.8	126	100.0
工 学 部(昼)	10	3.1	35	10.9	120	37.4	99	30.8	47	14.6	10	3.1	321	100.0
工 学 部(夜)	2	11.1	1	3.7	8	29.6	14	51.9	0	0.0	1	3.7	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	17	2.1	114	14.2	332	41.2	220	27.3	92	11.4	30	3.7	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり意味がなかった 「5」: ほとんど意味がなかった

質問 14. 分野別科目（社会分野）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	27	13.4	98	48.8	52	25.9	16	8.0	7	3.5	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	10	16.4	32	52.5	12	19.7	4	6.6	3	4.9	61	100.0
医学部医学科	2	3.0	5	7.5	23	34.3	22	32.8	8	11.9	7	10.4	67	100.0
医学部保健学科	3	2.4	9	7.1	56	44.4	41	32.5	14	11.1	3	2.4	126	100.0
工 学 部(昼)	5	1.6	35	10.9	145	45.2	102	31.8	23	7.2	11	3.4	321	100.0
工 学 部(夜)	1	3.7	4	14.8	7	25.9	14	51.9	1	3.7	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	12	1.5	90	11.2	362	45.0	244	30.3	66	8.2	31	3.9	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり意味がなかった 「5」: ほとんど意味がなかった

質問 15. 分野別科目（自然分野）、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合計	
	人数	%												
教 育 学 部	1	0.5	33	16.4	84	41.8	59	29.4	14	7.0	10	5.0	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	6	9.8	22	36.1	21	34.4	7	11.5	5	8.2	61	100.0
医学部医学科	0	0.0	6	9.0	26	38.8	18	26.9	9	13.4	8	11.9	67	100.0
医学部保健学科	9	7.1	9	7.1	44	34.9	53	42.1	11	8.7	0	0.0	126	100.0
工 学 部(昼)	4	1.2	72	22.4	142	44.2	79	24.6	19	5.9	5	1.6	321	100.0
工 学 部(夜)	3	11.1	6	22.2	10	37.0	8	29.6	0	0.0	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	17	2.1	132	16.4	329	40.9	239	29.7	60	7.5	28	3.5	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり意味がなかった 「5」: ほとんど意味がなかった

質問 16. 学部別科目、履修してみてどう思いましたか。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		「5」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	1	0.5	47	23.4	105	52.2	42	20.9	6	3.0	0	0.0	201	100.0
社会情報学部	0	0.0	4	6.6	27	44.3	20	32.8	5	8.2	5	8.2	61	100.0
医学部医学科	1	1.5	5	7.5	22	32.8	24	35.8	7	10.4	8	11.9	67	100.0
医学部保健学科	2	1.6	11	8.7	63	50.0	40	31.7	9	7.1	1	0.8	126	100.0
工 学 部(昼)	6	1.9	53	16.5	160	49.8	88	27.4	9	2.8	5	1.6	321	100.0
工 学 部(夜)	1	3.7	6	22.2	12	44.4	8	29.6	0	0.0	0	0.0	27	100.0
不 明	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
合 計	11	1.4	126	15.7	390	48.4	223	27.7	36	4.5	19	2.4	805	100.0

\* 「1」: とてもよかった 「2」: まあよかった 「3」: どちらともいえない 「4」: あまり意味がなかった 「5」: ほとんど意味がなかった

【その他自由記述欄】

区 分	全 体		記入有り「1」		記入なし「0」	
	人数	%	人数	%	人数	%
教 育 学 部	201	100.0	24	11.9	177	88.1
社会情報学部	61	100.0	7	11.5	54	88.5
医学部医学科	67	100.0	20	29.9	47	70.1
医学部保健学科	126	100.0	11	8.7	115	91.3
工 学 部(昼)	321	100.0	36	11.2	285	88.8
工 学 部(夜)	27	100.0	3	11.1	24	88.9
不 明	2	100.0	0	0.0	2	100.0
合 計	805	100.0	101	12.5	704	87.5

## 平成 21 年度前期授業評価（分野別科目）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	446	340	76.2
人文	286	194	67.8
社会	93	86	92.5
自然	67	60	89.6
社会情報学部	176	158	89.8
人文	95	75	78.9
社会	58	49	84.5
自然	23	34	147.8
医学部医学科	270	169	62.6
人文	143	85	59.4
社会	68	37	54.4
自然	59	47	79.7
医学部保健学科	485	366	75.5
人文	306	218	71.2
社会	151	119	78.8
自然	28	29	103.6
工学部昼間コース	1,581	1,083	68.5
人文	620	413	66.6
社会	439	350	79.7
自然	522	320	61.3
工学部夜間主コース	138	101	73.2
人文	40	30	75.0
社会	0	0	0.0
自然	98	71	72.4
合 計	3,096	2,217	71.6
人文	1,490	1,015	68.1
社会	809	641	79.2
自然	797	561	70.4

【備考】 質問に対する回答番号は、以下のとおり

「1」…あてはまる 「2」…ややあてはまる 「3」…あまりあてはまらない 「4」…あてはまらない

質問1. 各学問分野の基礎的な枠組みと考え方を理解することができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	129	37.9	168	49.4	39	11.5	4	1.2	340	100.0
人文	0	0.0	69	35.6	93	47.9	28	14.4	4	2.1	194	100.0
社会	0	0.0	32	37.2	47	54.7	7	8.1	0	0.0	86	100.0
自然	0	0.0	28	46.7	28	46.7	4	6.7	0	0.0	60	100.0
社会情報学部	0	0.0	63	39.9	80	50.6	13	8.2	2	1.3	158	100.0
人文	0	0.0	27	36.0	40	53.3	7	9.3	1	1.3	75	100.0
社会	0	0.0	23	46.9	25	51.0	1	2.0	0	0.0	49	100.0
自然	0	0.0	13	38.2	15	44.1	5	14.7	1	2.9	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	66	39.1	80	47.3	16	9.5	7	4.1	169	100.0
人文	0	0.0	26	30.6	41	48.2	12	14.1	6	7.1	85	100.0
社会	0	0.0	18	48.6	19	51.4	0	0.0	0	0.0	37	100.0
自然	0	0.0	22	46.8	20	42.6	4	8.5	1	2.1	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	97	26.5	206	56.3	48	13.1	15	4.1	366	100.0
人文	0	0.0	54	24.8	119	54.6	33	15.1	12	5.5	218	100.0
社会	0	0.0	34	28.6	70	58.8	14	11.8	1	0.8	119	100.0
自然	0	0.0	9	31.0	17	58.6	1	3.4	2	6.9	29	100.0
工学部昼間コース	0	0.0	331	30.6	588	54.3	133	12.3	31	2.9	1083	100.0
人文	0	0.0	89	21.5	237	57.4	70	16.9	17	4.1	413	100.0
社会	0	0.0	112	32.0	197	56.3	31	8.9	10	2.9	350	100.0
自然	0	0.0	130	40.6	154	48.1	32	10.0	4	1.3	320	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	32	31.7	49	48.5	18	17.8	2	2.0	101	100.0
人文	0	0.0	6	20.0	12	40.0	11	36.7	1	3.3	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	0	0.0	26	36.6	37	52.1	7	9.9	1	1.4	71	100.0
全体	0	0.0	718	32.4	1171	52.8	267	12.0	61	2.8	2217	100.0
人文	0	0.0	271	26.7	542	53.4	161	15.9	41	4.0	1015	100.0
社会	0	0.0	219	34.2	358	55.9	53	8.3	11	1.7	641	100.0
自然	0	0.0	228	40.6	271	48.3	53	9.4	9	1.6	561	100.0

質問2. 各学問分野の先端など、より深い内容を知ることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	121	35.6	170	50.0	41	12.1	7	2.1	340	100.0
人文	1	0.5	68	35.1	93	47.9	27	13.9	5	2.6	194	100.0
社会	0	0.0	25	29.1	49	57.0	11	12.8	1	1.2	86	100.0
自然	0	0.0	28	46.7	28	46.7	3	5.0	1	1.7	60	100.0
社会情報学部	0	0.0	44	27.8	84	53.2	26	16.5	4	2.5	158	100.0
人文	0	0.0	17	22.7	38	50.7	18	24.0	2	2.7	75	100.0
社会	0	0.0	13	26.5	31	63.3	5	10.2	0	0.0	49	100.0
自然	0	0.0	14	41.2	15	44.1	3	8.8	2	5.9	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	49	29.0	73	43.2	41	24.3	6	3.6	169	100.0
人文	0	0.0	22	25.9	35	41.2	22	25.9	6	7.1	85	100.0
社会	0	0.0	10	27.0	23	62.2	4	10.8	0	0.0	37	100.0
自然	0	0.0	17	36.2	15	31.9	15	31.9	0	0.0	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	84	23.0	191	52.2	73	19.9	18	4.9	366	100.0
人文	0	0.0	50	22.9	107	49.1	45	20.6	16	7.3	218	100.0
社会	0	0.0	22	18.5	72	60.5	25	21.0	0	0.0	119	100.0
自然	0	0.0	12	41.4	12	41.4	3	10.3	2	6.9	29	100.0
工学部昼間コース	1	0.1	243	22.4	557	51.4	238	22.0	44	4.1	1083	100.0
人文	1	0.2	74	17.9	197	47.7	113	27.4	28	6.8	413	100.0
社会	0	0.0	65	18.6	191	54.6	84	24.0	10	2.9	350	100.0
自然	0	0.0	104	32.5	169	52.8	41	12.8	6	1.9	320	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	29	28.7	45	44.6	26	25.7	1	1.0	101	100.0
人文	0	0.0	8	26.7	8	26.7	14	46.7	0	0.0	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	0	0.0	21	29.6	37	52.1	12	16.9	1	1.4	71	100.0
全体	2	0.1	570	25.7	1120	50.5	445	20.1	80	3.6	2217	100.0
人文	2	0.2	239	23.5	478	47.1	239	23.5	57	5.6	1015	100.0
社会	0	0.0	135	21.1	366	57.1	129	20.1	11	1.7	641	100.0
自然	0	0.0	196	34.9	276	49.2	77	13.7	12	2.1	561	100.0

質問3. 専門にとらわれない、幅広い視野を身につけることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.6	110	32.4	169	49.7	52	15.3	7	2.1	340	100.0
人文	1	0.5	65	33.5	97	50.0	26	13.4	5	2.6	194	100.0
社会	1	1.2	23	26.7	45	52.3	16	18.6	1	1.2	86	100.0
自然	0	0.0	22	36.7	27	45.0	10	16.7	1	1.7	60	100.0
社会情報学部	1	0.6	48	30.4	74	46.8	32	20.3	3	1.9	158	100.0
人文	1	1.3	23	30.7	40	53.3	9	12.0	2	2.7	75	100.0
社会	0	0.0	15	30.6	19	38.8	15	30.6	0	0.0	49	100.0
自然	0	0.0	10	29.4	15	44.1	8	23.5	1	2.9	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	52	30.8	76	45.0	35	20.7	6	3.6	169	100.0
人文	0	0.0	28	32.9	42	49.4	11	12.9	4	4.7	85	100.0
社会	0	0.0	13	35.1	20	54.1	3	8.1	1	2.7	37	100.0
自然	0	0.0	11	23.4	14	29.8	21	44.7	1	2.1	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	139	38.0	170	46.4	44	12.0	13	3.6	366	100.0
人文	0	0.0	80	36.7	102	46.8	25	11.5	11	5.0	218	100.0
社会	0	0.0	51	42.9	53	44.5	15	12.6	0	0.0	119	100.0
自然	0	0.0	8	27.6	15	51.7	4	13.8	2	6.9	29	100.0
工学部昼間コース	2	0.2	289	26.7	527	48.7	230	21.2	35	3.2	1083	100.0
人文	1	0.2	111	26.9	179	43.3	104	25.2	18	4.4	413	100.0
社会	1	0.3	95	27.1	183	52.3	61	17.4	10	2.9	350	100.0
自然	0	0.0	83	25.9	165	51.6	65	20.3	7	2.2	320	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	26	25.7	52	51.5	20	19.8	3	3.0	101	100.0
人文	0	0.0	6	20.0	16	53.3	6	20.0	2	6.7	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	0	0.0	20	28.2	36	50.7	14	19.7	1	1.4	71	100.0
全体	5	0.2	664	30.0	1068	48.2	413	18.6	67	3.0	2217	100.0
人文	3	0.3	313	30.8	476	46.9	181	17.8	42	4.1	1015	100.0
社会	2	0.3	197	30.7	320	49.9	110	17.2	12	1.9	641	100.0
自然	0	0.0	154	27.5	272	48.5	122	21.7	13	2.3	561	100.0

質問4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	125	36.8	143	42.1	63	18.5	8	2.4	340	100.0
人文	1	0.5	69	35.6	81	41.8	37	19.1	6	3.1	194	100.0
社会	0	0.0	24	27.9	43	50.0	17	19.8	2	2.3	86	100.0
自然	0	0.0	32	53.3	19	31.7	9	15.0	0	0.0	60	100.0
社会情報学部	0	0.0	51	32.3	75	47.5	28	17.7	4	2.5	158	100.0
人文	0	0.0	22	29.3	40	53.3	11	14.7	2	2.7	75	100.0
社会	0	0.0	20	40.8	21	42.9	8	16.3	0	0.0	49	100.0
自然	0	0.0	9	26.5	14	41.2	9	26.5	2	5.9	34	100.0
医学部医学科	1	0.6	64	37.9	78	46.2	21	12.4	5	3.0	169	100.0
人文	1	1.2	28	32.9	42	49.4	10	11.8	4	4.7	85	100.0
社会	0	0.0	17	45.9	16	43.2	3	8.1	1	2.7	37	100.0
自然	0	0.0	19	40.4	20	42.6	8	17.0	0	0.0	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	105	28.7	170	46.4	72	19.7	19	5.2	366	100.0
人文	0	0.0	60	27.5	100	45.9	44	20.2	14	6.4	218	100.0
社会	0	0.0	33	27.7	62	52.1	21	17.6	3	2.5	119	100.0
自然	0	0.0	12	41.4	8	27.6	7	24.1	2	6.9	29	100.0
工学部昼間コース	2	0.2	288	26.6	525	48.5	225	20.8	43	4.0	1083	100.0
人文	2	0.5	78	18.9	177	42.9	134	32.4	22	5.3	413	100.0
社会	0	0.0	89	25.4	199	56.9	49	14.0	13	3.7	350	100.0
自然	0	0.0	121	37.8	149	46.6	42	13.1	8	2.5	320	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	29	28.7	46	45.5	22	21.8	4	4.0	101	100.0
人文	0	0.0	8	26.7	7	23.3	12	40.0	3	10.0	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	0	0.0	21	29.6	39	54.9	10	14.1	1	1.4	71	100.0
全体	4	0.2	662	29.9	1037	46.8	431	19.4	83	3.7	2217	100.0
人文	4	0.4	265	26.1	447	44.0	248	24.4	51	5.0	1015	100.0
社会	0	0.0	183	28.5	341	53.2	98	15.3	19	3.0	641	100.0
自然	0	0.0	214	38.1	249	44.4	85	15.2	13	2.3	561	100.0

質問5. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	7	2.1	100	29.4	200	58.8	28	8.2	5	1.5	340	100.0
人文	5	2.6	48	24.7	114	58.8	23	11.9	4	2.1	194	100.0
社会	1	1.2	32	37.2	48	55.8	5	5.8	0	0.0	86	100.0
自然	1	1.7	20	33.3	38	63.3	0	0.0	1	1.7	60	100.0
社会情報学部	1	0.6	56	35.4	83	52.5	16	10.1	2	1.3	158	100.0
人文	1	1.3	23	30.7	40	53.3	9	12.0	2	2.7	75	100.0
社会	0	0.0	22	44.9	26	53.1	1	2.0	0	0.0	49	100.0
自然	0	0.0	11	32.4	17	50.0	6	17.6	0	0.0	34	100.0
医学部医学科	4	2.4	56	33.1	87	51.5	17	10.1	5	3.0	169	100.0
人文	0	0.0	19	22.4	48	56.5	14	16.5	4	4.7	85	100.0
社会	2	5.4	17	45.9	17	45.9	1	2.7	0	0.0	37	100.0
自然	2	4.3	20	42.6	22	46.8	2	4.3	1	2.1	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	109	29.8	210	57.4	40	10.9	7	1.9	366	100.0
人文	0	0.0	51	23.4	134	61.5	27	12.4	6	2.8	218	100.0
社会	0	0.0	44	37.0	64	53.8	11	9.2	0	0.0	119	100.0
自然	0	0.0	14	48.3	12	41.4	2	6.9	1	3.4	29	100.0
工学部昼間コース	24	2.2	272	25.1	632	58.4	131	12.1	24	2.2	1083	100.0
人文	11	2.7	83	20.1	238	57.6	68	16.5	13	3.1	413	100.0
社会	2	0.6	90	25.7	223	63.7	30	8.6	5	1.4	350	100.0
自然	11	3.4	99	30.9	171	53.4	33	10.3	6	1.9	320	100.0
工学部夜間主コース	1	1.0	22	21.8	62	61.4	14	13.9	2	2.0	101	100.0
人文	0	0.0	7	23.3	14	46.7	9	30.0	0	0.0	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	1	1.4	15	21.1	48	67.6	5	7.0	2	2.8	71	100.0
全体	37	1.7	615	27.7	1274	57.5	246	11.1	45	2.0	2217	100.0
人文	17	1.7	231	22.8	588	57.9	150	14.8	29	2.9	1015	100.0
社会	5	0.8	205	32.0	378	59.0	48	7.5	5	0.8	641	100.0
自然	15	2.7	179	31.9	308	54.9	48	8.6	11	2.0	561	100.0

質問6. 教員の教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	131	38.5	149	43.8	46	13.5	13	3.8	340	100.0
人文	1	0.5	62	32.0	88	45.4	31	16.0	12	6.2	194	100.0
社会	0	0.0	32	37.2	40	46.5	14	16.3	0	0.0	86	100.0
自然	0	0.0	37	61.7	21	35.0	1	1.7	1	1.7	60	100.0
社会情報学部	0	0.0	59	37.3	72	45.6	21	13.3	6	3.8	158	100.0
人文	0	0.0	25	33.3	39	52.0	9	12.0	2	2.7	75	100.0
社会	0	0.0	23	46.9	21	42.9	4	8.2	1	2.0	49	100.0
自然	0	0.0	11	32.4	12	35.3	8	23.5	3	8.8	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	63	37.3	71	42.0	29	17.2	6	3.6	169	100.0
人文	0	0.0	27	31.8	35	41.2	19	22.4	4	4.7	85	100.0
社会	0	0.0	16	43.2	15	40.5	4	10.8	2	5.4	37	100.0
自然	0	0.0	20	42.6	21	44.7	6	12.8	0	0.0	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	122	33.3	159	43.4	68	18.6	17	4.6	366	100.0
人文	0	0.0	54	24.8	101	46.3	50	22.9	13	6.0	218	100.0
社会	0	0.0	53	44.5	51	42.9	12	10.1	3	2.5	119	100.0
自然	0	0.0	15	51.7	7	24.1	6	20.7	1	3.4	29	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	354	32.7	504	46.5	180	16.6	42	3.9	1083	100.0
人文	1	0.2	107	25.9	183	44.3	98	23.7	24	5.8	413	100.0
社会	1	0.3	105	30.0	184	52.6	49	14.0	11	3.1	350	100.0
自然	1	0.3	142	44.4	137	42.8	33	10.3	7	2.2	320	100.0
工学部夜間主コース	1	1.0	31	30.7	48	47.5	20	19.8	1	1.0	101	100.0
人文	1	3.3	8	26.7	14	46.7	7	23.3	0	0.0	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	0	0.0	23	32.4	34	47.9	13	18.3	1	1.4	71	100.0
全体	5	0.2	760	34.3	1003	45.2	364	16.4	85	3.8	2217	100.0
人文	3	0.3	283	27.9	460	45.3	214	21.1	55	5.4	1015	100.0
社会	1	0.2	229	35.7	311	48.5	83	12.9	17	2.7	641	100.0
自然	1	0.2	248	44.2	232	41.4	67	11.9	13	2.3	561	100.0

質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.6	128	37.6	152	44.7	38	11.2	20	5.9	340	100.0
人文	2	1.0	75	38.7	86	44.3	15	7.7	16	8.2	194	100.0
社会	0	0.0	25	29.1	41	47.7	17	19.8	3	3.5	86	100.0
自然	0	0.0	28	46.7	25	41.7	6	10.0	1	1.7	60	100.0
社会情報学部	0	0.0	48	30.4	72	45.6	32	20.3	6	3.8	158	100.0
人文	0	0.0	32	42.7	27	36.0	14	18.7	2	2.7	75	100.0
社会	0	0.0	8	16.3	27	55.1	11	22.4	3	6.1	49	100.0
自然	0	0.0	8	23.5	18	52.9	7	20.6	1	2.9	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	71	42.0	60	35.5	30	17.8	8	4.7	169	100.0
人文	0	0.0	35	41.2	28	32.9	17	20.0	5	5.9	85	100.0
社会	0	0.0	17	45.9	13	35.1	5	13.5	2	5.4	37	100.0
自然	0	0.0	19	40.4	19	40.4	8	17.0	1	2.1	47	100.0
医学部保健学科	1	0.3	124	33.9	160	43.7	62	16.9	19	5.2	366	100.0
人文	1	0.5	70	32.1	102	46.8	34	15.6	11	5.0	218	100.0
社会	0	0.0	39	32.8	50	42.0	24	20.2	6	5.0	119	100.0
自然	0	0.0	15	51.7	8	27.6	4	13.8	2	6.9	29	100.0
工学部昼間コース	7	0.6	341	31.5	488	45.1	193	17.8	54	5.0	1083	100.0
人文	3	0.7	114	27.6	187	45.3	83	20.1	26	6.3	413	100.0
社会	1	0.3	83	23.7	174	49.7	74	21.1	18	5.1	350	100.0
自然	3	0.9	144	45.0	127	39.7	36	11.3	10	3.1	320	100.0
工学部夜間主コース	2	2.0	40	39.6	46	45.5	10	9.9	3	3.0	101	100.0
人文	1	3.3	16	53.3	7	23.3	6	20.0	0	0.0	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	1	1.4	24	33.8	39	54.9	4	5.6	3	4.2	71	100.0
全体	12	0.5	752	33.9	978	44.1	365	16.5	110	5.0	2217	100.0
人文	7	0.7	342	33.7	437	43.1	169	16.7	60	5.9	1015	100.0
社会	1	0.2	172	26.8	305	47.6	131	20.4	32	5.0	641	100.0
自然	4	0.7	238	42.4	236	42.1	65	11.6	18	3.2	561	100.0

質問8. 希望した科目を選ぶことができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.6	179	52.6	127	37.4	26	7.6	6	1.8	340	100.0
人文	2	1.0	97	50.0	71	36.6	18	9.3	6	3.1	194	100.0
社会	0	0.0	44	51.2	37	43.0	5	5.8	0	0.0	86	100.0
自然	0	0.0	38	63.3	19	31.7	3	5.0	0	0.0	60	100.0
社会情報学部	1	0.6	88	55.7	53	33.5	12	7.6	4	2.5	158	100.0
人文	0	0.0	48	64.0	20	26.7	5	6.7	2	2.7	75	100.0
社会	1	2.0	27	55.1	18	36.7	3	6.1	0	0.0	49	100.0
自然	0	0.0	13	38.2	15	44.1	4	11.8	2	5.9	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	104	61.5	53	31.4	10	5.9	2	1.2	169	100.0
人文	0	0.0	46	54.1	31	36.5	7	8.2	1	1.2	85	100.0
社会	0	0.0	23	62.2	14	37.8	0	0.0	0	0.0	37	100.0
自然	0	0.0	35	74.5	8	17.0	3	6.4	1	2.1	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	202	55.2	114	31.1	34	9.3	16	4.4	366	100.0
人文	0	0.0	119	54.6	70	32.1	19	8.7	10	4.6	218	100.0
社会	0	0.0	63	52.9	39	32.8	12	10.1	5	4.2	119	100.0
自然	0	0.0	20	69.0	5	17.2	3	10.3	1	3.4	29	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	519	47.9	419	38.7	113	10.4	29	2.7	1083	100.0
人文	2	0.5	160	38.7	178	43.1	59	14.3	14	3.4	413	100.0
社会	0	0.0	165	47.1	141	40.3	33	9.4	11	3.1	350	100.0
自然	1	0.3	194	60.6	100	31.3	21	6.6	4	1.3	320	100.0
工学部夜間主コース	2	2.0	30	29.7	45	44.6	15	14.9	9	8.9	101	100.0
人文	1	3.3	8	26.7	8	26.7	8	26.7	5	16.7	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	1	1.4	22	31.0	37	52.1	7	9.9	4	5.6	71	100.0
全体	8	0.4	1122	50.6	811	36.6	210	9.5	66	3.0	2217	100.0
人文	5	0.5	478	47.1	378	37.2	116	11.4	38	3.7	1015	100.0
社会	1	0.2	322	50.2	249	38.8	53	8.3	16	2.5	641	100.0
自然	2	0.4	322	57.4	184	32.8	41	7.3	12	2.1	561	100.0

質問9. クラスの人数は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	117	34.4	146	42.9	62	18.2	14	4.1	340	100.0
人文	1	0.5	68	35.1	80	41.2	34	17.5	11	5.7	194	100.0
社会	0	0.0	24	27.9	40	46.5	19	22.1	3	3.5	86	100.0
自然	0	0.0	25	41.7	26	43.3	9	15.0	0	0.0	60	100.0
社会情報学部	0	0.0	48	30.4	55	34.8	50	31.6	5	3.2	158	100.0
人文	0	0.0	25	33.3	24	32.0	22	29.3	4	5.3	75	100.0
社会	0	0.0	13	26.5	18	36.7	18	36.7	0	0.0	49	100.0
自然	0	0.0	10	29.4	13	38.2	10	29.4	1	2.9	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	70	41.4	60	35.5	28	16.6	11	6.5	169	100.0
人文	0	0.0	28	32.9	33	38.8	17	20.0	7	8.2	85	100.0
社会	0	0.0	13	35.1	14	37.8	6	16.2	4	10.8	37	100.0
自然	0	0.0	29	61.7	13	27.7	5	10.6	0	0.0	47	100.0
医学部保健学科	1	0.3	125	34.2	156	42.6	66	18.0	18	4.9	366	100.0
人文	0	0.0	70	32.1	90	41.3	41	18.8	17	7.8	218	100.0
社会	1	0.8	40	33.6	54	45.4	24	20.2	0	0.0	119	100.0
自然	0	0.0	15	51.7	12	41.4	1	3.4	1	3.4	29	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	291	26.9	452	41.7	262	24.2	75	6.9	1083	100.0
人文	1	0.2	86	20.8	173	41.9	119	28.8	34	8.2	413	100.0
社会	2	0.6	75	21.4	142	40.6	96	27.4	35	10.0	350	100.0
自然	0	0.0	130	40.6	137	42.8	47	14.7	6	1.9	320	100.0
工学部夜間主コース	2	2.0	52	51.5	38	37.6	9	8.9	0	0.0	101	100.0
人文	1	3.3	19	63.3	7	23.3	3	10.0	0	0.0	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	1	1.4	33	46.5	31	43.7	6	8.5	0	0.0	71	100.0
全体	7	0.3	703	31.7	907	40.9	477	21.5	123	5.5	2217	100.0
人文	3	0.3	296	29.2	407	40.1	236	23.3	73	7.2	1015	100.0
社会	3	0.5	165	25.7	268	41.8	163	25.4	42	6.6	641	100.0
自然	1	0.2	242	43.1	232	41.4	78	13.9	8	1.4	561	100.0

質問 10. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	120	35.3	141	41.5	69	20.3	10	2.9	340	100.0
人文	0	0.0	64	33.0	80	41.2	41	21.1	9	4.6	194	100.0
社会	0	0.0	24	27.9	40	46.5	21	24.4	1	1.2	86	100.0
自然	0	0.0	32	53.3	21	35.0	7	11.7	0	0.0	60	100.0
社会情報学部	0	0.0	59	37.3	66	41.8	28	17.7	5	3.2	158	100.0
人文	0	0.0	25	33.3	30	40.0	16	21.3	4	5.3	75	100.0
社会	0	0.0	19	38.8	25	51.0	4	8.2	1	2.0	49	100.0
自然	0	0.0	15	44.1	11	32.4	8	23.5	0	0.0	34	100.0
医学部医学科	0	0.0	61	36.1	66	39.1	31	18.3	11	6.5	169	100.0
人文	0	0.0	26	30.6	33	38.8	22	25.9	4	4.7	85	100.0
社会	0	0.0	11	29.7	18	48.6	3	8.1	5	13.5	37	100.0
自然	0	0.0	24	51.1	15	31.9	6	12.8	2	4.3	47	100.0
医学部保健学科	0	0.0	109	29.8	166	45.4	72	19.7	19	5.2	366	100.0
人文	0	0.0	52	23.9	104	47.7	47	21.6	15	6.9	218	100.0
社会	0	0.0	42	35.3	53	44.5	23	19.3	1	0.8	119	100.0
自然	0	0.0	15	51.7	9	31.0	2	6.9	3	10.3	29	100.0
工学部昼間コース	0	0.0	366	33.8	457	42.2	198	18.3	62	5.7	1083	100.0
人文	0	0.0	111	26.9	172	41.6	98	23.7	32	7.7	413	100.0
社会	0	0.0	96	27.4	161	46.0	73	20.9	20	5.7	350	100.0
自然	0	0.0	159	49.7	124	38.8	27	8.4	10	3.1	320	100.0
工学部夜間主コース	2	2.0	52	51.5	38	37.6	8	7.9	1	1.0	101	100.0
人文	1	3.3	18	60.0	9	30.0	1	3.3	1	3.3	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	1	1.4	34	47.9	29	40.8	7	9.9	0	0.0	71	100.0
全 体	2	0.1	767	34.6	934	42.1	406	18.3	108	4.9	2217	100.0
人文	1	0.1	296	29.2	428	42.2	225	22.2	65	6.4	1015	100.0
社会	0	0.0	192	30.0	297	46.3	124	19.3	28	4.4	641	100.0
自然	1	0.2	279	49.7	209	37.3	57	10.2	15	2.7	561	100.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	87	25.6	253	74.4	340	100.0
人文	48	24.7	146	75.3	194	100.0
社会	22	25.6	64	74.4	86	100.0
自然	17	28.3	43	71.7	60	100.0
社会情報学部	22	13.9	136	86.1	158	100.0
人文	6	8.0	69	92.0	75	100.0
社会	8	16.3	41	83.7	49	100.0
自然	8	23.5	26	76.5	34	100.0
医学部医学科	50	29.6	119	70.4	169	100.0
人文	19	22.4	66	77.6	85	100.0
社会	12	32.4	25	67.6	37	100.0
自然	19	40.4	28	59.6	47	100.0
医学部保健学科	56	15.3	310	84.7	366	100.0
人文	27	12.4	191	87.6	218	100.0
社会	21	17.6	98	82.4	119	100.0
自然	8	27.6	21	72.4	29	100.0
工学部昼間コース	231	21.3	852	78.7	1083	100.0
人文	76	18.4	337	81.6	413	100.0
社会	71	20.3	279	79.7	350	100.0
自然	84	26.3	236	73.8	320	100.0
工学部夜間主コース	25	24.8	76	75.2	101	100.0
人文	9	30.0	21	70.0	30	100.0
社会	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自然	16	22.5	55	77.5	71	100.0
全 体	471	21.2	1746	78.8	2217	100.0
人文	185	18.2	830	81.8	1015	100.0
社会	134	20.9	507	79.1	641	100.0
自然	152	27.1	409	72.9	561	100.0

## 平成 21 年度後期授業評価（分野別科目）集計表

区 分	対象者数	提出者数	回収率(%)
教育学部	533	392	73.5
人文	57	52	91.2
社会	221	202	91.4
自然	255	138	54.1
社会情報学部	223	149	66.8
人文	39	29	74.4
社会	95	72	75.8
自然	89	48	53.9
医学部医学科	119	57	47.9
人文	13	13	100.0
社会	47	24	51.1
自然	59	20	33.9
医学部保健学科	234	160	68.4
人文	39	36	92.3
社会	93	71	76.3
自然	102	53	52.0
工学部昼間コース	1,356	927	68.4
人文	248	186	75.0
社会	601	436	72.5
自然	507	305	60.2
工学部夜間主コース	118	99	83.9
人文	0	0	0.0
社会	86	75	87.2
自然	32	24	75.0
合 計	2,583	1,784	69.1
人文	396	316	79.8
社会	1,143	880	77.0
自然	1,044	588	56.3

質問1. 各学問分野の基礎的な枠組みと考え方を理解することができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	0	0.0	114	29.1	217	55.4	50	12.8	11	2.8	392	100.0
人文	0	0.0	24	46.2	24	46.2	3	5.8	1	1.9	52	100.0
社会	0	0.0	52	25.7	115	56.9	29	14.4	6	3.0	202	100.0
自然	0	0.0	38	27.5	78	56.5	18	13.0	4	2.9	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	47	31.5	78	52.3	16	10.7	8	5.4	149	100.0
人文	0	0.0	13	44.8	15	51.7	1	3.4	0	0.0	29	100.0
社会	0	0.0	18	25.0	41	56.9	7	9.7	6	8.3	72	100.0
自然	0	0.0	16	33.3	22	45.8	8	16.7	2	4.2	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	16	28.1	36	63.2	3	5.3	2	3.5	57	100.0
人文	0	0.0	4	30.8	8	61.5	1	7.7	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	6	25.0	17	70.8	0	0.0	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	6	30.0	11	55.0	2	10.0	1	5.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	23	14.4	99	61.9	30	18.8	8	5.0	160	100.0
人文	0	0.0	8	22.2	20	55.6	6	16.7	2	5.6	36	100.0
社会	0	0.0	10	14.1	47	66.2	13	18.3	1	1.4	71	100.0
自然	0	0.0	5	9.4	32	60.4	11	20.8	5	9.4	53	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	295	31.8	528	57.0	84	9.1	17	1.8	927	100.0
人文	3	1.6	72	38.7	93	50.0	16	8.6	2	1.1	186	100.0
社会	0	0.0	120	27.5	269	61.7	40	9.2	7	1.6	436	100.0
自然	0	0.0	103	33.8	166	54.4	28	9.2	8	2.6	305	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	39	39.4	48	48.5	12	12.1	0	0.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	0	0.0	34	45.3	34	45.3	7	9.3	0	0.0	75	100.0
自然	0	0.0	5	20.8	14	58.3	5	20.8	0	0.0	24	100.0
全体	3	0.2	534	29.9	1006	56.4	195	10.9	46	2.6	1784	100.0
人文	3	0.9	121	38.3	160	50.6	27	8.5	5	1.6	316	100.0
社会	0	0.0	240	27.3	523	59.4	96	10.9	21	2.4	880	100.0
自然	0	0.0	173	29.4	323	54.9	72	12.2	20	3.4	588	100.0

質問2. 各学問分野の先端など、より深い内容を知ることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.8	116	29.6	207	52.8	55	14.0	11	2.8	392	100.0
人文	0	0.0	28	53.8	21	40.4	2	3.8	1	1.9	52	100.0
社会	2	1.0	46	22.8	115	56.9	34	16.8	5	2.5	202	100.0
自然	1	0.7	42	30.4	71	51.4	19	13.8	5	3.6	138	100.0
社会情報学部	1	0.7	37	24.8	71	47.7	33	22.1	7	4.7	149	100.0
人文	0	0.0	11	37.9	14	48.3	4	13.8	0	0.0	29	100.0
社会	1	1.4	16	22.2	32	44.4	17	23.6	6	8.3	72	100.0
自然	0	0.0	10	20.8	25	52.1	12	25.0	1	2.1	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	13	22.8	29	50.9	13	22.8	2	3.5	57	100.0
人文	0	0.0	3	23.1	8	61.5	2	15.4	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	5	20.8	11	45.8	7	29.2	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	5	25.0	10	50.0	4	20.0	1	5.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	30	18.8	90	56.3	34	21.3	6	3.8	160	100.0
人文	0	0.0	10	27.8	20	55.6	5	13.9	1	2.8	36	100.0
社会	0	0.0	12	16.9	43	60.6	14	19.7	2	2.8	71	100.0
自然	0	0.0	8	15.1	27	50.9	15	28.3	3	5.7	53	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	250	27.0	489	52.8	152	16.4	33	3.6	927	100.0
人文	3	1.6	60	32.3	78	41.9	39	21.0	6	3.2	186	100.0
社会	0	0.0	106	24.3	240	55.0	77	17.7	13	3.0	436	100.0
自然	0	0.0	84	27.5	171	56.1	36	11.8	14	4.6	305	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	32	32.3	46	46.5	18	18.2	3	3.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	0	0.0	29	38.7	32	42.7	12	16.0	2	2.7	75	100.0
自然	0	0.0	3	12.5	14	58.3	6	25.0	1	4.2	24	100.0
全体	7	0.4	478	26.8	932	52.2	305	17.1	62	3.5	1784	100.0
人文	3	0.9	112	35.4	141	44.6	52	16.5	8	2.5	316	100.0
社会	3	0.3	214	24.3	473	53.8	161	18.3	29	3.3	880	100.0
自然	1	0.2	152	25.9	318	54.1	92	15.6	25	4.3	588	100.0

質問3. 専門にとらわれない、幅広い視野を身につけることができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.8	111	28.3	194	49.5	74	18.9	10	2.6	392	100.0
人文	0	0.0	24	46.2	20	38.5	7	13.5	1	1.9	52	100.0
社会	1	0.5	57	28.2	105	52.0	36	17.8	3	1.5	202	100.0
自然	2	1.4	30	21.7	69	50.0	31	22.5	6	4.3	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	37	24.8	78	52.3	27	18.1	7	4.7	149	100.0
人文	0	0.0	11	37.9	15	51.7	2	6.9	1	3.4	29	100.0
社会	0	0.0	19	26.4	34	47.2	14	19.4	5	6.9	72	100.0
自然	0	0.0	7	14.6	29	60.4	11	22.9	1	2.1	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	16	28.1	30	52.6	9	15.8	2	3.5	57	100.0
人文	0	0.0	8	61.5	4	30.8	1	7.7	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	5	20.8	14	58.3	4	16.7	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	3	15.0	12	60.0	4	20.0	1	5.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	43	26.9	82	51.3	30	18.8	5	3.1	160	100.0
人文	0	0.0	17	47.2	17	47.2	2	5.6	0	0.0	36	100.0
社会	0	0.0	20	28.2	35	49.3	15	21.1	1	1.4	71	100.0
自然	0	0.0	6	11.3	30	56.6	13	24.5	4	7.5	53	100.0
工学部昼間コース	2	0.2	274	29.6	483	52.1	149	16.1	19	2.0	927	100.0
人文	1	0.5	84	45.2	76	40.9	24	12.9	1	0.5	186	100.0
社会	0	0.0	118	27.1	234	53.7	79	18.1	5	1.1	436	100.0
自然	1	0.3	72	23.6	173	56.7	46	15.1	13	4.3	305	100.0
工学部夜間主コース	1	1.0	44	44.4	39	39.4	13	13.1	2	2.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	1	1.3	37	49.3	27	36.0	9	12.0	1	1.3	75	100.0
自然	0	0.0	7	29.2	12	50.0	4	16.7	1	4.2	24	100.0
全体	6	0.3	525	29.4	906	50.8	302	16.9	45	2.5	1784	100.0
人文	1	0.3	144	45.6	132	41.8	36	11.4	3	0.9	316	100.0
社会	2	0.2	256	29.1	449	51.0	157	17.8	16	1.8	880	100.0
自然	3	0.5	125	21.3	325	55.3	109	18.5	26	4.4	588	100.0

質問4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	1	0.3	112	28.6	164	41.8	87	22.2	28	7.1	392	100.0
人文	0	0.0	29	55.8	21	40.4	2	3.8	0	0.0	52	100.0
社会	1	0.5	51	25.2	82	40.6	51	25.2	17	8.4	202	100.0
自然	0	0.0	32	23.2	61	44.2	34	24.6	11	8.0	138	100.0
社会情報学部	1	0.7	37	24.8	58	38.9	36	24.2	17	11.4	149	100.0
人文	0	0.0	13	44.8	11	37.9	4	13.8	1	3.4	29	100.0
社会	1	1.4	17	23.6	28	38.9	15	20.8	11	15.3	72	100.0
自然	0	0.0	7	14.6	19	39.6	17	35.4	5	10.4	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	18	31.6	29	50.9	6	10.5	4	7.0	57	100.0
人文	0	0.0	5	38.5	7	53.8	1	7.7	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	7	29.2	12	50.0	4	16.7	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	6	30.0	10	50.0	1	5.0	3	15.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	35	21.9	85	53.1	30	18.8	10	6.3	160	100.0
人文	0	0.0	16	44.4	16	44.4	4	11.1	0	0.0	36	100.0
社会	0	0.0	16	22.5	39	54.9	12	16.9	4	5.6	71	100.0
自然	0	0.0	3	5.7	30	56.6	14	26.4	6	11.3	53	100.0
工学部昼間コース	4	0.4	276	29.8	470	50.7	151	16.3	26	2.8	927	100.0
人文	2	1.1	76	40.9	90	48.4	18	9.7	0	0.0	186	100.0
社会	2	0.5	112	25.7	219	50.2	87	20.0	16	3.7	436	100.0
自然	0	0.0	88	28.9	161	52.8	46	15.1	10	3.3	305	100.0
工学部夜間主コース	0	0.0	42	42.4	40	40.4	14	14.1	3	3.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	0	0.0	35	46.7	30	40.0	7	9.3	3	4.0	75	100.0
自然	0	0.0	7	29.2	10	41.7	7	29.2	0	0.0	24	100.0
全体	6	0.3	520	29.1	846	47.4	324	18.2	88	4.9	1784	100.0
人文	2	0.6	139	44.0	145	45.9	29	9.2	1	0.3	316	100.0
社会	4	0.5	238	27.0	410	46.6	176	20.0	52	5.9	880	100.0
自然	0	0.0	143	24.3	291	49.5	119	20.2	35	6.0	588	100.0

質問5. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	7	1.8	118	30.1	223	56.9	34	8.7	10	2.6	392	100.0
人文	0	0.0	22	42.3	28	53.8	2	3.8	0	0.0	52	100.0
社会	3	1.5	62	30.7	112	55.4	19	9.4	6	3.0	202	100.0
自然	4	2.9	34	24.6	83	60.1	13	9.4	4	2.9	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	45	30.2	83	55.7	15	10.1	6	4.0	149	100.0
人文	0	0.0	11	37.9	16	55.2	2	6.9	0	0.0	29	100.0
社会	0	0.0	23	31.9	40	55.6	5	6.9	4	5.6	72	100.0
自然	0	0.0	11	22.9	27	56.3	8	16.7	2	4.2	48	100.0
医学部医学科	2	3.5	12	21.1	35	61.4	5	8.8	3	5.3	57	100.0
人文	0	0.0	2	15.4	11	84.6	0	0.0	0	0.0	13	100.0
社会	1	4.2	7	29.2	14	58.3	0	0.0	2	8.3	24	100.0
自然	1	5.0	3	15.0	10	50.0	5	25.0	1	5.0	20	100.0
医学部保健学科	1	0.6	48	30.0	96	60.0	11	6.9	4	2.5	160	100.0
人文	0	0.0	14	38.9	21	58.3	1	2.8	0	0.0	36	100.0
社会	0	0.0	27	38.0	36	50.7	6	8.5	2	2.8	71	100.0
自然	1	1.9	7	13.2	39	73.6	4	7.5	2	3.8	53	100.0
工学部昼間コース	18	1.9	282	30.4	523	56.4	85	9.2	19	2.0	927	100.0
人文	7	3.8	65	34.9	92	49.5	16	8.6	6	3.2	186	100.0
社会	4	0.9	133	30.5	253	58.0	41	9.4	5	1.1	436	100.0
自然	7	2.3	84	27.5	178	58.4	28	9.2	8	2.6	305	100.0
工学部夜間主コース	4	4.0	30	30.3	46	46.5	14	14.1	5	5.1	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	3	4.0	28	37.3	33	44.0	9	12.0	2	2.7	75	100.0
自然	1	4.2	2	8.3	13	54.2	5	20.8	3	12.5	24	100.0
全体	32	1.8	535	30.0	1006	56.4	164	9.2	47	2.6	1784	100.0
人文	7	2.2	114	36.1	168	53.2	21	6.6	6	1.9	316	100.0
社会	11	1.3	280	31.8	488	55.5	80	9.1	21	2.4	880	100.0
自然	14	2.4	141	24.0	350	59.5	63	10.7	20	3.4	588	100.0

質問6. 教員の教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.5	112	28.6	169	43.1	85	21.7	24	6.1	392	100.0
人文	0	0.0	26	50.0	23	44.2	3	5.8	0	0.0	52	100.0
社会	1	0.5	53	26.2	91	45.0	46	22.8	11	5.4	202	100.0
自然	1	0.7	33	23.9	55	39.9	36	26.1	13	9.4	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	33	22.1	73	49.0	31	20.8	12	8.1	149	100.0
人文	0	0.0	11	37.9	14	48.3	4	13.8	0	0.0	29	100.0
社会	0	0.0	16	22.2	32	44.4	17	23.6	7	9.7	72	100.0
自然	0	0.0	6	12.5	27	56.3	10	20.8	5	10.4	48	100.0
医学部医学科	1	1.8	24	42.1	24	42.1	3	5.3	5	8.8	57	100.0
人文	0	0.0	5	38.5	8	61.5	0	0.0	0	0.0	13	100.0
社会	1	4.2	11	45.8	11	45.8	0	0.0	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	8	40.0	5	25.0	3	15.0	4	20.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	38	23.8	79	49.4	38	23.8	5	3.1	160	100.0
人文	0	0.0	16	44.4	17	47.2	3	8.3	0	0.0	36	100.0
社会	0	0.0	18	25.4	41	57.7	12	16.9	0	0.0	71	100.0
自然	0	0.0	4	7.5	21	39.6	23	43.4	5	9.4	53	100.0
工学部昼間コース	4	0.4	330	35.6	440	47.5	121	13.1	32	3.5	927	100.0
人文	1	0.5	86	46.2	87	46.8	11	5.9	1	0.5	186	100.0
社会	1	0.2	140	32.1	219	50.2	57	13.1	19	4.4	436	100.0
自然	2	0.7	104	34.1	134	43.9	53	17.4	12	3.9	305	100.0
工学部夜間主コース	1	1.0	47	47.5	39	39.4	12	12.1	0	0.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	1	1.3	37	49.3	28	37.3	9	12.0	0	0.0	75	100.0
自然	0	0.0	10	41.7	11	45.8	3	12.5	0	0.0	24	100.0
全体	8	0.4	584	32.7	824	46.2	290	16.3	78	4.4	1784	100.0
人文	1	0.3	144	45.6	149	47.2	21	6.6	1	0.3	316	100.0
社会	4	0.5	275	31.3	422	48.0	141	16.0	38	4.3	880	100.0
自然	3	0.5	165	28.1	253	43.0	128	21.8	39	6.6	588	100.0

質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	5	1.3	103	26.3	168	42.9	84	21.4	32	8.2	392	100.0
人文	0	0.0	26	50.0	20	38.5	6	11.5	0	0.0	52	100.0
社会	3	1.5	51	25.2	89	44.1	42	20.8	17	8.4	202	100.0
自然	2	1.4	26	18.8	59	42.8	36	26.1	15	10.9	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	35	23.5	62	41.6	33	22.1	19	12.8	149	100.0
人文	0	0.0	13	44.8	11	37.9	5	17.2	0	0.0	29	100.0
社会	0	0.0	17	23.6	29	40.3	15	20.8	11	15.3	72	100.0
自然	0	0.0	5	10.4	22	45.8	13	27.1	8	16.7	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	25	43.9	24	42.1	6	10.5	2	3.5	57	100.0
人文	0	0.0	6	46.2	5	38.5	2	15.4	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	11	45.8	11	45.8	1	4.2	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	8	40.0	8	40.0	3	15.0	1	5.0	20	100.0
医学部保健学科	1	0.6	44	27.5	67	41.9	43	26.9	5	3.1	160	100.0
人文	0	0.0	25	69.4	9	25.0	2	5.6	0	0.0	36	100.0
社会	0	0.0	15	21.1	37	52.1	19	26.8	0	0.0	71	100.0
自然	1	1.9	4	7.5	21	39.6	22	41.5	5	9.4	53	100.0
工学部昼間コース	6	0.6	287	31.0	407	43.9	183	19.7	44	4.7	927	100.0
人文	2	1.1	97	52.2	68	36.6	17	9.1	2	1.1	186	100.0
社会	3	0.7	92	21.1	208	47.7	101	23.2	32	7.3	436	100.0
自然	1	0.3	98	32.1	131	43.0	65	21.3	10	3.3	305	100.0
工学部夜間主コース	1	1.0	44	44.4	40	40.4	12	12.1	2	2.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	0	0.0	36	48.0	28	37.3	9	12.0	2	2.7	75	100.0
自然	1	4.2	8	33.3	12	50.0	3	12.5	0	0.0	24	100.0
全体	13	0.7	538	30.2	768	43.0	361	20.2	104	5.8	1784	100.0
人文	2	0.6	167	52.8	113	35.8	32	10.1	2	0.6	316	100.0
社会	6	0.7	222	25.2	402	45.7	187	21.3	63	7.2	880	100.0
自然	5	0.9	149	25.3	253	43.0	142	24.1	39	6.6	588	100.0

質問8. 希望した科目を選ぶことができた。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	4	1.0	191	48.7	160	40.8	27	6.9	10	2.6	392	100.0
人文	0	0.0	36	69.2	16	30.8	0	0.0	0	0.0	52	100.0
社会	4	2.0	86	42.6	86	42.6	19	9.4	7	3.5	202	100.0
自然	0	0.0	69	50.0	58	42.0	8	5.8	3	2.2	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	76	51.0	57	38.3	10	6.7	6	4.0	149	100.0
人文	0	0.0	20	69.0	7	24.1	2	6.9	0	0.0	29	100.0
社会	0	0.0	34	47.2	30	41.7	4	5.6	4	5.6	72	100.0
自然	0	0.0	22	45.8	20	41.7	4	8.3	2	4.2	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	30	52.6	22	38.6	3	5.3	2	3.5	57	100.0
人文	0	0.0	7	53.8	6	46.2	0	0.0	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	13	54.2	9	37.5	1	4.2	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	10	50.0	7	35.0	2	10.0	1	5.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	81	50.6	64	40.0	9	5.6	6	3.8	160	100.0
人文	0	0.0	26	72.2	10	27.8	0	0.0	0	0.0	36	100.0
社会	0	0.0	36	50.7	28	39.4	4	5.6	3	4.2	71	100.0
自然	0	0.0	19	35.8	26	49.1	5	9.4	3	5.7	53	100.0
工学部昼間コース	3	0.3	482	52.0	362	39.1	63	6.8	17	1.8	927	100.0
人文	1	0.5	114	61.3	61	32.8	9	4.8	1	0.5	186	100.0
社会	1	0.2	202	46.3	187	42.9	37	8.5	9	2.1	436	100.0
自然	1	0.3	166	54.4	114	37.4	17	5.6	7	2.3	305	100.0
工学部夜間主コース	3	3.0	29	29.3	39	39.4	20	20.2	8	8.1	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	2	2.7	21	28.0	30	40.0	16	21.3	6	8.0	75	100.0
自然	1	4.2	8	33.3	9	37.5	4	16.7	2	8.3	24	100.0
全体	10	0.6	889	49.8	704	39.5	132	7.4	49	2.7	1784	100.0
人文	1	0.3	203	64.2	100	31.6	11	3.5	1	0.3	316	100.0
社会	7	0.8	392	44.5	370	42.0	81	9.2	30	3.4	880	100.0
自然	2	0.3	294	50.0	234	39.8	40	6.8	18	3.1	588	100.0

質問9. クラスの人数は適切であった。

区分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	3	0.8	105	26.8	166	42.3	93	23.7	25	6.4	392	100.0
人文	1	1.9	23	44.2	20	38.5	8	15.4	0	0.0	52	100.0
社会	2	1.0	49	24.3	91	45.0	47	23.3	13	6.4	202	100.0
自然	0	0.0	33	23.9	55	39.9	38	27.5	12	8.7	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	38	25.5	52	34.9	38	25.5	21	14.1	149	100.0
人文	0	0.0	12	41.4	10	34.5	5	17.2	2	6.9	29	100.0
社会	0	0.0	14	19.4	25	34.7	24	33.3	9	12.5	72	100.0
自然	0	0.0	12	25.0	17	35.4	9	18.8	10	20.8	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	18	31.6	23	40.4	13	22.8	3	5.3	57	100.0
人文	0	0.0	6	46.2	6	46.2	1	7.7	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	6	25.0	10	41.7	7	29.2	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	6	30.0	7	35.0	5	25.0	2	10.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	40	25.0	62	38.8	39	24.4	19	11.9	160	100.0
人文	0	0.0	19	52.8	12	33.3	4	11.1	1	2.8	36	100.0
社会	0	0.0	15	21.1	31	43.7	19	26.8	6	8.5	71	100.0
自然	0	0.0	6	11.3	19	35.8	16	30.2	12	22.6	53	100.0
工学部昼間コース	2	0.2	328	35.4	386	41.6	163	17.6	48	5.2	927	100.0
人文	1	0.5	95	51.1	66	35.5	20	10.8	4	2.2	186	100.0
社会	1	0.2	119	27.3	186	42.7	108	24.8	22	5.0	436	100.0
自然	0	0.0	114	37.4	134	43.9	35	11.5	22	7.2	305	100.0
工学部夜間主コース	1	1.0	49	49.5	40	40.4	6	6.1	3	3.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	1	1.3	37	49.3	29	38.7	5	6.7	3	4.0	75	100.0
自然	0	0.0	12	50.0	11	45.8	1	4.2	0	0.0	24	100.0
全体	6	0.3	578	32.4	729	40.9	352	19.7	119	6.7	1784	100.0
人文	2	0.6	155	49.1	114	36.1	38	12.0	7	2.2	316	100.0
社会	4	0.5	240	27.3	372	42.3	210	23.9	54	6.1	880	100.0
自然	0	0.0	183	31.1	243	41.3	104	17.7	58	9.9	588	100.0

質問 10. 教室の環境は適切であった。

区 分	無回答		「1」		「2」		「3」		「4」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	2	0.5	111	28.3	149	38.0	100	25.5	30	7.7	392	100.0
人文	1	1.9	25	48.1	18	34.6	8	15.4	0	0.0	52	100.0
社会	1	0.5	60	29.7	83	41.1	47	23.3	11	5.4	202	100.0
自然	0	0.0	26	18.8	48	34.8	45	32.6	19	13.8	138	100.0
社会情報学部	0	0.0	35	23.5	60	40.3	31	20.8	23	15.4	149	100.0
人文	0	0.0	13	44.8	11	37.9	4	13.8	1	3.4	29	100.0
社会	0	0.0	15	20.8	31	43.1	17	23.6	9	12.5	72	100.0
自然	0	0.0	7	14.6	18	37.5	10	20.8	13	27.1	48	100.0
医学部医学科	0	0.0	16	28.1	25	43.9	11	19.3	5	8.8	57	100.0
人文	0	0.0	7	53.8	4	30.8	2	15.4	0	0.0	13	100.0
社会	0	0.0	4	16.7	15	62.5	4	16.7	1	4.2	24	100.0
自然	0	0.0	5	25.0	6	30.0	5	25.0	4	20.0	20	100.0
医学部保健学科	0	0.0	32	20.0	69	43.1	44	27.5	15	9.4	160	100.0
人文	0	0.0	17	47.2	18	50.0	1	2.8	0	0.0	36	100.0
社会	0	0.0	13	18.3	33	46.5	21	29.6	4	5.6	71	100.0
自然	0	0.0	2	3.8	18	34.0	22	41.5	11	20.8	53	100.0
工学部昼間コース	2	0.2	326	35.2	404	43.6	155	16.7	40	4.3	927	100.0
人文	1	0.5	96	51.6	74	39.8	14	7.5	1	0.5	186	100.0
社会	1	0.2	122	28.0	196	45.0	97	22.2	20	4.6	436	100.0
自然	0	0.0	108	35.4	134	43.9	44	14.4	19	6.2	305	100.0
工学部夜間主コース	2	2.0	43	43.4	34	34.3	19	19.2	1	1.0	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	1	1.3	33	44.0	26	34.7	14	18.7	1	1.3	75	100.0
自然	1	4.2	10	41.7	8	33.3	5	20.8	0	0.0	24	100.0
全 体	6	0.3	563	31.6	741	41.5	360	20.2	114	6.4	1784	100.0
人文	2	0.6	158	50.0	125	39.6	29	9.2	2	0.6	316	100.0
社会	3	0.3	247	28.1	384	43.6	200	22.7	46	5.2	880	100.0
自然	1	0.2	158	26.9	232	39.5	131	22.3	66	11.2	588	100.0

【その他自由記述欄】

区 分	記入有り「1」		記入なし「0」		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	112	28.6	280	71.4	392	100.0
人文	10	19.2	42	80.8	52	100.0
社会	51	25.2	151	74.8	202	100.0
自然	51	37.0	87	63.0	138	100.0
社会情報学部	30	20.1	119	79.9	149	100.0
人文	4	13.8	25	86.2	29	100.0
社会	15	20.8	57	79.2	72	100.0
自然	11	22.9	37	77.1	48	100.0
医学部医学科	14	24.6	43	75.4	57	100.0
人文	2	15.4	11	84.6	13	100.0
社会	9	37.5	15	62.5	24	100.0
自然	3	15.0	17	85.0	20	100.0
医学部保健学科	44	27.5	116	72.5	160	100.0
人文	4	11.1	32	88.9	36	100.0
社会	18	25.4	53	74.6	71	100.0
自然	22	41.5	31	58.5	53	100.0
工学部昼間コース	168	18.1	759	81.9	927	100.0
人文	26	14.0	160	86.0	186	100.0
社会	77	17.7	359	82.3	436	100.0
自然	65	21.3	240	78.7	305	100.0
工学部夜間主コース	24	24.2	75	75.8	99	100.0
人文	0	0.0	0	0.0	0	0.0
社会	23	30.7	52	69.3	75	100.0
自然	1	4.2	23	95.8	24	100.0
全 体	392	22.0	1392	78.0	1784	100.0
人文	46	14.6	270	85.4	316	100.0
社会	193	21.9	687	78.1	880	100.0
自然	153	26.0	435	74.0	588	100.0

## 2 学生支援センター

学生支援センターは、下部組織に学生に対する学生相談・生活部会及び就職支援部会の審議機関を組織し各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援事業の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。

平成21年度は、学生の緊急事態（自殺企図、精神医学的事態、事故、事件など）に対する「群馬大学緊急対応連絡網」を作成し、全学生に周知した。

その他の主な支援等の事項は次のとおりである。

### 2.1 入学料免除及び徴収猶予

入学生について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の罹災、学資負担者の勤務先の倒産や会社都合による解雇等）により入学料の納入が困難な場合、大学院生、専攻科生については、経済的理由により入学料の納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合について、修学を支援するため、入学料免除及び徴収猶予を行っている。

#### 2.1.1 免除申請者数、免除者数

平成21年度入学料免除申請者数、免除者数については次のとおりである。

4月1日入学：免除申請者数 98人、免除者数 48人

10月1日入学：入学料免除申請者はいなかった。

#### 2.1.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成21年度入学料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数については次のとおりである。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 58人、徴収猶予者数 47人

10月1日入学：徴収猶予申請者数 3人、徴収猶予者数 2人

### 2.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により授業料の納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生及び特別な事情（学資負担者が授業料納入期限の6ヶ月以内に死亡若しくは本人又は学資負担者が風水害等の罹災、学資負担者の勤務先の倒産や会社都合による解雇等）により授業料の納入が困難な学生について、修学を支援するため、授業料免除及び徴収猶予を行っている。

#### 2.2.1 免除申請者数、免除者数

平成21年度授業料免除申請者数、免除者数については次のとおりである。

前期：免除申請者数 753人、免除者数 597人

後期：免除申請者数 754人、免除者数 631人

#### 2.2.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

平成21年度授業料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数については次のとおりである。

前期：徴収猶予申請者数 3人、徴収猶予者数 3人

後期：徴収猶予申請者はいなかった。

## 2.3 寄宿料免除

本学では、学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け、寄宿料の納入が著しく困難と認められる場合、寄宿料の免除を行っている。

### 2.3.1 免除申請者数、免除者数

平成21年度寄宿料免除申請者はいなかった。

## 2.4 奨学金

本学では、日本学生支援機構の奨学金と本学に募集依頼のあった地方公共団体や民間奨学団体の奨学金を扱っている。

これらの奨学金は、いずれも学業・人物ともに優秀であり、かつ、健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお、日本学生支援機構の奨学金には、返還時に利息がかからない第一種奨学金と年利率3%を上限とした利息がかかる第二種奨学金があり、いずれも貸与終了後には、返還が必要となる。

### 2.4.1 日本学生支援機構第一種奨学生数（平成21年10月1日現在）

学部生	781人（特別支援教育特別専攻科を含む。）
大学院生	236人

### 2.4.2 日本学生支援機構第二種奨学生数（平成21年10月1日現在）

学部生	1,123人（特別支援教育特別専攻科を含む。）
大学院生	121人

### 2.4.3 日本学生支援機構以外の奨学生数（平成21年10月1日現在）

学部生	21人
大学院生	3人

## 2.5 学生相談体制及び学生相談

本学は、次のような学生相談体制を設け、学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

### 2.5.1 学生相談体制

全学部の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を、また、工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室分室を設けて相談に応じている。

平成21年度は、学生の悩み等に対する指導・助言を行う教職員に対して、よりよい指導・助言ができるようテキスト「学生と向き合う25の提案」を配付した。

### 2.5.2 主な相談事項

主な相談事項は、勉学・進路、メンタルヘルス、クラブ・サークル活動、経済的事情・アルバイト、友人（男女）関係についてなどである。

### 2.5.3 学生相談アンケートの実施及び活用

平成21年12月に講師以上の全教員に対して、平成21年4月1日から平成21年12

月31日までの間にあった学生からの相談内容や各教員の対応について「学生相談アンケート」を実施し、回収率は28.2%であった。

なお、各教員が個々の相談事例にどのように対処したのかの内容を報告書にまとめ、全教員に配付し活用を図った。

## 2.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的とする。

### 2.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

平成21年度前期欠席者数：31名

主な欠席理由：朝寝坊及び気のゆるみ、バイト・クラブ活動等

平成21年度後期欠席者数：54名

主な欠席理由：病気が、進路の迷い（変更）等

### 2.6.2 実施方法、時期

#### 1) 実施方法

- ・実施時期は、5月（前期）と11月（後期）の年2回を実施基準月とする。
- ・調査対象は、卒業研究に着手（研究室に所属）しない学部全学生とする。
- ・調査科目は、各学部が指定した科目とする。  
ただし、1年次前期は、学部の依頼により大学教育センターが指定した健康学原論とし、後期は、欠席状況調査実施要綱で定めた科目とする。
- ・調査方法は、調査科目について連続4回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は、各学部担当事務（1年次生は学務部）が行う。
- ・4回のチェックのうち3回以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号、所属、氏名、住所、電話番号等を記載する。
- ・各担当事務から学部長名（1年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて、クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

#### 2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・実施時期は、6月（前期）、12月（後期）を実施基準月とする。
- ・調査対象は、3回以上欠席した者とする。
- ・調査方法は、クラス担任等が対象者を呼び出し、直接面談により欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い、かつ、精神科医の面談の要否を判断し、その内容を面接票に記載して、その都度学部長（1年次生は学務部）に提出する。

#### 3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1年次生は学務部）に提出された面接票から健康支援総合センター医師が指導の必要があると判断した欠席者と面談を行い、必要なカウンセリング等を行う。

## 2.7 障害学生への支援

聴覚障害や肢体不自由などの障害のある学生に対し、パソコンテイクや学内移動介助などの修学支援を行っている。

### 2.7.1 障害学生数

平成21年度の障害のある学生は、聴覚障害8名、肢体不自由（下肢）1名及び肢体不自由（上下肢）1名の計10名が在籍した。

### 2.7.2 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生は、聴覚障害8名と肢体不自由（上下肢）1名であった。

聴覚障害学生7名には、1授業につきパソコンテイク者2名の交互による修学支援を行い、1名には学生実習のための音量調節機能付き聴診器を貸与した。

また、肢体不自由（上下肢）学生には、大学在学中におけるトイレ・食事・移動などの介助を行う支援者を人材派遣会社から派遣させ行った。

## 2.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課中、学校行事中、学校施設内外における課外活動中、学校施設内にいる間、通学中、学校施設等相互間の移動に係る傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は、学生が正課中、学校行事中及び正課、学校行事としてのインターンシップ、介護等体験活動、教育実習、ボランティア活動等を行う際及びその往復中で、他人にけがを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。

本学では、教育研究の円滑な実施のために、入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

### 2.8.1 加入者数

平成21年度の学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数は、資料のとおりである。

### 2.8.2 請求種別保険金請求件数

平成21年度の学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数は、資料のとおりである。

## 2.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は、学生がJR、私鉄、バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。

学生旅客運賃割引証は、学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で、片道乗車区間の距離100kmを超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については、荒牧地区、昭和地区、桐生地区及び太田地区で証明書自動発行機で行っている。

### 2.9.1 発行枚数及び主な発行理由

平成21年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は、資料のとおりである。

## 2.10 学生寮

本学には、前橋地区に養心寮、桐生地区に啓真寮の2寮がある。

学生寮は、集団生活を通して社会人としての優れた人物の育成及び学生の経済的負担の軽減を図ると共に、人間形成の場として有意義な学生生活を送れるよう設けられている。

### 2.10.1 養心寮入寮者数

養心寮入寮者数（定員は男子77人、女子62人、合計139人、寄宿料月額4,300円）は、月平均で男子67.5人、女子59人、年間平均で126.5人である。

### 2.10.2 啓真寮入寮者数

啓真寮入寮者数（定員は男子のみで102名、寄宿料月額5,900円）は、月・年間平均28.8人である。

## 2.11 生活支援施設

本学では、学生生活の利便性を確保し、経済面の支援を図るために荒牧地区、昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており、群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を、売店では、書籍、日用品、旅行鞆等を市価より安く提供している。

### 2.11.1 食堂

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
座席数	551席	325席	589席
営業時間	11:00～ 14:00 17:30～ 19:30	11:00～ 13:30	11:00～ 19:30
年間営業日数	248日	240日	239日
年間利用者数	163,251人	61,314人	145,981人
提供メニュー数	約120	約70	約120

### 2.11.2 売店

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
営業時間	9:30～ 18:00	10:00～ 18:00	9:30～ 19:15
年間営業日数	237日	236日	238日
年間利用者数	194,837人	137,214人	226,278人

## 2.12 課外活動施設

本学には、各種の課外活動施設があり、学生の利用に供している。その主な施設については、次のような施設仕様、使用等状況である。

### 2.12.1 体育施設

#### 陸上競技場

陸上競技場は、400メートルトラックで、フィールドの材質は土である。体育の授業や、陸上競技部で主として使用している。

また、トラック内側の芝生（インフィールド）も、やり投げ等の陸上種目の他、クリケット等の他のスポーツで使用している。

#### サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、グラウンド材質は土である。サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。サッカー・ラグビー場には、夜間照明も設置している。

サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルなどが主として使用している。

また、教育学部、社会情報学部の体育大会では、このサッカー・ラグビー場と体育館を主会場として使用している。

#### テニスコート

テニスコートは、次の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部を始め、荒牧地区、昭和地区の各テニスサークルが主として使用している。

- ・硬式専用コート3面（クレーコート）
- ・軟式専用コート3面（クレーコート）
- ・全天候型コート2面（オムニコート（人工芝））
- ・両用コート1面（クレーコート。ゴルフ練習施設併設）

なお、オムニコートは夜間照明が設置してあり、水はけのよい人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあり、人気が非常に高い。その反面人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

#### 野球場

野球場は、内野は土、外野は芝生で、夜間照明も設置してある。当該球場は、荒牧キャンパス、昭和キャンパス及び桐生キャンパスの各野球クラブ・サークルが日毎に交替制で使用している。

当該施設を主に使用しているクラブ・サークルは、準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークルアウィル及び医学部準硬式野球部である。

#### プール

プールは、8コースの50メートルプールで、5月～8月まで使用している。水泳部が主として使用しているが、教育学部体育専攻の授業や、教養教育科目のシーズンスポーツ（野外スポーツ、カヌー）などでも使用している。

#### 第1体育館

第1体育館は、クラブ・サークル活動や体育の授業のうち、主として球技用として使用している。バレーボール、バスケットボールなどであれば2面使用可能である。バレーボール

部、バスケットボール部などが主として使用しているほか、教育学部、社会情報学部の体育大会でもサッカー・ラグビー場と並んで主会場として使用している。

## 第2 体育館

第2 体育館は、主として体操競技、ダンスなどの授業、クラブ・サークル活動に使用している。当該体育館には、広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットなどがある。また、卓球部、バドミントン部なども第2 体育館を主として使用している。

## 武道場

武道場は、剣道などで使用している床面が1面、柔道などで使用している畳面が1面の計2面があり、各種武道の授業及びクラブ・サークル活動で使用している。主として剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、レスリング部などが使用している。

## 弓道場

弓道場は、射場と矢取り塚とで構成される施設である。かなり古い施設であり、老朽化が進んでいる。

なお、射場から矢取り塚の的までの距離が、弓道の公式距離である28メートルに満たないため、弓道の公式試合を行うことができず、永年に渡り弓道部より改修願いが出ている。

## 馬場

馬場は、馬術部が使用している施設で、地面の表層は砂、その下が土で、最下層は小石となっている。乗馬して練習すると表面が荒れるため、馬術部学生が常に整地して使用している。

学生が365日馬場の部室に常駐し（授業時間及び深夜を除く）、馬に餌等を与えて馬場を管理している。なお、餌代は学生が拠出している。

### 2.12.2 文化施設

課外活動等で使用している主な文化施設等は次のとおりである。

#### ミュージズホール

ミュージズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

#### 集会室

3室の集会室があり、うち1室は和室である。和室は主に茶道部などが使用している。

### 2.12.3 課外活動共用施設

課外活動共用施設は、主として文化系サークルが共同で利用している施設であり、1階に6部屋、2階に6部屋の計12部屋がある。

音楽演奏に向く防音の効いた室が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

### 2.12.4 合宿所

合宿所には、次の4部屋がある。

談話室（12畳）、1・2号室（22畳）、3号室（14畳）、4号室（14畳）。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

## 2.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

### 2.13.1 学生団体

平成21年度のクラブ・サークルは、資料のとおりである。

本学の運動部の対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスのクラブ等は、「4年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

### 2.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開催している。

・荒牧祭（荒牧キャンパス）は、平成21年11月14日（土）～15日（日）に開催した。

・医学祭（昭和キャンパス）は、平成21年11月7日（土）～8日（日）に開催した。

なお、昭和キャンパスの医学祭は隔年開催のため平成22年度は開催しない。

・群桐祭（桐生キャンパス）は、平成21年10月16日（金）～18日（日）に開催した。

なお、桐生キャンパスの大学祭は、1年毎に群桐祭（小規模）→群桐祭（同）→工学祭（大規模）のサイクルで回っており、平成22年度は群桐祭、平成23年度は工学祭を開催する。

### 2.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区14大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。

平成21年度は、平成21年8月17日（月）～9月1日（火）の日程で全17種目が開催された。会場は以下のとおり。

横浜国立大学担当：陸上競技、テニス、バスケットボール、剣道、卓球

横浜市立大学担当：硬式野球、サッカー、ソフトテニス、水泳、体操、柔道

千葉大学担当：ラグビー、弓道、空手道、準硬式野球、バレーボール、バドミントン

なお、本学は全国大会と日程が重なったため準硬式野球が、メンバー不足のためラグビーが、新型インフルエンザ集団発生のため剣道がそれぞれ不参加となり、計14種目に参加した。

また、平成22年度は信州大学を主管校として、新潟大学、長岡技術科学大学の3大学で行われる。

### 2.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

平成21年度は、

・「飲酒による急性アルコール中毒の弊害の理解」

・「大麻・麻薬等の危険性や使用禁止の理解」

・「リーダーシップのあり方の再認識」

を主眼に開催した。

## 2.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

### 2.14.1 北軽井沢研修所

北軽井沢研修所は、教職員や学生等がセミナーなどで利用することを目的に昭和49年に設置された。

その場所は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山楢2032-242に所在し、敷地面積2,497㎡、研修施設及び田辺記念館で構成される。

開所期間は、毎年5月1日から10月15日までで、研修施設は居室3室、研修室1室、炊事施設(自炊)、風呂等が完備している。収容人数は15人である。利用に際しての施設運営費は、1人1日1,000円である。ただし、本学の教職員及び学生以外は施設使用料として1人1日40円が必要となる。

平成21年度北軽井沢研修所利用状況は、資料のとおりである。

### 2.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、学生及び教職員が起居を共にし相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置された。

所在地は群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根737である。

上信越県境にそびえる草津白根山の中腹に広がる日本有数の温泉地、草津町にあるこの施設は、敷地12,084㎡、建物延2,569㎡で120人を収容することが可能である。

四季を通して、セミナーや体育館を利用してのクラブ合宿の他、冬のスキー、春の新入生合宿、夏の登山及び秋の自然観察など、多彩な利用ができる。

草津セミナーハウス使用料金表(平成21年度)

区 分	(1) 地区国立大学学生・教職員	(2) (1) 以外の者
運 営 費	1,400円(1,900円)	1,800円(2,300円)
施 設 使 用 料	(2) の者のみが負担(毎年4月1日決定)	
食 事	朝食 460円 昼食 500円	夕食 980円

(1) 地区国立大学とは関東甲信越地区国立大学をいう。

(2) ( ) 内の数字は10月1日から4月30日までの運営費となる。

平成21年度利用者数

地区大学所属者	地区大学所属者以外	総 数
3,898人	2,904人	6,802人

## 2.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を開設している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

### 2.15.1 進路状況及び主な就職先

平成21年度の学生の進路状況等は、資料のとおりである。

### 2.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

学生支援センター就職支援部会主催による就職対象学年及び低学年に向けた就職ガイダンスは、次のとおりである。

- 1) 一般企業向け就職ガイダンス・就職模擬試験  
(全26回, 参加延人数: 2, 113人)
- 2) 公務員関係就職ガイダンス  
(全6回, 参加延人数: 283人)
- 3) 1・2年生向けガイダンス  
(全2回, 参加延人数: 109人)
- 4) インターンシップ関係説明会及び成果報告会  
(全9回, 参加延人数: 1, 052人)
- 5) 職務適性診断テスト・各種セミナー  
(全11回, 参加延人数: 456人)

### 2.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、荒牧地区1名及び桐生地区2名のキャリアカウンセラーを配置し、面接形式によるカウンセリングを実施した。

- 1) 利用件数: 151件
- 2) 主な相談・指導内容
  - ・就職活動への指導助言
  - ・職業適性・自己分析の指導助言
  - ・エントリーシートの添削指導助言
  - ・面接試験の指導助言

### 2.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

- 1) キャリアサポート室に設置したコンピューターによるインターネットの利用環境の充実
- 2) 各種企業情報データの検索 (求人件数: 1, 466件)
- 3) 職業適性診断検査の利用 (利用件数: 79件)
- 4) 就職関連書籍・ガイダンス開催ビデオの充実 (貸出可)

### 2.15.5 就職支援の体制強化の充実

- 1) 群馬県及び(財)群馬県勤労福祉センターが前橋, 高崎, 桐生に設置している若者支援「ジョブカフェぐんま」との連携により「Eメール」相談等の利用促進を図った。
- 2) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制を強化した。
- 3) 本学は、県の委託事業であるインターンシップ受入企業開拓受託団体と連携し、インターンシップを推進すると共に機関, 企業, 施設等において学生が実務経験を積むことができる環境を整備した。
  - ・企業紹介説明会参加者: 544人
  - ・実習事前講座参加者: 181人
  - ・受入85機関に実習参加者: 168人
  - ・インターンシップ終了後の成果報告会参加者: 327人なお、実習期間中に職員による受け入れ先訪問を行いインターンシップ充実の支援体制を整えた。
- 4) 各学部同窓会長を介して、所属会員へ就職支援に係る協力依頼を行った。

### 2.15.6 専門家による就職活動のための実践的支援の充実

専門家により「模擬面接の指導」、「グループワークによる演習・指導」、「エントリーシート及び履歴書の作成技術の訓練」及び「公務員試験受験のための試験対策セミナーの開催」をした。

### 2.15.7 就職支援BOOKの作成・配付

就職支援企業との連携により、就職支援BOOK「群大生のための就活ノウハウ集」を作成し、各学部の就職対象学生に配付した。

## 2.16 アルバイトの紹介体制の充実

学生生活を経済的に維持することが困難な学生に対し、荒牧地区はキャリアサポート室、昭和地区は昭和地区事務部学務課学事・学生支援係、桐生地区は工学部学生支援係においてアルバイト情報掲示板を設置し、学生にふさわしいアルバイト情報を紹介した。

### 2.16.1 主な依頼先

キャリアサポート室（荒牧地区）での主な紹介等件数は、次のとおりである。

- ・一般のアルバイト求人数：109件
- ・塾講師求人数：122件
- ・家庭教師求人数：33件
- ・学内学生アルバイト求人数：8件
- ・アルバイト情報掲示利用学生数 延880人

## 2.17 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、学生が編集に参画して作成し、学生向け広報誌として、年1回3月に6,500部発行している。

主な掲載内容は、サークル紹介、研究室紹介、就職関係、キャンパスライフ、キャンパスマップ、大学からのお知らせ等であり、毎年テーマを変更している。

## 2.18 学生支援センター資料集

資料 2-1：平成21年度入学料免除、徴収猶予実施状況

資料 2-2：平成21年度授業料免除、徴収猶予実施状況

資料 2-4：日本学生支援機構奨学生数（平成21年10月1日現在）

資料 2-6-1：平成21年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期）

資料 2-6-2：平成21年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（後期）

資料 2-8-1：平成21年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料 2-8-2：平成21年度学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

資料 2-9-1：平成21年度通学証明書発行枚数

資料 2-9-2：平成21年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料 2-13：平成21年度クラブ・サークル一覧

資料 2-14：平成21年度北軽井沢研修所利用状況

資料 2-15-1：平成21年度学部卒業生の進路状況

資料 2-15-2：平成21年度学部卒業生の主な就職先

	免除申請者数 (人)			免除許可者数 (人)			
	4月入学	10月入学	合計	判定 全額免除 半額免除	4月入学 0 0	10月入学 0 0	合計 0 0
教育学部	0	0	0	全額免除 半額免除	0 0	0 0	0 0
社会情報学部	1	0	1	全額免除 半額免除	1 0	0 0	1 0
医学部	1	0	1	全額免除 半額免除	1 0	0 0	1 0
保健学科	0	0	0	全額免除 半額免除	0 0	0 0	0 0
工学部	0	0	0	全額免除 半額免除	0 0	0 0	0 0
学部の計	2	0	2	全額免除 半額免除	2 0	0 0	2 0
工学部(夜間主)	0	0	0	全額免除 半額免除	0 0	0 0	0 0
教育学研究科 (修士課程)	7	0	7	全額免除 半額免除	3 0	0 0	3 0
教育学研究科 (専門職学位課程)	1	0	1	全額免除 半額免除	1 0	0 0	1 0
社会情報学研究科	5	0	5	全額免除 半額免除	2 0	0 0	2 0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	2	0	2	全額免除 半額免除	0 0	0 0	0 0
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	6	0	6	全額免除 半額免除	4 0	0 0	4 0
工学研究科 (博士前期課程)	60	0	60	全額免除 半額免除	27 0	0 0	27 0
大学院修士課程の計	81	0	81	全額免除 半額免除	37 0	0 0	37 0
医学系研究科 (医科学専攻)	1	0	1	全額免除 半額免除	0 0	0 0	0 0
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	8	0	8	全額免除 半額免除	4 0	0 0	4 0
工学研究科 (博士後期課程)	5	0	5	全額免除 半額免除	4 0	0 0	4 0
大学院博士課程の計	14	0	14	全額免除 半額免除	8 0	0 0	8 0
特殊教育特別専攻科	1	0	1	全額免除 半額免除	1 0	0 0	1 0
合計	98	0	98	全額免除 半額免除	45 0	0 0	3 45

	猶予申請者数 (人)			猶予許可者数 (人)			
	4月入学	10月入学	合計	判定 全額猶予 半額猶予	4月入学 2 0	10月入学 0 0	合計 2 0
教育学部	3	0	3	全額猶予 半額猶予	2 0	0 0	2 0
社会情報学部	3	0	3	全額猶予 半額猶予	2 0	0 0	2 0
医学部	1	0	1	全額猶予 半額猶予	1 0	0 0	1 0
保健学科	3	0	3	全額猶予 半額猶予	3 0	0 0	3 0
工学部	15	0	15	全額猶予 半額猶予	12 0	0 0	12 0
学部の計	25	0	25	全額猶予 半額猶予	20 0	0 0	20 0
工学部(夜間主)	1	0	1	全額猶予 半額猶予	1 0	0 0	1 0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0	0 0	0 0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0	0 0	0 0
社会情報学研究科	1	0	1	全額猶予 半額猶予	0 0	0 0	0 0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0	0 0	0 0
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	0	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0	0 0	0 0
工学研究科 (博士前期課程)	25	0	25	全額猶予 半額猶予	13 6	0 0	13 6
大学院修士課程の計	26	0	26	全額猶予 半額猶予	13 7	0 0	13 7
医学系研究科 (医科学専攻)	4	0	4	全額猶予 半額猶予	2 2	0 0	2 2
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	0	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0	0 0	0 0
工学研究科 (博士後期課程)	2	3	5	全額猶予 半額猶予	0 2	2 0	2 2
大学院博士課程の計	6	3	9	全額猶予 半額猶予	2 4	2 0	4 4
特殊教育特別専攻科	0	0	0	全額猶予 半額猶予	0 0	0 0	0 0
合計	58	3	61	全額猶予 半額猶予	36 11	2 0	38 11

## 平成21年度授業料免除実施状況

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)		合計(延べ人数)	
	前期	後期	判定	前期	後期	合計(延べ人数)
教育学部	全額免除	93	26	26	23	49
	半額免除	102	47	47	59	106
社会情報学部	全額免除	58	10	6	6	16
	半額免除	56	33	40	40	73
医学部	全額免除	45	9	7	7	16
	半額免除	32	22	21	21	43
保健学科	全額免除	96	23	17	17	40
	半額免除	94	48	64	64	112
工学部	全額免除	197	50	38	38	88
	半額免除	230	105	141	141	246
学部の計	全額免除	489	118	91	91	209
	半額免除	514	255	325	325	580
工学部(夜間主)	全額免除	18	5	4	4	9
	半額免除	17	10	9	9	19
教育学研究科 (修士課程)	全額免除	19	3	1	1	4
	半額免除	17	11	13	13	24
教育学研究科 (専門職学位課程)	全額免除	3	2	0	0	2
	半額免除	2	1	2	3	3
社会情報学研究科	全額免除	12	3	0	0	3
	半額免除	10	9	9	9	18
医学系研究科 (生命医科学専攻)	全額免除	5	1	0	0	1
	半額免除	3	4	3	3	7
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	全額免除	17	4	2	2	6
	半額免除	15	10	12	12	22
工学研究科 (博士前期課程)	全額免除	132	25	19	19	44
	半額免除	121	83	88	88	171
大学院修士課程の計	全額免除	188	38	22	22	60
	半額免除	168	118	127	127	245
医学系研究科 (医科学専攻)	全額免除	30	14	14	14	28
	半額免除	29	15	15	15	30
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	全額免除	1	0	0	0	0
	半額免除	1	1	1	1	2
工学研究科 (博士後期課程)	全額免除	26	12	3	3	15
	半額免除	24	10	19	19	29
大学院博士課程の計	全額免除	57	26	17	17	43
	半額免除	54	26	35	35	61
特殊教育特別専攻科	全額免除	1	1	1	1	2
	半額免除	1	0	0	0	0
合計	全額免除	753	188	135	135	323
	半額免除	754	409	496	496	905

## 平成21年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		判定		合計(延べ人数)	
	前期	後期	全額猶予	半額猶予	前期	後期
教育学部	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
社会情報学部	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
医学部	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
保健学科	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
工学部	3	0	3	0	3	0
	3	0	3	0	3	0
学部の計	3	0	3	0	3	0
	3	0	3	0	3	0
工学部(夜間主)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
社会情報学研究科	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
医学系研究科 (生命医科学専攻)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
医学系研究科 (保健学専攻・前期)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
工学研究科 (博士前期課程)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
大学院修士課程の計	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
医学系研究科 (医科学専攻)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
医学系研究科 (保健学専攻・後期)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
工学研究科 (博士後期課程)	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
大学院博士課程の計	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
特殊教育特別専攻科	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
合計	3	0	3	0	3	0
	3	0	3	0	3	0

## 日本学生支援機構奨学生数

平成21年10月1日現在(人)

学部	区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計		
		一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	計
学部	教育学部	33	35	41	51	39	41	44	46			157	173	330		
	社会学部	16	28	18	29	13	23	21	30			68	110	178		
	医学部	10	10	13	20	17	19	10	18	10	21	11	18	177		
	工学部	44	48	31	37	27	50	35	38			137	173	310		
学部	昼間コース	84	139	74	133	88	130	77	113			323	515	838		
	夜間コース	3	7	1	7	4	4	15	26			23	44	67		
計		190	267	178	277	188	267	202	271	10	21	11	18	779	1,121	1,900
専攻科	特別支援教育特別専攻科	2	2											2	2	4
大学院	教育学研究科	5	4	4	3									9	7	16
	社会学研究科	1	0	0	0									1	0	1
大学院	医学系研究科	0	0	0	0									0	0	0
	博士前期課程	5	1	3	0									8	1	9
	博士後期課程	7	5	10	3									17	8	25
	博士前期課程	0	0	0	0	2	1							2	1	3
	博士後期課程	0	0	2	0	2	0	0	0					4	0	4
	博士前期課程	97	56	81	47									178	103	281
工学研究科	5	0	7	0	5	1							17	1	18	
計		120	66	107	53	9	2	0	0					236	121	357

## 平成21年度 学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期）

	教育学部	社会情報学部	医学部	工学部			合計
				昼	夜	計	
1年生 対象者数	名 226	名 108	名 269	名 519	名 31	名 550	名 1,153
欠席者数	0	2	0	3	0	3	5
	0.0%	1.9%	0.0%	0.6%	0.0%	0.5%	0.4%
2年生 対象者数	230	110	280	577	32	609	1,229
欠席者数	3	4	0	4	0	4	11
	1.3%	3.6%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	0.9%
3年生 対象者数	226	120	289	655	52	707	1,342
欠席者数	2	0	1	7	5	12	15
	0.9%	0.0%	0.3%	1.1%	9.6%	1.7%	1.1%
合計 対象者数	682	338	838	1,751	115	1,866	3,724
欠席者数	5	6	1	14	5	19	31
	0.7%	1.8%	0.1%	0.8%	4.3%	1.0%	0.8%

※ 学生数は、平成21年5月1日現在

※ 休学者数は現員の内数

※ 欠席者数下段は、欠席率

## 平成21年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（後期）

	教育学部	社会情報学部	医学部	工学部			合計
				昼	夜	計	
1年生 対象者数	名 226	名 108	名 268	名 519	名 31	名 550	名 1,152
欠席者数	3	5	1	12	0	12	21
	1.3%	4.6%	0.4%	2.3%	0.0%	2.2%	1.8%
2年生 対象者数	230	108	280	574	32	606	1,224
欠席者数	2	3	0	13	0	13	18
	0.9%	2.8%	0.0%	2.3%	0.0%	2.1%	1.5%
3年生 対象者数	225	120	289	655	51	706	1,340
欠席者数	1	0	2	7	5	12	15
	0.4%	0.0%	0.7%	1.1%	9.8%	1.7%	1.1%
合計 対象者数	681	336	837	1,748	114	1,862	3,716
欠席者数	6	8	3	32	5	37	54
	0.9%	2.4%	0.4%	1.8%	4.4%	2.0%	1.5%

※ 学生数は、平成21年11月1日現在

※ 休学者数は現員の内数

※ 欠席者数下段は、欠席率

(平成22年3月31日現在)  
(人)

学部	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
学部							
教育学部	225	232	229	229			915
社会情報学部	80	93	111	87			371
医学部	90	95	97	77	79	87	525
保健学科	147	165	161	123			596
計	237	260	258	200	79	87	1,121
工学部	440	505	519	485			1,949
夜間コース	30	31	33	82			176
計	470	536	552	567			2,125
合計	1,012	1,121	1,150	1,083	79	87	4,532

(平成22年3月31日現在)  
(人)

大学院・専攻科	1年	2年	3年	4年	計
研究科					
教育学研究科	43	48			91
社会情報学研究科	3	6			9
医学研究科	7	7			14
修士課程					
博士前期課程	36	30			66
博士後期課程	7	2	14		23
博士課程	26	27	44	13	110
計	76	66	58	13	213
工学研究科	245	227			472
博士前期課程					
博士後期課程	22	23	28		73
計	267	250	28		545
特別支援教育特別専攻科	17				17
合計	406	370	86	13	875

## 平成21年度学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学生教育研究災害傷害保険						学研災付帯賠償 責任保険	総計
	正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	3	0	1	8	2	14	2	16
昭和地区	1	0	2	3	0	6	0	6
桐生地区	6	3	7	3	1	20	0	20
太田地区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	3	10	14	3	40	2	42

## 資料2-9-1

## 平成21年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
544	394	275	36	272	0	35	0	1556

## 資料2-9-2

## 平成21年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	傷病・治療	計
荒牧地区	22	1,095	740	1,126	275	69	3	3,330
昭和地区	195	2,677	408	1,758	285	134	14	5,471
桐生地区	128	2,025	1,229	831	153	145	9	4,520
太田地区	0	59	10	11	0	0	9	89
合計	345	5,856	2,387	3,726	713	348	35	13,410

## 平成21年度 クラブ・サークル一覧

整理番号	クラブ・サークル名	主な活動地区				区分	備考
		荒牧	昭和	桐生	太田		
1	ボランティアサークル群大アドバンス[Advance]	○				文化部	
2	EFC(子ども教育支援の会)	○				文化部	
3	囲碁・将棋部		○			文化部	
4	泉の会	○				文化部	
5	SRC	○	○	○		文化部	
6	E∞gg[えっぐ]		○			文化部	
7	MMR(徒手療法研究会)		○			文化部	
8	エレクトーン部		○			文化部	
9	演劇部テアトル・ヒューメ	○				文化部	
10	音楽研究会			○		文化部	
11	気象天文研究部	○				文化部	
12	教育サークル・TOSS青竹	○				文化部	
13	郷土研究サークル		○			文化部	
14	Guit's		○			文化部	
15	クラシックギター部	○				文化部	
16	GUFA			○		文化部	
17	グリークラブ	○		○		文化部	
18	軽音楽部		○			文化部	
19	国際医療ボランティアの会(FORS)		○			文化部	
20	国際交流サークルBeyond	○				文化部	
21	群馬大学混声合唱団	○				文化部	
22	茶道部	○				文化部	
23	シネマ倶楽部		○			文化部	
24	写真部(荒牧)	○		○		文化部	
25	写真部(昭和)		○			文化部	
26	写真部(桐生)			○		文化部	
27	手話さーくる でんでんむし	○				文化部	
28	GA研究会	○				文化部	
29	G. K. オールスターズ			○		文化部	
30	交流(ジャオリュウ)	○				文化部	
31	ジャズ研究会(荒牧)	○				文化部	
32	群馬大学吹奏楽団	○				文化部	
33	聖書研究会	○	○	○		文化部	
34	中国文化研究会		○			文化部	
35	鉄道研究会		○			文化部	
36	東洋医学研究会		○			文化部	
37	美術愛好会		○			文化部	
38	ピアノ部		○			文化部	
39	ファンタスティック	○				文化部	
40	フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		文化部	
41	フェイタル・フレーム	○				文化部	
42	フォーク・ロック愛好会	○		○		文化部	
43	Fore-Bridge Orchestra (FOB)		○			文化部	
44	フリークス			○		文化部	
45	Voice Cream (アカペラサークル)		○			文化部	
46	漫画研究部	○		○		文化部	
47	マンドリン・ソサエティ	○				文化部	
48	ムジカ・ノヴァ室内合奏団		○			文化部	
49	メサイア管弦楽団・合唱団	○				文化部	
50	MESS		○			文化部	
51	モダンジャズ研究会(医学部)		○			文化部	

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動地区				区分	備 考
		荒牧	昭和	桐生	太田		
52	モダンジャズ研究会(工学部)			○		文化部	
53	野外教育研究会	○				文化部	
54	八木節同好会			○		文化部	
55	野草を食べる会		○			文化部	
56	夢のわたらせ なないろ号		○			文化部	
57	落語・コント研究会	○				文化部	
58	LEADS		○			文化部	
59	ロボット部			○		文化部	
60	R. F. C (スノーボード)	○		○		運動部	
61	合気道部	○	○	○		運動部	
62	アメリカンフットボール部	○		○		運動部	
63	Et's(バスケットボール)		○			運動部	
64	SSC (太田地区球技)				○	運動部	
65	エスケープ (硬式テニス)	○				運動部	
66	カヌー(バドリング)部	○		○		運動部	
67	空手道部	○		○		運動部	
68	環境プロセススポーツ愛好会			○		運動部	
69	弓道部	○		○		運動部	
70	弓道部(医学科)		○			運動部	
71	弓道部(保健学科)		○			運動部	
72	球遊会(バレーボール)		○			運動部	
73	競技スキー部(医学部)		○			運動部	
74	クリケット部	○				運動部	
75	群馬CRAFT (サッカー・フットサル)	○				運動部	
76	剣道部	○	○	○		運動部	
77	剣道部(医学部)		○			運動部	
78	Get's(サッカー)		○			運動部	
79	硬式テニス部	○		○		運動部	
80	硬式テニス部(医学部)		○			運動部	
81	硬式野球部	○				運動部	
82	ゴルフ部(医学部)		○			運動部	
83	サイクリング部	○		○		運動部	
84	South All Stars	○		○		運動部	
85	サッカー部(全学)	○				運動部	
86	サッカー部(医学部)		○			運動部	
87	少林寺拳法部	○		○		運動部	
88	自動車部			○		運動部	
89	柔道部(荒牧)	○				運動部	
90	柔道部(医学)		○			運動部	
91	柔道部(工学)			○		運動部	
92	準硬式野球部	○				運動部	
93	準硬式野球部(医学部)		○			運動部	
94	水泳部	○	○	○		運動部	
95	全学スキー部	○		○		運動部	
96	Seven Stars (フットサル)	○				運動部	
97	ソフトテニスサークルRough	○	○	○		運動部	
98	ソフトテニス部	○				運動部	
99	ソフトテニス部(医学部)		○			運動部	
100	体操部	○				運動部	
101	卓球部	○		○		運動部	
102	卓球部(医学部)		○			運動部	
103	ダンス部	○		○		運動部	
104	チキチータ荒牧(サッカーサークル)	○				運動部	

整理 番号	クラブ・サークル名	主な活動地区				区分	備 考
		荒牧	昭和	桐生	太田		
105	ツバサFCコーチングスタッフ	○				運動部	
106	てまきねこ(フットサル)	○		○		運動部	
107	トレッキングサークル		○			運動部	
108	軟式野球サークル アウィル	○				運動部	
109	ハチヨン会			○		運動部	
110	ハンドボール部	○				運動部	
111	Ricer care (バイク部)		○	○		運動部	
112	馬術部	○				運動部	
113	馬術部(医学部)		○			運動部	
114	バスケットボール部	○				運動部	
115	バスケットボール部(医学部)		○			運動部	
116	バスケットボール部(工学部)			○		運動部	
117	バドミントン部	○		○		運動部	
118	バドミントン部(医学部)		○			運動部	
119	バレーボール部(全学)	○				運動部	
120	バレーボール部(医学部)		○			運動部	
121	B-STYLE	○		○		運動部	
122	Vit'z(ダブルダッチ)		○			運動部	
123	ビリヤード		○			運動部	
124	ファーストブレイク(バスケットボールサークル)	○				運動部	
125	V. B. C. 桐生(バレーボール)			○		運動部	
126	保健バレーボール部		○			運動部	
127	POTIPOTENT(ホチホテント)		○			運動部	
128	メモリアルテニス部	○				運動部	
129	夜間バスケ			○		運動部	
130	ラグビー部(医学部)		○			運動部	
131	全学ラグビー部	○		○		運動部	
132	陸上競技部(医学部)		○			運動部	
133	陸上競技部	○		○		運動部	
134	レスリング部	○				運動部	
135	Let's Met's		○			運動部	
136	ONE WAY	○				運動部	
137	ワンダーフォーゲル部	○				運動部	

## 資料2-14

## 平成21年度北軽井沢研修所利用状況

(人)

使用月	群馬大学			その他の大学			一般	利用者計	利用者延べ人数
	教員	職員	学生	教員	職員	学生			
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	2	1	9	0	0	0	0	12	14
7月	4	0	26	0	0	0	0	30	45
8月	15	0	52	4	1	8	29	109	199
9月	8	1	60	0	0	0	1	70	107
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	29	2	147	4	1	8	30	221	365

## 平成21年度学部卒業生の進路状況(9月卒業を含む)

H21卒 平成22年5月1日現在

区 分 学 部	卒 業 年 度	卒 業 者 数 (A)	進 学 者 数				就 職 者 数										就 職 活 動 中	そ の 他 (D)	就 職 率 (E) $E=C/(A+B-D)$ $\times 100$		
			大 学 院 ・ 専 攻 科	他 大 学 学 部 等	研 究 生 等	各 種 専 修 学 校 等	留 学	計 (B)	業 種 別 内 訳						計 (C)						
									教 員			医 療 機 関	一 般 企 業	公 務 員		自 営 業				法 左 欄 以 外 の 人 等	
									幼 小	中	高										特 別 支 援
教育学部	H21	228	27	1		4	32	3	63	49	14	9	1	2	20	13		174	15	7	92.1
社会情報学部	H21	112	3				3							1	75	15		94	4	11	95.9
医学部	H21	95					0							88				88		7	100.0
保健学科	H21	176	21				21							123	4	10		137		18	100.0
工学部	H21	531	355		3	3	362								117	22	1	142	5	22	96.6
工学部	H21	93	33				35							1	36	3	1	41	11	6	78.8
計	H21	1,235	439	1	5	7	453	3	63	49	14	9	1	215	252	63	2	676	35	71	95.1

① その他(D)欄は、留学生の帰国、各種試験準備者、家事従事、不明である。

## 平成21年度学部卒業生の主な就職先

## 【教育学部】

## ■学校教育

## 〈公立小学校〉

伊勢崎市 桐生市 越谷市 高崎市 富岡市 前橋市 草津町 中之条町 葛飾区  
太田市 熊谷市 佐野市 館林市 沼田市 松本市 玉村町 長野原町 中原区

## 〈公立中学校〉

上尾市 宇都宮市 鹿島市 熊谷市 高崎市 藤岡市 みどり市 板倉町 みなかみ町  
伊勢崎市 太田市 桐生市 渋川市 館林市 前橋市 大阪府 玉村町 明和町

## 〈公立特別支援学校〉

群馬県 茨城県 埼玉県

## 〈私立高等学校〉

群馬県 栃木県

## ■公務

群馬県(学校事務) 群馬県警察 鳥取県警察  
静岡県警察 長野県警察 館林市役所  
渋川市役所 高崎市役所  
寄居町役場 塩谷広域行政組合(消防)

## ■企業

太田物産(株) トロワデザイン (株)ヤマダ電機  
(株)クレヴァシステムズ 長野県信用組合 (株)ゆうちょ銀行  
(株)群馬銀行 (株)ハイパークリエイション ユニー(株)  
群馬トヨタ自動車 ほかた病院 (株)読売ジャイアンツ  
(株)埼玉りそな銀行 (株)天坊 (株)ライムメンバーズ  
JFL アルテ高崎 前橋商工会議所 (株)ワールド  
相模屋食料(株)

## 【社会情報学部】

## ■公務

群馬県(学校事務) 伊勢崎市役所 鴻巣市役所  
渋川市役所 館林市役所 那須塩原市役所  
本庄市役所 前橋市役所 静岡市(消防)  
長野県警察 航空自衛隊

## ■企業

JFE商事鋼管管財(株) (株)島忠 野村ビジネスサービス(株)  
アーツ税理士法人北関東事務所 (株)ジュピターテレコム 八十二システム開発(株)  
相澤病院 (株)上毛新聞 東群馬信用金庫  
(株)足利銀行 (株)常陽銀行 (株)光通信  
安全・安心サポート(株) 生活協同組合コープぐんま (株)ビジュアルビジョン  
(株)有賀園ゴルフ (株)総合システムプロダクツ 日立INSソフトウェア(株)  
(株)イセトー (株)ダイナム (株)VNS  
(株)一井 高崎信用金庫 富国生命保険相互会社  
岩瀬産業(株) タマホーム(株) プリモ・ジャパン(株)  
岩谷産業(株) (株)竹風堂 (株)ホロンシステム  
上田信用金庫 中央労働金庫 (株)まなびロード  
(株)エドウィン (株)TKC (株)マミーマート  
(株)大塚商会 (株)テクノエイジ (株)マルイチ産商  
(株)オリエントコーポレーション 東亜工業(株) (株)マルハン  
(株)カワチ薬品 東海東京証券(株) 水野産業(株)  
(株)信信用金庫 東電工業(株) みずほ信託銀行(株)前橋支店  
(株)群馬銀行 (株)東和銀行 (株)ミツバ  
群馬トヨペット(株) トシン・グループ(株) (株)ヤオコー  
恒和情報技研(株) (株)栃木銀行 ユーシーシーフーズ(株)  
国立大学法人群馬大学 トヨタ部品群馬販売(株) 郵便局(株)  
コンフェックス(株) (株)ナブアリスト 郵便事業(株)  
(株)ジーシーシー (株)二木ゴルフ (株)ライトオン  
(株)ジーベック 日本出版販売(株) (株)リコー  
しのめ信用金庫 日本赤十字社群馬県支部 (株)両毛システムズ

## 【医学部 医学科】

## ■医療業

石巻赤十字病院 社会保険群馬中央総合病院 都立大塚病院  
伊勢崎市民病院 社会保険神戸中央病院 名戸ヶ谷病院  
NTT東日本関東病院 順天堂大学医学部附属順天堂病院 脳疾患研究所附属総合南東北病院  
大阪大学附属病院 信州大学医学部附属病院 日高病院  
関東中央病院 済生会川口総合病院 平塚共済病院  
群馬大学医学部附属病院 済生会前橋病院 船橋市立医療センター  
公立昭和病院 諏訪赤十字病院 前橋協立病院  
公立富岡総合病院 草加市立病院 前橋赤十字病院  
公立藤岡総合病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 横須賀市立うわまち病院  
国立病院機構高崎総合医療センター 東京慈恵会医科大学附属病院 横浜市立大学附属市民総合医療センター  
自治医科大学附属さいたま医療センター 東京女子医科大学病院 横浜市立大学附属病院  
汐田総合病院 東京大学医学部付属病院 横浜労災病院  
自治医科大学附属病院 東北大学病院 老年病研究所附属病院

**【医学部 保健学科 看護学専攻】**

■公務

群馬県  
足利市  
上田市

群馬県警察  
高崎市  
栃木市

藤岡市  
前橋市

■医療業

上尾中央総合病院  
伊勢崎市民病院  
茨城県立中央病院  
医療生協さいたま生活協同組合  
NTT東日本関東病院  
行田総合病院  
群馬県立病院  
群馬大学医学部附属病院  
公立富岡総合病院

国立国際医療センター  
自治医科大学附属病院  
自治医科大学付属さいたま医療センター  
自治医科大学附属病院  
篠ノ井総合病院  
社会保険群馬中央総合病院  
順天堂大学医学部附属順天堂医院  
済生会栗橋病院  
東京ほくと医療生活協同組合

東邦大学医療センター大森病院  
独協医科大学附属病院  
日本医科大学附属病院  
日高病院  
前橋協立病院  
前橋赤十字病院  
東京大学医学部附属病院

**【医学部 保健学科 検査技術科学専攻】**

■公務

群馬県

■医療業

秋田県立病院機構  
黒澤病院  
群馬大学医学部附属病院  
公立藤岡総合病院  
国際医療福祉大学病院  
埼玉県立小児医療センター

聖路加国際病院  
日本医科大学附属病院  
はるな生協高崎中央病院  
(財)東日本労働衛生センター  
三重社会保険病院

三重大学医学部附属病院病理部  
本島総合病院  
山梨県立病院  
山梨大学医学部附属病院  
老年病研究所附属病院

■企業

(株)アルプ

(株)医療システム研究所

(株)盛岡臨床検査センター

**【医学部 保健学科 理学療法学専攻】**

■医療業

内田病院  
群馬県立心臓血管センター  
群馬大学医学部附属病院  
公立七日市病院  
自治医科大学附属病院

東京都健康長寿医療センター  
長岡赤十字病院  
榛名病院  
日高病院  
前橋協立病院

みどり病院  
美原記念病院  
老年病研究所附属病院  
わかば病院

**【医学部 保健学科 作業療法学専攻】**

■医療業

相澤病院  
温泉研究所附属沢渡病院  
群馬県立心臓血管センター  
群馬大学医学部附属病院  
(財)宮城厚生協会  
佐野厚生総合病院

三枚橋病院  
自治医科大学附属病院  
社団福祉法人毛呂病院 光の家療育センター  
上毛病院  
角田病院  
榛名病院

日高病院  
美原記念病院  
武蔵嵐山病院  
リハビリテーション天草病院  
わかば病院  
老年病研究所附属病院

**【工学部】**

**〔昼間コース〕**

■国家公務

陸上自衛隊

■地方公務

秋田県庁  
群馬県警察  
松戸市消防局  
岡崎市役所

群馬県庁  
警視庁  
高崎市役所

東京都庁  
長野県警察  
明和町役場

**〔夜間主コース〕**

■国家公務

航空自衛隊

■地方公務

福島県警察

那珂川町役場

**【工学部 応用化学科】**

**〔昼間コース〕**

アイワ広告(株)  
一関自動車学校  
SBIトレードウィンテック(株)  
沖電線(株)  
キンダ化学(株)

サンワテック(株)  
(株)JCLバイオアッセイ  
社会保険診療報酬支払基金  
(株)翔栄

(株)食環境衛生研究所  
日本出版販売(株)  
日本地工(株)  
日本天然ガス(株)

**〔夜間主コース〕**

厚木プラスチック(株)  
ヤマト運輸(株)

(株)小島鐵工所  
(株)ローソン

**【工学部 材料工学科】**

木次乳業(有)  
 キヤノン化成(株)  
 (株)群馬銀行  
 FDKトワイセル(株)

(株)大昌電子  
 (株)特殊金属エクセル  
 武州製薬(株)  
 ポリマテック(株)

ミツカワ(株)  
 (株)やまひろ  
 (株)レッドパロン

**【工学部 生物化学工学科】****〔昼間コース〕**

アース環境サービス(株)  
 アイウェア(株)  
 旭化学合成(株)  
 (株)朝日工業社  
 (株)アルビオン  
 MGCフィルシート(株)  
 (株)オプトニクス精密  
 群馬日産自動車(株)  
 劇団クロックガールズ  
 三進工業(株)

正田醤油(株)  
 (株)新進  
 (株)高崎共同計算センター  
 (株)秩父源流水  
 (有)知多エッグ  
 TDCソフトウェアエンジニアリング(株)  
 帝人(株)  
 (株)ニッセーデリカ  
 日本香料薬品(株)

日本製粉(株)  
 (株)フジシール  
 (株)富士通ミッションクリティカルシステムズ  
 フジパン(株)  
 (株)ヤマト  
 (株)ヤマダ電機  
 ユニオンチーズ(株)  
 理研鍛造(株)  
 ルアン(株)

**〔夜間主コース〕**

(株)イマギイレ  
 (株)カインズ

(有)キヨミズ製作所  
 (株)センビ商事

(株)東京測器研究所  
 (株)廣田外科病理研究所

**【工学部 機械システム工学科】****〔昼間コース〕**

上田日本無線(株)  
 (株)MRD  
 エンケイ(株)  
 (株)小田原エンジニアリング  
 (株)カワサキプレジジョンマシナリ  
 (株)ジェイテック

瀬戸信用金庫  
 東和工業(株)  
 トヨタテクニカルディベロップメント(株)  
 西工業(株)  
 日本電産サーボ(株)

(株)古川製作所  
 (株)ミツバ  
 (株)山田製作所  
 (株)ヤマト  
 UMW Toyota Malaysia

**〔夜間主コース〕**

(株)井上牧場  
 (株)宇佐美鋳油  
 エスティーティ(株)

三恵技研工業(株)  
 帝国ビストリング(株)  
 UDトラックス(株)

(株)深井製作所  
 リスパック(株)  
 (株)和漢薬研究所

**【工学部 建設工学科】**

石橋建設工業(株)  
 (株)技研製作所  
 (株)栗田工業  
 (株)黒岩測量設計事務所

スワテック建設(株)  
 東海旅客鉄道(株)  
 戸田建設(株)  
 西日本高速道路エンジニアリング中国(株)

東日本旅客鉄道(株)水戸支社  
 (株)ホープ  
 (株)ヤマダ電機  
 (株)ユニオン建設

**【工学部 電気電子工学科】****〔昼間コース〕**

(株)AWAS  
 (株)関電工  
 (株)小島鐵工所  
 (株)システム・ランド  
 ダイワボウレーヨン(株)  
 中部電力(株)  
 (株)トーエネック

東京パーツ工業(株)  
 トヨタ紡織(株)  
 パッケージ池島(株)  
 (株)日立アイイーシステム  
 日立電子サービス(株)  
 (株)日立フーズ&ロジスティクスシステムズ  
 (株)ナカヨ通信機

富士重工業(株)  
 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ  
 本田技研工業(株)  
 三菱電機(株)  
 (株)山田製作所  
 和興エンジニアリング(株)

**〔夜間主コース〕**

(株)岩瀬歯科商会  
 サーキットシステムズ(株)  
 東邦病院

東北インテリジェント通信(株)  
 星野物産(株)

リスパック(株)  
 (株)山田製作所

**【工学部 情報工学学科】****〔昼間コース〕**

アネックスインフォメーション(株)  
 (株)エヌデーデー  
 (株)沖情報システムズ  
 (株)群馬銀行

(株)ジーシーシー  
 (有)成和抜型製作所  
 東芝インフォメーションシステムズ(株)  
 (株)ニッセイコム

(株)ヤオコー  
 (株)ヤマト  
 (株)両毛システムズ  
 (株)若草印刷

**〔夜間主コース〕**

江北情報サービス(株)  
 (株)関東高圧容器製作所

太陽誘電(株)  
 (株)メタテクノ

## 3 学生受入センター

### 3.1 はじめに

学生受入センターは、オープンキャンパス、高等学校・大学連携授業等を積極的に実施し、各高等学校に向け本学のアドミッション・ポリシーの広報活動を行った。同時に、大学ホームページや各種大学受験案内などに入試情報を掲載し、広報活動を活発化した。また、各種イベントへの参加、高校訪問、外部広報誌の活用等による種々な宣伝活動も積極的に行った。特に、9月中旬から10月下旬にかけての、特別入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項の配付を兼ねた「学生募集要項配付と進学相談会」と銘打った群馬大学独自の進学相談会は3年目を迎え、本年は3会場に於いて開催した。来訪した延べ669名の受験生及び保護者等にフェース to フェースで募集要項を配付するとともに、各学部の進学相談担当教員が進学相談に応じた。

本報告書では、学生受入センターの2009年度における業務内容とその実績について報告する。

### 3.2 オープンキャンパス等

#### 1) オープンキャンパス

平成21年8月1日(土)～2日(日)に、荒牧キャンパスでオープンキャンパスを開催した。これらの日は、これまでの3年間の広報に於いて「群馬大学はオープンキャンパスを8月の第1週の土曜日と日曜日に開催する」と案内してきた2回目の実施日にあたる。1日目は主に医学部・工学部、2日目は教育学部・社会情報学部を対象とした大学紹介・説明を行った。これまでと同様に、群馬・栃木・埼玉の全高等学校及び近県で本学への志願者が多い高等学校を対象に、あわせて5県702校に案内した結果、延べ2,844名の参加者があった。本年の参加者は、昨年より約80名増加した。

また、平成18年度から開始したクラブ・サークル紹介において、今年度はダンスサークルによる実演及び吹奏楽団の演奏を行い、参加者に本学に対する親しみやすいイメージを与えるよう配慮した。なお、当日実施したアンケート調査では、89%の参加者から参加して良かった旨の回答が得られたこと等から、本行事の意義を確認することができた。

#### 2) 募集要項配付及び進学相談会

平成21年9月19日(土)・20日(日)・26日(土)の3回にわたり、本学独自の募集要項配付及び進学相談会を実施した。これは平成19年度から実施した事業である。内容は、高崎市と桐生市及び東京の3会場に於いて、本学の特別入試学生募集要項及び一般入試学生募集要項(入学願書付)を配付し、併せて進学の相談に応じるものであり、受験動向を観察するアンテナ的イベントである。関東(茨城県を除く)・信越地区の高等学校、昨年出願のあった全国の高等学校を合わせて2,100の高等学校及び予備校・進学塾143校に開催案内を送付した結果、延べ669名の参加者があった。当日のアンケート調査では、69%の出席者が本学を第一志望としていることがわかるなど、受験動向を把握する上での有効性を確認できた。

#### 3) 模擬授業・出前授業及び大学見学

平成19年度から基本的に学生受入センターに集約することにより、効率的な運用を図った。その結果、61高等学校に模擬授業・出前授業を実施し、17の高等学校が本学を見学した。

#### 4) 進学相談会

本事業も上記3)と同様、平成19年度から基本的に学生受入センターに集約して行うこととした。今年度、関東・甲信越地区の会場を重点的に、延べ134回の進学相談会に参加し、

延べ2,288名余りの受験生，保護者等に対して入試広報を行った。さらに効果的な入試広報を行うため、地域や主催者別に各会場のデータを収集のうえ、受験生の特性について分析を行った。

#### 5) ホームページ広報

広報室と連携し、受験案内や入試情報，大学説明会の計画等は，直ちにホームページに掲載又は更新するなど，受験生の便宜の向上を図った。また，大学入試センターの運営するハートシステム等の電子媒体に入試情報を掲載することとし，より速報性のある広報活動を行うこととした。

#### 6) 学生受入方針の広報

オープンキャンパス，大学見学会及び進学相談会等の際，入試広報誌等を用いた学生受入方針（アドミッション・ポリシー）の積極的な説明を行った。なお，上記によるPR効果については平成21年度入学者を対象にしたアンケート方式で調査したが，その結果は各学部の学生受入方針（アドミッション・ポリシー）の更新に役立てることができた。

### 3.3 入学者の追跡調査

入試の状況，各種アンケート及び入学後の成績等，入学者の追跡調査結果については，平成22年2月に報告書を発行し次年度以降の入試改革に役立てることとした。

## 4 健康支援総合センター

### はじめに

健康支援総合センターは、平成18年4月に保健管理センターから改組され学生の健康管理を目的として、群馬大学 大学教育・学生支援機構内の1センターとして位置づけられ活動することとなった。その業務範囲については、平成20年度に総務部との協議を経て確認され、その業務内容の報告が平成19年度の本書でなされた。たとえば、大学の独立行政法人化に伴い教職員の健康管理は学校保健安全法よりも厳しい労働安全衛生法に則ることが求められることから、保健管理センターの医師に課されていた荒牧キャンパスの保健管理医業務（資料番号15：保健管理センター規定の第6条）は、荒牧事業場の産業医の業務とされることになった。これにより荒牧キャンパスの保健管理医業務は、保健管理センター業務からは削除された。

今回の報告は、健康支援総合センターとしては20年度に次ぐ3回目である。この3年間に健康支援総合センターの活動は大学執行部、特に大学理事である石川健康支援総合センター長の基に、着実に確実に発展をしてきた。一方、健康支援総合センターは、未だ整備の過程であり医療職が絶対的に不足している状況にある（詳細は後述する）。この状況への対応策は、平成21年度までの第一次中期計画でも課題とされたが、平成21年度に第2期中期計画案（資料番号20）として改めて改善策が作成され健康支援総合センター運営委員会（第9回健康支援総合センター運営委員会：資料番号19）で決定されて大学当局に提出されている。

上述したように医療職の配置人員数は不十分ではあるが、健康支援総合センターは学生の健康の保持増進に有用な事業については、実施可能な体制を構築しながら施行することを目標に改善を行ってきた。今回は21年度の健康支援総合センターの活動を報告する。この報告書から業務に対する健康支援総合センターの工夫と姿勢を感じていただければ望外の喜びとするところである。

### 4.1 平成21年度年間業務実施概要

平成21年度は新型インフルエンザ（ブタ型）の対策に追われた年でした。5月の国家的大騒動から始まって夏の学生の対外試合辞退へ、そして2月の個別入学試験時の別室受験対応までと気の休まらない状況が延々と続いたのでした。幸いにも病原性が低かったので大事には至ってはいませんが、現在でも第二波の到来は否定できずにまだ安心はできないようである。

平成21年度には定例業務とは別に下記の大きな11項目の事業がなされたので順次概要を述べていきたい。

- ①工学部からの要請により、桐生キャンパスでメンタルヘルスに問題を抱える学生の指導・対応に当たっている教員の求めに応じて、健康支援総合センターの教員（精神科医）が定期的に桐生キャンパスに出向いて当該教員の専門的相談に応じる事業を開始した。
- ②入院施設のある精神病院の医師を健康支援総合センターが工学部に推薦し、工学部の精神科の学校医（非常勤）として新たに就任して頂いた。
- ③新たに工学部太田校校でのカウンセリング業務（週1日3時間）を開始した。
- ④教員の学生へのメンタルヘルス対応能力を高めるために、本学の全教員に対してメールで「メンタルヘルス通信」を配信する事業を健康支援総合センターの教員（精神科医）が新たに開始した。
- ⑤工学部の外国人留学生の救急事態、特に精神科救急時に通訳者を配置する仕組みを健康支援総合センターの要請に基づき工学部で作っていただいた。

- ⑥大学生に必要な健康の自己管理に必要なガイドブック「健康ミニガイド ぐんま版」を群馬県内大学等保健管理担当者会議の編集で作成し、新入生全員に配布した。
- ⑦外国人留学生の特別健康診断を全面的に改めて、結核感染の有無を検査するクオンティフェロンTB検査を行った。予算の関係から4月から検査日(11月)までに本学で活動を開始した外国人留学生を対象を限定した。
- ⑧健康支援総合センターの業務状況を可視化する目的で、本学のホームページに「学生健康支援に関するお知らせ」欄を作成し、各種知らせと併せて前年度の業務実績を掲載することとした。
- ⑨健康支援総合センターにAED(自動体外式除細動器)の使用法および心肺蘇生法を独習できるトレーニング機器を整備して利用を呼びかけた。
- ⑩第二次中期計画案を策定し大学当局に提出した。
- ⑪新型インフルエンザの学内での感染拡大防止策としてさまざまな対応策をさまざまな媒体を通して発信した。

1) 工学部からの要請により、桐生キャンパスでメンタルヘルスに問題を抱える学生の指導・対応に当たっている教員の求めに応じて、健康支援総合センターの教員(精神科医)が定期的に桐生キャンパスに出向いて当該教員の専門的相談に応じる事業を開始した。

本事業は、健康支援総合センターの精神科医が桐生キャンパスの教員への相談に応じることによってメンタルヘルスに問題を持つ学生への支援を強化する事業である。21年5月から工学部の教員からの要望が有る場合に月に1回を限度に開始された。またこの事業に要する交通費等の必要経費は工学部が賄うことで実施されることとなった。この事業は工学部の教員の要請に基づいて発足したことから相談を希望する教員には大変に好評であった。しかし、この事業の趣旨が徹底していない初期には運用上の多少の不都合が発生したが、工学部保健室の看護師が工学部の教員の相談目的を確認することで、その後は順調に推移している。

学生本人への相談は、今まで同様臨床心理士である学外カウンセラー(非常勤)に対応していただくことになっている。カウンセリングの結果、医療関与が必要な場合には、カウンセラーの判断で工学部の精神科学校医や近隣の医療機関に紹介するなどの対応をいただいている。精神科医による教員への専門的相談事業の対象は教員に限られているが、カウンセラーに科せられている守秘義務の関係でカウンセラーと教官が直接情報交換ができない場合や、学生自身が問題意識に乏しく相談に消極的な場合、教員として当該学生にどのようにかわるべきかや緊急対応をすべきかどうかなど判断の難しい場合において、教員にとっては健康支援総合センターの精神科医への相談が極めて有用であると評価されている。よって現時点では積極的に継続すべき事業と判断される。

2) 入院施設のある精神病院の医師を健康支援総合センターが、工学部に推薦し工学部の精神科の学校医(非常勤)として新たに就任して頂いた。

従来から工学部の学校医として精神科医の先生お一人にその任をお引き受け頂いていた。しかし、開業されて殆どはご自身の診療所の外来診療に携わっていることから、工学部の学生に精神科救急事態が発生した場合に先生にとっては対応が難しいという問題があった。この問題を解決するために、従来からの工学部の精神科の学校医とも相談した結果、桐生の入院施設を持つ精神科病院と交渉し、そこに勤務する医師を工学部の学校医(非常勤)になっていただくことでこの問題を解決した。

工学部太田校では、入院施設を持つ精神科医を学校医(非常勤)について頂いており、前橋地区では、群馬大学医学部附属病院の精神神経科に対応していただくことになっているので、今回の措置で取り敢えず学生の精神科救急時のベットの確保に見通しができたと考えている。

3) 新たに工学部太田校でのカウンセリング業務を開始した。

工学部の太田校には学校医は発令されてはいたが、21年10月より毎週水曜日に夜間主学生にも対応できるように午後3時から6時までの3時間のカウンセリングを開始した。太田校は前橋、桐生とは離れていることから、現在までの学外カウンセラーとは別のカウンセラーに引き受けていただいた。対象学生数が少ないので他のキャンパスでのカウンセリングと比較して利用件数は少ない。しかし、すべてのキャンパスに相談できる窓口を設置できたことは、学生を公平に支援すべき大学にとっては不十分ではあるが確かな進歩である。

4) 教員の学生へのメンタルヘルス対応能力を高めるために、本学の全教員に対してメールで「メンタルヘルス通信」を配信する事業を健康支援総合センターの教員（精神科医）が新たに開始した。

健康支援総合センターでは、昨年度までの5年間をかけて本学の教職員全員に対してガイドブック「教職員による学生へのメンタルヘルスへの対応」を配布し、教職員の学生へのメンタルヘルス対応能力の向上を図ってきた。前述のガイドブックは順次更新ページを作成して古いページと差し替えていく予定であったが経費と人手が掛かることからメールでの配信で目的を十分に達する事ができることからこの方式に替えた。短時間でメンタルヘルスのポイントが解ると好評である。

5) 工学部の外国人留学生の救急事態、特に精神科救急時に通訳者を配置する仕組みを工学部で作っていただいた。

学生の精神科救急事態発生時には、学内の医療者および担当事務員は高度な対応能力を要求される。そのうえ留学生で日本語が不自由な時期であればさらに対応が難しくなる。そのような事態に備えて留学生の希望学生を通訳者として登録し、事態が発生した場合の通訳費は、工学部の留学生施策充実事業経費で賄う仕組みを作って頂いた。

6) 大学生に必要な健康の自己管理に必要なガイドブック「健康ミニガイドぐんま版」を群馬県内大学等保健管理担当者会議の編集で作成し、新入生全員に配布した。

本ガイドブックは群馬県内大学等保健管理担当者会議の過去10年以上に及ぶ情報交換の中から生まれたもので、大学生の保健管理に直に携わってきた実務者からみた大学生に必要な保健知識が群馬県内の公共医療機関名、連絡先と共に記載されている。内容の利用のしかたは各大学に任されており、学内のホームページに掲載して用いている大学もあるが、本学では冊子として新入生に配布する形態をとった。

7) 留学生の特別健康診断を全面的に改めて、結核感染の有無を検査するクオンティフェロンTB検査を行った。予算の関係から4月から検査日（11月）までに本学で活動を開始した外国人留学生を対象を限定した。

平成20年度までは留学生の特別健康診断は、留学生の低栄養状態の検出を目標に採血検査を実施していたが、低栄養を原因とする健康障害を発現する留学生は認められなかった。留学生に特異的に出現した疾患は肺結核であったことから、母国で感染を受けた留学生が訪日後の厳しい生活で肺結核を発症したものと考えられた。ちょうど数年前から結核感染の有無を簡単に検出できるクオンティフェロンTB検査が我が国で一般化されるようになったことから、留学生の結核の感染の有無を検査し発病を防ごうと考えた。予算が限られていることから新たに本学で活動を開始した学生を対象とせざるを得なかった。これを継続することにより数年後には留学生全員の結核感染の有無を検査することができる予定である。

今回の結果は別項で報告するが、陽性者は日本人の数倍に及んだ。

また、来日2年日以降の外国人留学生については、毎年4月に実施する定期健康診断のX線検査を行っている。

8) 健康支援総合センターの業務状況を可視化する目的で、本学のホームページの学内向け情報の学務部に平行して「学生の健康支援に関するお知らせ」欄を作成し、各種知らせと併せて前年度の業務成績を掲載することとした。

健康支援総合センターの業務は学生にとっては身近な業務ではあるが、一般の教職員、大学の執行部の方々にはなじみのないものであったことから、業務の可視可を目的にホームページへの掲載を行った。多くの教職員に健康支援総合センターの業務内容を理解していただけることが、今後のセンターの発展に繋がると思うからである。

9) 健康支援総合センターに AED（自動体外式除細動器）の使用法および心肺蘇生法を独習できるトレーニング機器を整備して利用を呼びかけた。

AED が社会的に広く設置されるようになった現在では、AED を自信をもって扱えるようにして大学生を社会に出すことは大学の保健教育の一環と考え、独習できるトレーニングセットを整備した。利用数は多くは無かったが学校の教員や医療職に就く学生にとっては、特に望まれる技術であるので、いずれは利用者数が増加するものと考えている。また、本体器の AED は健康支援総合センターで学内すべての地区に配置してある。

10) 第二次中期計画案を策定し大学当局に提出した。

別項に述べるように決定した。第一次中期計画は事務方指導で作成された面が多かったが、第二次中期計画は健康支援総合センターの運営委員会で決定するという余裕のある過程で作成することができた。計画は資料番号 20 に示してある。

11) 新型インフルエンザの学内での感染拡大防止策としてさまざまな対応策をさまざまな媒体を通して発信した。

ホームページ、学部の掲示板および必要に応じクラス担任・指導教員を通じて対応策を指示することができた。特に有効だったのは、学生支援課が学生の発症数をまとめて集計して毎週ホームページに掲載したことであった。今後とも余談は許されない状況にはあるが 21 年度の経験が有効に生かされると考えられる。

以上平成 21 年度における健康支援総合センターの主な活動を概説した。以後定例業務の報告をするが、最初にご理解頂きたいのは平成 19 年度の業務報告書で述べたように健康支援総合センター支援の業務の原則は前橋地区の学生が対象範囲であって、桐生地区、太田地区の学生は含んでいない、両キャンパスの工学部の学生の保健管理は附属学校がそうであるように工学部が委嘱する非常勤学校医によってなされることになっているのである。しかし、健康診断時における内科診察、胸部レントゲン撮影検査の経費の支払い及び学外臨床心理士によるカウンセリング業務に限っては全学一体的に健康支援総合センターが行っている。このように特異な業務態勢ではあるが、わずかずつではあるが確実に活動内容が拡大しながら高度化してきていることが実感できる 1 年であった。特に桐生地区での精神科救急体制が留学生を含めて整備されたことは大きな進歩であった。

しかし、本健康支援総合センターの抱えている問題は容易には解決できないほどに構造的で、かつ解決するには予算・人的資源を必要とするものである。

それは後述するとして以後平成 21 年度の定例業務内容について順次報告したい。

この定例業務は資料番号 1 に示すがその内容は平成 20 年 12 月 22 日開催の第 7 回健康支援総合センター運営委員会で決定されたものである。

#### 4.2.1 及び 4.2.2 学生の定期健康診断状況

平成 20 年度の学生定期健康診断は、資料番号 2 および資料番号 3 に示す日程で行われた。この日程は平成 20 年 6 月 27 日に行われた第 6 回健康支援総合センター運営委員会（委員

長：石川 治（健康支援総合センター長 病院担当理事）において承認されたものである。学生の定期健康診断日程は翌年の胸部レントゲン撮影車の配車を7月中には学外の業者に予約しなければならないことから例年、前年度の7月中には運営委員会に諮り決定している。また、学生定期健康診断には医学部附属病院から半日を1回と算定して延べ36名（桐生地区派遣の医師を含む）の医師の派遣の協力を頂いた。また、検査及び診察補助を目的に看護師を1日を1回と算定し、健康支援総合センター経費で前橋地区の健康診断に延べ49名を学外機関から雇い入れた。

#### 4.2.3 及び 4.2.4 学生定期健康診断受検状況

資料番号4および資料番号5に示すとおりである。学部学生の受検率は前橋地区では全体で94.5%、桐生地区では全体で87.6%と極めて良好である。この受検率は全国的にもトップレベルである。学部別では教育学部96.4%、社会情報学部90.4%、医学部医学科86.8%、医学部保健学科93.2%、工学部1年97.9%、工学部昼間2年以上89.6%、工学部夜間主76.4%と医学部医学科、工学部夜間主以外は89%以上の受診率であった。

1年生だけを見ると教育学部100%、社会情報学部100%、医学部医学科100%、医学部保健学科98.3%、工学部97.9%とほぼ全員が例年と同様に受検した。健康診断日程表で明らかのように健康診断時間は、教養教育の講義時間と平行して行われており特別に休講措置は取られてはいない。それにもかかわらず例年1年生のほぼ全員の健康診断がなされ続けているという事実は、教養教育の授業を担当された先生方の学生の健康診断受検行動に対する多大な理解と御協力の賜と考えられる。本学における学生の健康診断が医学部附属病院の先生方の献身的協力により成立していることをも念頭に、教養教育の授業担当の先生方の引き続きの御協力を御願いたい。

大学院生の受検率は、医学系研究科の受検率が19.3%と極端に低値であった。医学系研究科の院生は医療機関に就業している社会人が多く、所属先の医療機関で健康診断を受けているので大学での健康診断の必要を要しないとの可能性もあるが、今後何らかの方法で所属先での健康診断の実績を含めて実質的受検率を上げることが望まれる。医学系研究科には外国人留学生が多く、彼らは他の医療機関での受検の機会もなく、感染性肺結核症の発生をみたことでもあるので、外国人留学生の大学院生については指導教員の受検への特段の御協力をお願いしたい。

#### 4.2.5 学生定期健康診断における疾患別要観察者数（前橋地区）

前橋地区の定期健康診断時、問診だけで明らかにされた特に管理を要すると判断された病態と該当学生数を資料番号6に示す。特に突然死の原因となりうる心疾患の術後や重度の不整脈が10名強で見つかることは注目に値する。また、ここ数年は治療中の糖尿病が必ず数名見つかるようになってきていることは、1型糖尿病以外に2型糖尿病が若年者での発生が増加していることの反映と考えられ、確実に大学における保健管理の対象疾患が変移している。また、健康診断時にうつ病や統合失調症と申告する学生が出てきたことは、最近の傾向であり社会の精神疾患への理解が進んだのかもしれない。この理解度の増加の事実は我々健康管理に携わる者としてはありがたい傾向である。今回は資料に示すように延べ712病態が明らかとなった。これらの病態を有する学生には、健康診断日の最後に健康支援総合センターの内科医が総合判断し事後指導を兼ねて各人に簡単な指導を行っている。本人が希望する場合には医学部附属病院を含めた医療機関を照会（当該学生には医療機関の受付時間とアクセス法を記載したパンフレットを渡す）したり、紹介状を作成して渡したりしている。照会をしたり、紹介状を発行する学生数は合わせて毎年80名程度である。このように多くの病態が健康診断を契機に学生に改めて自覚させることは学生にとっても好ましく、適切な指導が受けられる機会が提供されたことにもなる。本学の定期健康診断が学生の健康の保持増進に寄与している証左である。また、この作業が本学の学生の定期健康診断受検率が驚異的に高

く、高学年でも落ちない一つの要因ともなっていると判断される。

#### 4.2.6 学生定期健康診断時に発見された異常者数と事後指導結果（前橋地区）

学生の定期健康診断で異常値を呈した数と二次検査の結果を資料番号7に示す。まず対象者には二次検査を健康診断日の直後に行う。二次検査でも異常値が出た場合は医学部附属病院を含めた医療機関での精密検査のための紹介状を発行している。心疾患については、高校生までの検診時における診断技術の高度化で保健管理上問題になる異常が新たに発見されることは殆ど無い。しかし、尿潜血、尿蛋白や高血圧に関しては診断能力が心臓ほどは高度化していないので診断がつかないという者が若干ではあるが残る。最後の手段として経過観察となるが、健康診断を受けた最終的な判断が、要経過観察では継続して健康診断を受けようとする学生の意欲を削ぐことになるので、卒業までにはきちんとした診断を付けさせたいと苦勞をしているところである。また、学校保健上最も注意すべきは胸部異常陰影が肺結核である者を確実に検出することである。そのために健康支援総合センターでは健康診断で胸部異常陰影が疑われた学生に対しては、精密検査を受けるよう再三にわたり勧告する。最後の手段としては学生が正月に帰省することを予測して、正月前に保護者宛に受診することを、保護者からも勧めて頂く旨の依頼文を郵送している。ここまでして精密検査を受けない者に対してはもはや打つ手が無く、大学としては管理責任を果たしていると考えている。

心電図の検査においてはWPW症候群(心臓の刺激伝導系の奇形に起因する不整脈の1種)の扱いに特別な配慮をしている。健康診断時に不整脈の診断歴のある学生で安全な不整脈との確定診断がついていない者について、はまず全員が心電図検査を健康支援総合センターで受け、病的な場合には改めて専門医療機関を紹介している。WPW症候群については、全員について健康支援総合センターで心電図を取り、WPW症候群について教授(内科医)がガイダンスし心電図を渡し常時携帯するように指導し専門医を紹介し、心臓カテーテルアブレーション術(刺激伝導系の一部を焼却する治療法)の適応について判断を受けるように勧めている。

健康支援総合センターでは、平成6年度からBMI(体格指数)が25以上の者を肥満者とし、該当者に呼びかけて早朝空腹時での血糖値、インスリン値、血中脂質の測定を健康診断事後指導業務に位置づけて実施している。平成21年度は67名が受検した。検査結果は全員に説明し、後記する肥満教育プログラムへ勧誘した。肥満教育プログラムは健康診断後に開始し年間を通して行っている。その成績、効果については下記に示す全国大学等保健管理研究集会に発表し論文数編にまとめている。肥満対策は、我が国の保健施策上の重要な課題であり、平成20年度から、はいわゆるメタボ健診と称される特定健診として行政レベルで肥満対策が開始された。このような情勢をふまえて若年成人である大学生への肥満対策は学校保健上でも重要な課題であると健康支援総合センターは捉えている。

大学生の健康の保持増進に取り組む健康支援総合センターの課題は多岐にわたるが、本学ではそのために配置されている教職員は極めて限られている(全国の同等の学生数を擁する他大学と比較して配置職員数は最低レベルである)ことから、必要不可欠な課題から教職員の能力を判断しつつ重点的に教職員を配置をしなくてはならない。学校保健としては授業の成立を破壊する結核をはじめとする感染症の集団感染の発生の防止が最大の任務であるが、次は学業を中断に追い込む可能性のあるメンタルヘルス対策であり、国策となった肥満対策であると考えている。メンタルヘルス対策の中でも特に有病学生数、治療の有効性、スクリーニング方法の完成度及び施設に配置されている医療担当者の人的条件(人数及び能力)から大学生のうつ病対策が大学の保健管理業務では重要項目の1つである。重点的にうつ病の学生を早期に検出し早期に医療の対象とすれば、不健康のために学業を放棄することになる学生の発生を防止できると考えられる。

以上の考え方を健康支援総合センターの運営委員会で承認していただいて現在の業務形態を形成してきた。

#### 4.2.7 健康診断時における精神保健調査

精神保健調査については、主に大学生のうつ状態を早期に発見することを目的に全学生を対象に行った。結果を資料番号8に示した。これまでの慣例に従って、新入生を対象とした調査と、在學生を対象とした調査を分けて実施した。ちなみに要医療とは医療機関での投薬治療が必要と判断された者、要カウンセリング者とは医療機関で投薬治療の必要はないが引き続き健康支援総合センターで面談を継続的に行うケース、要観察は随時相談を強く推奨する学生をさす。

新入生を対象とした調査結果は、資料に示すとおりである。健康支援総合センター准教授(医師)を中心に医学部附属病院精神科神経科医師および健康支援総合センターの学外臨床心理士の協力をいただき、うつ病を含めた精神疾患の有無をスクリーニングしており、最終的には数名の要医療者を検出した。医学部附属病院精神科神経科医師は学生の定期健康診断の内科診察の代替としてご協力をいただいているが、学生の健康診断への応援としては高頻度であり、紙面を借りて神経精神科教室に深く感謝申し上げる。平成21年度は新入生1,321名のスクリーニングを行い、要面談者101名を検出し、60名に面談を施行、要医療者1名、要カウンセリング者3名、要観察5名を検出した。ほぼ昨年度と同様の数になっている。在學生の精神保健調査は前述したように、うつ病スクリーニングの調査票への記入方式で行い、面談と診断は健康支援総合センター准教授(医師)が中心となり、昭和、桐生、太田の各キャンパスに出向いて行った。平成21年度は4201名を対象として149名を検出し、96名(昨年度56名の約2倍)に面接を行い、要医療者8名、要カウンセリング者13名、経過観察14名を検出した。いずれも昨年度より増えている。

今年度は呼び出し閾値を下げ、なるべく早期の対応を目指して面談と助言を行った。その結果、職員の負担は増えたものの面接対象者と面接実施が増え、在學生の要医療該当者を早期にスクリーニングし、適切に受療へ結び付けることができたと考えている。一方で、新入生の面談率を高めることが今後の課題である。入学直後の質問紙記入に関しては、「春やすみの不安な気持ち」「入学時の不慣れやあわただしさ」によるものが多く、その後の面接呼び出し時点では、悩みや混乱はすでに解決した、という電話での返答が多かった。記入時期含め、今後の検討を要する。

### 4.3 外国人留学生健康診断状況

外国人留学生の特別健康診断を毎年11月頃に行っている。平成21年度からは留学生の結核感染の有無を検査するクオンティフェロンTB検査と引き続きのうつ病のスクリーニング検査を行った。前年までは留学生の栄養状態を調査していたが、日本人では全く発見されない感染性結核が留学生には過去10年間で3名が発見されたこと、および結核感染をツベルクリン検査と比較して圧倒的に適切に診断できる検査法であるクオンティフェロンTB検査が一般化されたという二つの理由から、第8回健康支援総合センター運営委員会の議決を経て、クオンティフェロンTB検査を行った。荒牧キャンパス、昭和キャンパスで1回、桐生キャンパスで2回、1回の検査に3から5時間をかけて行っている。経費が十分では無かったので、対象を4月から本学で活動を開始した外国人留学生に限定せざるを得なかった。この方法でも数年後には全ての外国人留学生の検査が終了できると考えている。

受診率及び検査結果を資料番号9に示す。受検率は62.4%で、陽性者が4名(4.3%)、擬陽性が5名(5%)であった。陽性者、擬陽性者は次のように指導した。4月に胸部レントゲン検査を受けて異常が無い者は毎年必ず胸部レントゲン検査を受けるように指導した、それ以外の者は医療機関を紹介した。

陽性率ではあるが、平成22年度に行った医学部1年生297名の検査では陽性者が2名(0.7%)であったことから外国人留学生の陽性率は日本人学生の数倍はあるようである。

この検査の陽性者から22年度の胸部レントゲン検査で肺結核症が発見された。排菌がな

されない初期に発見できたのは 21 年度のクオンティフェロン TB 検査が有用であった証左と考えている。以上から平成 21 年度に開始したこの事業は継続して行う意義があると考えられる。

また、今回のうつ病のスクリーニングでは留学生にはうつが疑われる高得点者は検出されなかった。

## 4.4 ウイルス性疾患抗体検査

本学では附属病院での臨床実習を安全に行うための教育上の安全配慮策として医学部が主体で平成 18 年度から医学部の新入生全員に対して麻疹、風疹、水痘、ムンプス（流行性耳下腺炎）、B 型肝炎に対する抗体価を測定して陰性者にワクチンの接種を行うこととなった。具体的には、採血検査及び麻疹、風疹、水痘、ムンプスのワクチン接種は医学部附属病院感染制御部が、抗体価検査は同検査部が行っている。B 型肝炎ワクチン接種は医学部の委嘱により健康支援総合センターが行っている。資料番号 10 に示すようにワクチン接種前の B 型肝炎ウイルス抗体陽性者は 2.3%であり、全員が保健学科の編入学生であった。

麻疹、風疹、水痘、ムンプスの抗体検査の結果を資料番号 10 に示す。話題の麻疹に対しては約 6.1%が陰性であった。平成 21 年度の陰性率は 25%であったことからすると国によって平成 20 年度から開始された第 4 期の麻疹ワクチン接種が効果を発揮してきたように思われる。流行を抑制するには疫学的には人口の 95%が抗体を有する必要があるとされているので、高等学校での更なるワクチン接種の勧奨が求められ。これら抗体が陰性の者に対しては医学部附属病院感染制御部が附属病院の患者として附属病院でワクチン接種を行った。

この事業に関わる経費は全額新入生の負担で行っている。新入生に対する検査およびワクチン接種の意義の説明は医学部の判断で行っており、ワクチン接種に関わる個別指導及び副反応への対応は健康支援総合センターで行っている。

## 4.5 健康支援総合センター利用者等

健康支援総合センターで行った健康相談人数、件数、内容について報告する。  
学外のカウンセラーによる業務は別の項（資料番号 14）で報告する。

### 4.5.1 利用者数

健康支援総合センターの利用件数を所属学部別に分類した結果を資料番号 11（整理番号 9）に示す。桐生キャンパス所属の学生数は荒牧キャンパスで研究をしたり、クラブ活動で荒牧キャンパスに来ている時に利用した者の数である。それぞれ月別に集計して表示した。年間延べ 1,083 名の利用があった。延べの計算ではあるが、この利用数は前橋地区の学生 3,878 名のうち 3 人に 1 人が利用したことになる。大学の保健施設としては十分に機能している状態と判断される。

### 4.5.2 利用件数

利用件数を健康相談、精神保健相談、健康診断書の発行の 3 つに分類し月別に集計した結果を資料番号 11（整理番号 10）に示す。

この表での健康相談は応急処置を含むからだの健康相談としてまとめている。

健康診断書は各キャンパスから自動発行されること、および就職時の提出が義務づけられなくなったことから健康支援総合センターからの発行数は激減している。しかし、様式が決められている健康診断書については手書きをして発行しておりその数は 41 通であった。

学校保健安全法に定められている（健康診断で行う検査項目）以外の検査項目についての記入を求められる診断書については健康支援総合センターでは作成できないので所属学部の

担当部署を通して医療機関で作成していただくように指導している。多くは教育学部の教員としての就職や医学部学生の研修病院のマッチング試験時に提出を求められる健康診断書であるが、提出先の対応を変えていただかないと抜本的には改善できないと考えている。

#### 4.5.3 疾病領域別利用者数

疾患領域別利用者数を月ごとに集計した表を資料番号 1 1（整理番号 12）に示す。

呼吸器系 277、精神科 275 が圧倒的に多数であり、外科・整形外科 152、内分泌・代謝系 122 と続く。呼吸器系 277 名とはほとんどがいわゆる風邪である。

精神科は 275 と昨年度とほぼ同数であるが 19 年度と比較してほぼ倍増している。これは健康支援総合センター内で開始された学外カウンセラーの貢献が大きい。学生はメンタルヘルスに関する相談機会が拡大すれば確実に利用するものなのであろう。であるとするなら大学はすべてのキャンパスにおいて学生にとって十分な相談機会を提供すべきであろう。工学部や医学部でのメンタルヘルスに関する相談機会の拡大は今後の重要な課題と考えられる。

次の外科・整形外科 152 名は外傷、捻挫が殆どである。風邪と外傷の利用者が約 430 名で全体の 40%弱を占めている。応急処置として看護師が主に対応している分野である。次の内分泌・代謝系 122 名は健康支援総合センターの医師が内分泌、糖尿病の専門医及び精神科医であることからこの分野については、外部の医療機関に任せることなく健康支援総合センター医師が継続的に学生との相談を行っていることを示している。

風邪や外傷という応急処置ではない理由での利用者の 60%強が健康支援総合センターを利用していることは、健康支援総合センターの医師やカウンセラーたちが学生の健康相談機関として十分に機能していることを示しているものと判断できる。

#### 4.5.4 医療機関紹介の診療科分類

健康支援総合センターから他の医療機関へ紹介した患者の紹介先を診療科毎に分類して月毎に集計した表を資料番号 1 2（整理番号 13）に示す。精神科を含めてのべ 220 回の紹介をしている。大学が 35 週開講しているとして 1 日あたり 1 人以上の割合で医療機関への紹介を要する学生が健康支援総合センターを訪れたことになる。応急処置までが医療行為として期待されている健康支援総合センターとしては妥当な数であろう。これだけ多数の紹介数があるということは健康支援総合センターが学生にとっては良い健康相談機関となっていることを示しているものと考えられる。

全科に及ぶが、外科・整形外科 44 名、皮膚科 19 名が目立つ。これは健康支援総合センターの医師に外科系がいないことと、学生にとってちょうど相談しやすい疾患であることの二つの理由からだと考えられる。スポーツ障害・整形外科相談を整形外科医の学校医に定期的に行っているが、緊急性を要する学生の病態には対応できず、どうしても外部の医療機関での加療を依頼することとなるのでこのような数になると解釈できる。整形外科の学校医はもっぱら慢性的なスポーツ障害相談を行っている。健康支援総合センターの近くには、医学部附属病院を含めて優れた整形外科の診療機関があるので、実際に診療に迷ったり、困ったりすることはない。皮膚科についても同様である。

#### 4.5.5 薬剤別処方日数

健康支援総合センターで処方した薬剤の量を投与日数で集計し、資料番号 1 3（整理番号 16）に示す。合計 1,012 日分を処方した。解熱・鎮痛剤、感冒剤が 7 割を占めている。応急処置として処方できるとすればこうなるであろう。

#### 4.5.6 常備薬使用数

上記の内容を使用薬剤毎に月毎に集計して資料番号 1 3（整理番号 17）に示す。錠剤は

1錠、軟膏等外用薬は1本、1瓶を1単位として算定した。総合計3,014単位中で感冒薬であるPL顆粒が939単位と圧倒的に多い。次が解熱鎮痛薬751単位、これらは抗生剤と合わせて主に上気道感染症に使用したものである。次いで整腸剤、抗胃炎剤の合計が267単位で続く。次いでシップ剤の97単位となる。これら4種類の合計が20,54単位と処方の7割を占めている。この事実は応急処置だけを行い継続的な加療を行わない大学内での医療機関としての機能を明確に表している。

また年間3,014単位の処方数は学生の応急処置用の医療施設として健康支援総合センターが十分機能していることを表していると考えられる。

基本的には生活指導や肥満教育などの保健指導業務やカウンセラー業務には薬剤は使用されないため、ここに挙げた数字だけでは健康支援総合センターの診療内容の全体を知ることができないが、応急処置を求めて利用する学生の疾患の質と割合が類推できる興味深い統計である。

## 4.6 健康相談・精神保健相談

### 4.6.1 健康相談・精神保健相談の対応内容

健康相談をからだの健康相談とこころの健康相談に大きく分けて対応毎に月毎に集計した結果を資料番号11（整理番号10,11）に示す。

この表では精神保健相談は健康支援総合センター内での利用者数を示し、精神科医によるものを「准教授カウンセリング」、学外カウンセラーによるものを「カウンセラーカウンセリング」と表した。カウンセラー紹介は学外のカウンセリング施設への紹介をさす。健康支援総合センターでは学校医である整形外科医及び産科婦人科医にそれぞれ定期的に完全予約制でスポーツ傷害・整形外科相談及びレディースクリニックを開催していただいているのでその利用数を示した。数は少ないが、健康支援総合センターの医師としては専門的判断が困難であり、専門医での治療が必要かどうか迷っているスポーツクラブ所属の学生や婦人科受診をためらっている女子学生たちにとっては極めて大切な外来となっている。救急転送は3件であった。救急転送の原則は前橋市の救急車で医学部附属病院への搬送であるが、場合によってはタクシーによる輸送を行っている、その際には看護師が添乗することになっている。

### 4.6.2 精神保健相談者数

健康支援総合センター内で行った精神・心理相談者数を学生の所属キャンパスに分類し、月毎に集計して資料番号12（整理番号14）に示す。精神科医である准教授と臨床心理士である2名の学外カウンセラー（10月より開始された太田キャンパスでのカウンセリングは桐生工学部に含む）、およびキャンパスごとの業務を合計して集計している。

准教授カウンセリングは、総数が昨年度より約倍増した（48から90）。一方カウンセラーによる総数は、25%減少した。また医療機関への紹介は、約3倍に増えた。相談の総数はあまり変化がなく、これまでカウンセラーが抱えていた事例で、医療の関与も必要なやや重いケースが適切に准教授への相談受診につながり、結果として医療機関にスムーズな連携がとれつつあることを示している。

学生支援センターの学生相談・生活部会が毎年2回行う学生の欠席状況調査の結果で、担当教員から精神科医との面談が必要と判断された者に対して准教授が精神保健相談を行っており、その対応例もここに含まれている。

また昨今、向精神薬の厳密な管理使用が要請されている。緊急対応以外の向精神薬使用は極力避ける方針に則り、今年度投薬は行われていない。

### 4.6.3 精神保健相談内容

相談に訪れた動機を5つのカテゴリーに分類し、月毎に集計して資料番号12（整理番

号 15) に示した。当然のことながら、総数は 340 と昨年度 (278) より 3 割近く増えている。心体の不調を動機に訪れる者がほとんどであるが、修学上の問題や対人関係を動機とする学生も多い。実際の来談原因内訳は、部活動や科内の対人関係、進学就職、性格など重複し、その内容も多岐にわたる。診断も、うつ病、統合失調症、不安障害、摂食障害と多様で、その多くは適応障害圏と考えられた。

一方で、主訴の基盤として発達障害、もしくは自閉スペクトラム特性を少なからず有している学生が、さまざまな対人コミュニケーションや集団行動、修学上の困難を抱え、2 次的な心身不調を呈する事例も多かった。こうした学生のほとんどは、発達障害的個性に関する確定診断を行うには、発育養育家族歴など情報が乏しく、横断的な主訴を通じて特性を推測し、助言や指導を行う以外手立てが少ない。むしろ、教職員や友人など周囲に対するコンサルテーション（構造化や視覚化などのかかわりの工夫）が有用で、実際そうした助言工夫が有用だった事例も多かった。

## 4.7 カウンセリング状況

### 4.7.1 学外臨床心理士による心理カウンセリング数

この業務は健康支援総合センターの業務として平成 19 年度から学内全 3 キャンパスで開始したものである。利用者数は資料番号 1 4 のとおりである。開設時間は荒牧、昭和キャンパスがそれぞれ週に 1 日 8 時間、桐生キャンパスが週に半日 2 回計 8 時間（10 月から 11 時間に贈）である。平成 21 年度においては、10 月より念願だった太田キャンパスでの相談が開始された（週 1 回、3 時間）。これで、各キャンパスに必ず臨床心理士に相談する機会が設けられたことになる。

昨年度に比し利用者数はほぼ横ばい、回数は約 2 割増であった。今後ともカウンセリング利用件数は、伸びもしくは維持が予測される。特に桐生キャンパスでカウンセリング対応能力は現在ほぼ限界に近づいており、極めて近い将来にカウンセリング業務時間の拡大が必要となろう。内容的にも、対応の難しい相談が増えているという報告もあり、別の支援方法を組み合わせることも視野に入れている。

カウンセリングは他の健康支援総合センターの業務と同様に学生のためだけに設置されている。教職員のカウンセリングを受けなければならない根拠はない。なぜなら健康支援総合センターの前身である保健管理センターの運営経費は「学生あたり積算公費を充てる」との決定事項があり、荒牧キャンパスの保健管理医としての業務を行う（保健管理センター規定第 6 条：資料番号 1 5）以外は教職員を診ることは設立当初から義務づけられてはいないのである。保健管理センターの診療対象者として本来は教職員を含まないことは昭和 4 1 年に文部科学省から出された保健管理センター管理の設立趣旨「保健管理センターの設置について」（資料番号 1 6）に明記されている。よって、教職員の保健管理業務については含んだとしても荒牧キャンパスの保健管理医としての業務に限られているのである。またこれらのことは本報告の冒頭に述べたごとくに平成 19 年度の本報告書を作成する際に総務部の確認を得ている。特に健康支援総合センターのカウンセリング業務は現在では学外の臨床心理士にお願いしているが、本来は学生のメンタルヘルス対応を目的に各学部の教員に健康支援総合センターの運営経費で委嘱されていたのである（詳細は過去の保健管理センター業務報告書をご覧ください）。しかし学生の教育をする立場の教員がクライアントとしての学生をカウンセリングすることは困難であるという理由で、健康支援総合センター運営委員会の議決を経て学外の臨床心理士にお願いすることになったのである。このような健康支援総合センターのカウンセリングの目的と成立過程からして健康支援総合センターが行うカウンセリング業務の対象には教職員は含まれてはいないのである。しかし、教職員が目の前で疾病に苦しんでいる時に医療者である健康支援総合センターの教職員は無視をすることはしない、医療者としての良識に従って傷病者に対応する。すなわち、健康支援総合センターでは教職員

に対する医療相談業務を健康支援総合センターの行うべき業務として行っているわけでは無い、医療者としての良心に基づくボランティア活動として行っているのである。よって他の健康支援総合センターの業務と同様にカウンセラー業務においても教職員に対しては継続対応はせずに外部の心理相談機関（県労働安全衛生センターなど）や心療内科や精神科等の医療機関で診療を受けるように誘導している。実際の教職員への関与数は緊急的なガイダンスや窓口的対応に限っても年間に20回あり、准教授対応と合わせると約30回程度になる。その半数は桐生地区であることから桐生地区では教職員に対してカウンセリング業務の位置づけ（原則的には教職員はカウンセリングの対象者ではないこと）が周知されていないのかもしれない。いづれにしても他の職員が身近に勤務し、加えて学生と鉢合わせするような場所に、悩みを抱えた教職員が精神的な相談に進んで訪れるとは想像しがたい。今後は大学として教職員のメンタルヘルスへの真摯な取り組み、たとえば適切な外部機関との連携（EAPなど）が必須であるが、学校保健安全法ではなく労働安全衛生法に則るべき事案である。はっきりしていることは学生のメンタルヘルスに対応するべく積み上げてきたシステムを、そのまま職員メンタルヘルスにも使いまわすという発想は甚だ危険である。もはや健康支援総合センター教職員の医療職としてのボランティア精神だけでの対応で済む事態でないことは、精神疾患での休職数増加や労災、自殺予防の社会的動向を見ても明白である。

#### 4.8 教員による教養教育への参加等教育への参加状況

健康支援総合センターの教員は教養教育の講義を担当している。具体的には例年のように健康学原論の中で前期に教授、准教授がそれぞれ90分の講義を5回行った。

教授は「大学生に必要な保健知識（酒の健康学、たばこへの対応、避妊と性感染症、依存症）」、准教授は「大学生のメンタルヘルス（特に危険な薬物について）」をテーマに1年生を対象に講義を行った。1回につき約300名の学生を相手に短時間で大量の内容を講義をする必要から大学の講義とは言えない、ほとんど講演会に近い状況でのただただ一方的に知識を伝えるだけの講義となっている。

大学生の保健管理を専門とする健康支援総合センターの教員としては、学生が是非とも身につけて欲しい事項は多々あるが、1年生全員（約1,300名）に一律に教えるとなると時間的にも人的にも余裕の無い健康支援総合センターの教員体制では現在の講義形態とならざるをえない。以後のことはほとんど実現の可能性は無いが、教養教育の中で保健や自己防衛や自己管理や障害者との共生など社会人として生きていくための基本知識をきちんと伝えるという目的での講義がなされるのが理想であり、その方向で現在の講義形態が改善されるべきである。

また2月19日に学務部主催の第25回クラブ・サークルリーダーシップ研修会において、教授が「急性アルコール中毒を防ぐために」と題して90分間の講演を行った。

その他准教授は、医学部医学科2年生「人の成長と発達－脳と心の発達」（1コマ）、同3年生「行動科学－不安」（1コマ）を行った。

また、准教授は放送大学大学院非常勤講師として、家族心理学特論の放送授業を担当した。

#### 4.9 教員による健康管理に関する調査研究業務

教員による健康管理に関する調査研究業務の結果は、論文及び学会発表として公表した。健康支援総合センターの教員の健康管理に関する調査研究は、健康支援総合センター規程の第3条の第5項に「健康に係る調査及び研究に関すること」と規定されているように業務であり、大学の教員が任意にテーマを選んで自由に行う教官研究費や科学研究費や奨学寄付金での研究活動とは異なりその活動は運営経費で賄われるべきものであるが、その額はわずかである。

## I：教授分

### 論文発表：

- 1；肥満大学生に対する肥満教育の効率的実施法の開発の試み  
大島喜八、久保田文雄、八重樫聡子、小野里清美  
群馬大学健康支援総合センター、同工学部保健室  
CAMPUS HEALTH 4 6 (1): 154 - 1 5 6、2009

### 学会発表：

- 1；減量不十分な肥満大学生への減量に向けての医療者からの言葉掛けに関する試み  
大島喜八、上原 徹、八重樫聡子、小野里清美  
群馬大学健康支援総合センター、同工学部保健室  
第 47 回全国大学保健管理研究集会 2009 年 9 月 16-17 日 札幌

### 科学研究費による研究：

「大学内における大学生に対する肥満教育リテラシーの確立」 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 課題番号20500593 2008-2010年

## II：准教授

### 1. 著書・論文

- 1) Ariga M, Uehara T, Takeuchi T, Ishige Y, Nakano R, Mikuni M. (invited): Mood disorders of female delinquents in a juvenile detention center: its relationship with impulsivity and depression assessments. IN Impulsivity: Causes, Control and Disorders. (ed) George H. Lassiter, p167-180, Nova Science Publishers, Inc., NY, 2009
- 2) 上原徹：9 章 アスリートの摂食障害． スポーツ精神医学． (スポーツ精神医学会編)、p30-35, 診断と治療社東京、2009
- 3) Masashi Suda, Toru Uehara, Masato Fukuda, Toshimasa Sato, Masaki Kameyama, Masahiko Mikuni: Dieting tendency and eating behavior problems in eating disorder correlate with right frontotemporal and left orbitofrontal cortex: a near-infrared spectroscopy study. Journal of Psychiatric Research 44; 547-555,2010
- 4) Michio Ariga, Toru Uehara, Kazuo Takeuchi, Yoko Ishige, Reiko Nakano, Masahiko Mikuni. A follow-up study of female delinquent adolescents in a detention: effectiveness of psychiatric intervention as a mental health service. International Journal of Social Psychiatry. 56, 15-22、2010
- 5) 上原徹：スポーツ医学における精神医学 - 摂食障害について． 日本臨床スポーツ医学会誌、17、460-466、2009
- 6) 須田真史、上原徹：摂食障害． 医療の現場に生かすスペシャリストの知識と技術． 精神科臨床サービス、9、502-506、2009

### 2. 学会発表

- 1) Suda M, Uehara T, Fukuda M, Sato T, Kameyama M, Mikuni M. Frontal lobe function in eating disorder: a multichannel near-infrared spectroscopy study. (2008 年度日本生物学的精神医学会国際学会発表奨励賞) 第 31 回日本生物学的精神医学会． 京都, 4 月 23-25 日, 2009
- 2) 石毛陽子、有賀道夫、上原徹、三国雅彦：女子少年非行と薬物依存・乱用． 第 5 回司法精神医学会、前橋、5 月 15 - 16 日、2009
- 3) Masato Fukuda, Masashi Suda, Yoshiyuki Aoyama, Yuichi Takei, Toshimasa Sato, Masaki Kameyama, Kosuke Narita, Toru Uehara, Masahiko Mikuni: Near-infrared

spectroscopy in mood disorders. 9th WFSBP, June 28-July 2, Paris, 2009

- 4) 上原徹：ランチョンセミナー「摂食障害の脳画像」第47回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会、新潟、7月17日、2009
- 5) 上原徹：分科会「困難事例に対する支援を考える」助言者、平成21年度北関東甲信越地区メンタルヘルス研究協議会、日本学生支援機構、甲府、9月18-19日、2009
- 6) 上原徹：「大学等における学生のメンタルヘルス入門～学生に対する職員の理解と対応～」日本大学行政管理学会北関東支部講演会、高崎市、2月23日、2010
- 7) 上原徹：分科会『非行・衝動性』オーガナイザー、第13回日本心理教育家族教室ネットワーク研究集会、3月18-19日、久留米、2010
- 8) 「不登校学生の支援」学生支援メンタルヘルス講演 群馬大学教育学部教授会主催 3月3日
- 9) 「摂食障害」講演 医学部付属病院北2病棟レクチャー 医師看護スタッフ対象 8-9月

### 3. 研究会・学会などでの活動

スポーツ精神医学会評議員会

精神科診断学会評議員会

心理教育家族教室ネットワーク運営委員会

群馬精神医学会世話人会

北関東甲信越メンタルヘルス協議会世話人

群馬知的障害者摂食嚥下研究会世話人

第51回日本児童青年精神医学会地方組織委員

厚生労働省精神神経疾患委託研究費 切池班 分担研究者

日本精神神経学会専門医制度委員会 面接試験委員

## 4.10 健康支援総合センター所属教職員等及び工学部所属学校医等

健康支援総合センター所属の教職員および学校医を資料番号17に示す。平成21年度はこれらのスタッフで業務を行った。他に医学部附属病院救急部の飯野佑一教授に昭和キャンパス内における学生の救急処置をお願いしているが、ご本人の希望で学校医の発令は行ってはいない。

工学部の学生の保健管理に関わる看護師と学校医も合わせて記載するが、組織的には工学部の体制は健康支援総合センター支援の設立以前から健康支援総合センターとは独立して工学部で管理・運営されている。

## 4.11 健康支援総合センター主催の委員会等

下記の会議を主催した。

### 1) 第8回 健康支援総合センター運営委員会

資料番号18に議題を示す。

運営委員会の議題については平成19年度より健康支援総合センターから審議希望事項を各学部に呼びかけて募っている。

### 2) 第9回 健康支援総合センター運営委員会

資料番号19に議題を示す。

この委員会で決定された健康支援総合センターの業務内容が22年度の業務として実施される。

本委員会で健康支援総合センターの第二期中期目標・実施計画が決議された。

その計画を資料番号20に示す。

3) 平成21年度(第11回)メンタルヘルス研究集会(1月)

国立精神神経センター精神保健研究所 自殺実態分析・薬物依存研究部 室長 松本俊彦氏を講師に招き「自傷行為の理解と援助ー若者の自殺予防のために」をテーマに荒牧キャンパスのミュージズホールで講演会を行った。内外から、およそ120名を超える参加者を得た。別途報告書も作成配布した。

4) 群馬県内大学等保健管理担当者会議(9月、1月)

群馬県内の大学、高専の保健管理担当実務者及び事務担当者の出席により開催した。

9月11日:荒牧キャンパスで開催し、13校15名が参加した。准教授の講演が行われた。(上原徹:大学生の発達障害、第3回群馬県内大学等保健管理担当者会議、前橋、9月11日、2009)

1月28日:荒牧キャンパスで開催し、17校20名が参加した。

## 4.12 平成21年度健康支援総合センター運営委員会委員

平成21年度の健康支援総合センター運営委員会の委員名を資料番号21に示す。

## 4.13 健康支援総合センターでの全国委員会等出席

下記の委員会等に健康支援総合センターの教職員が出席した。それぞれの会への出席は、学内に同様の機能と責任を有する教職員が存在しない健康支援総合センターの教職員にとっては、組織の機能の維持、発展を図るための研修、情報交換として必須である。

1) 第46回 全国大学保健管理研究集会

教授、准教授、看護師が出席、発表 開催地:札幌 9月16~17日

2) 平成21年度 国立大学法人保健管理施設協議会総会

教授がセンター長の代理で出席 開催地:札幌 9月18日

3) 第47回 全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会

教授、看護師が出席 開催地:新潟市 7月17日から18日

4) 平成21年度全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会

保健・看護分科会運営委員会

看護師3回出席 7月17日;新潟、9月26日;東京、1月23日;東京

5) 平成21年度全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会 幹事会

教授が出席 7月17日;新潟市

6) 平成21年度メンタルヘルス研究協議会北関東甲信越支部世話人会(当番校:山梨大学)

准教授が参加。

報告書を共同執筆した(吉野啓子、上原徹:分科会「困難事例に対する支援を考える」、平成21年度メンタルヘルス研究協議会報告書、日本学生支援機構、p40-41, 2010)

## 4.14 学内諸会議への教職員の出席

教職員は下記の学内会議へ出席した。

1) 学生支援センター学生相談・生活部会

教授が委員として出席した。

2) 大学教育・学生支援機構連絡会議

教授が委員として出席した。

3) 荒牧事業場安全衛生委員会

産業医を併任している教授が毎月 1 回出席した。

#### 4.15 学内行事実施に伴う救護業務

下記の学内行事に教職員が救護活動を行った。

- 1) 教育学部体育大会
- 2) 社会情報学部スポーツ大会
- 3) 群馬大学オープンキャンパス
- 4) 教育学部、社会情報学部推薦入学試験
- 5) 関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験
- 6) 日本語留学試験
- 7) 大学入試センター試験
- 8) 個別学力検査（前期、後期）
- 9) 学位記授与式

#### 4.16 出版・広報活動

平成 21 年度は下記の出版、広報活動を行った。

- 1) 「健康ミニガイド（2009 年度ぐんま版）よりよいキャンパスライフを送るために」を発行した。  
先に示した群馬県内大学等保健管理担当者会議が編集した大学生の保健必須事項をまとめて冊子にしたもので新入生全員に（1300 部）配布した。
- 2) 「平成 21 年度（第 11 回）メンタルヘルス研究会報告書」を作成し、県内の出席大学及び出席を呼びかけた学内外組織に合計 200 部を配布した。
- 3) 学内にメンタルヘルス通信を電子メール配信し、全教職員に啓蒙を行った。
- 4) 新型インフルエンザ対策として大学のホームページおよび各学部の掲示板に数回にわたり啓蒙、啓発、行動事項を掲載した。

#### 4.17 社会貢献活動

健康支援総合センターの教員は専門性を生かして下記の社会貢献活動を行った。

准教授

1. 講演など
  - 1) 上原徹：精神医学集中講義、ソシオエステティシャン養成講座、日本エステティック協会、東京、10 月 4 日、2009
  - 2) 上原徹：「病と向き合う」. ABC の会（摂食障害家族会）講演会、10 月 24 日、新潟、2009
  - 3) 上原徹：「発達障害をめぐって—大学でかかわる場合」、教職員研修会、群馬工業高等専門学校、前橋、1 月 13 日、2010
  - 4) 上原徹：「発達障害をめぐって」、地域保険関係職員研修（発達障害研修会）、館林市保健福祉事務所主催・長崎県子ども・女性・障害者支援センター共催、館林、2 月 19 日、2010
  - 5) 上原徹：「発達障害をめぐって」、ミニレクチャー研修会、児童自立支援施設群馬県立ぐんま学園、前橋、2 月 25 日、2010
2. 外部委員やコンサルテーション、嘱託医
  - 1) 群馬県教育委員会管理監督者スーパーバイザー（メンタルヘルス）

- 2) 県立ぐんま学園嘱託医師（児童青年精神医学）
- 3) 群馬県保護課 生活保護医療審査会（嘱託医）

#### 4.18 その他の活動

- 1) 荒牧事業場の事務局の職場巡視  
産業医を併任している教授が原則的に月に1回（年に10回）行った。
- 2) 上沖事業場安全衛生委員会への出席  
産業医を併任している教授が出席した。
- 3) 若宮事業場安全衛生委員会への出席  
産業医を併任している教授が出席した。
- 4) 新規採用教員メンタルヘルス研修講師  
准教授が人事労務課の依頼で4月5日に行った。
- 5) 群馬大学新規採用職員研修会 講師  
准教授が人事労務課の依頼で10月31日に「メンタルヘルスについて」の講演を行った。
- 6) 学内研修会 講師  
准教授が人事労務課の依頼で3月17日に「職場におけるメンタルヘルス」の講演を行った。
- 7) 教員による健康管理とは直接には関係しない研究業務  
大学教員である健康支援総合センターの教員は任意にテーマを選んで研究活動をしている。その業績は教員個人の業績ではあるが健康支援総合センターの機能とは無関係であることからここに報告する意義を認めないので省略する。

#### 4.19 健康支援総合センターの抱える問題点と改善の方向性

以上平成21年度の健康支援総合センターの業務報告を行った。2年前の平成19年度の報告書の中で解決可能事項として下記の5つを挙げさせていただいた。

- 1) 学生の定期健康診断時の胸部レントゲン撮影経費は健康支援総合センター経費からでなく実費の全額を大学が直接支払う方式とする。
- 2) 工学部・大学院工学研究科キャンパスでの学外臨床心理士による実施時間の増加
- 3) 昭和キャンパスへの医療職の配置
- 4) 外国人留学生の感染性肺結核対策の徹底

平成22年11月の現時点においては4は国際交流課との協議を介して21年度に大幅に改善し、22年度は国際交流課からの支援もいただき更に高度な検診ができる手はずが整えられた。

1と3については未解決のまま残されている。1については純粋に事務手続き上の課題であるので教員としては工夫のしようがない。関係事務方の工夫をお願いしたい。1の理由をここで述べても仕方がないと思うが、述べることによって健康支援総合センターの置かれた特殊事情が少しは理解されると思うので、敢えて述べることにする。健康診断時の胸部レントゲン撮影経費は、数百万円程度の支出ではあるが健康支援総合センターの予算額のおよそ3割を占めている。当該予算は前年度受検者数で配分されるため受検者数が増加すると予算配分額が不足する。その胸部レントゲン経費の数%が年度毎に増加したとすると総支出予算額の3%程度が年度毎に不足することになる。配分された予算額の中で3%の支出が増加してしまうとどんな組織でもその年度の運営は極めて難しくなる。それも年度の初めに減額されてしまうので、その年度は1年間を通して緊縮財政を強いられることとなる。この解決には胸部レントゲン経費を健康支援総合センターの当初予算とは別扱いにする方策しかない

と考えられる。これが改善を要求する理由である。

3) の解決は容易ではない。昭和キャンパスには医療職が多数居るので学生にとっては応急処置が他のキャンパスよりは受けやすい。よって学生のために医療職を特別に配置する必要がないと考えている教職員の方が多い。しかしこの応急処置は大学が組織的に学生に提供しているのではなく、教員（医師）のボランティア精神にひたすら頼っていることで成立している。よって、組織的に対応が求められる状況下では機能しにくいという弱点を持っている。例えば学生が臨床実習中に感染の危険にさらされた時の対応とか、チューターが多忙過ぎて学生が相談するのを遠慮してしまうとか、チューターと上手くいかない等の場合には医学部が対応しなければならないが、当該学生への組織的な対応が不十分である。また、健康診断を受けない大学院の学生に対する保健指導や大学院生の多くを占める外国人留学生への個別の保健指導の必要性は増加していると考えられる。このように学生のための医療職の潜在的要望は結構存在し、ますます増大することが予想される。よって、外国人の大学院生を含めた学生に対する、よりきめの細かい保健指導の提供を目指すには学生のための医療職が是非とも必要と考えられる。ちなみに医科系の大学である東京医科歯科大学では本学医学部キャンパスと同程度の学生数（医科歯科大学の学部学生数は約 1400 名、本学昭和キャンパスの学部学生数は約 1100 名）に対して内科系教授、精神科系准教授、看護師の 3 名が配置されている。ここまでは望まないとしても職能として保健指導ができる保健師 1 名を学生の健康管理のために配置することは贅沢とは言えないであろう。この実現に向けて第二次中期計画にこの事項を明記したのはこの報告書で前期したとおりである。具体的には非常勤の保健師を昭和地区事務部の学務課に配置するのが現実的と考えている。

今年度に学生の健康管理上必要だと追加して述べなくてはならないのは引き続き桐生キャンパスでのメンタルヘルス機能の充実である。荒牧キャンパスと昭和キャンパスでは学生は日常的にカウンセリングを受けやすい環境下にある。桐生・太田地区には本学生の 42% が在学しているのであるが桐生キャンパスと太田キャンパスの両キャンパスを合わせても最大で週に半日で 4 回在駐しているだけである。よって、日常的に学生がカウンセリングを受けたり、教員がカウンセラーと学生のことを相談したり、カウンセラーが教員と対策を協議したりするにはかなりの困難がある。この困難性を克服するには桐生キャンパスでのカウンセリング時間を現在の回数から当面半日を週に 2 回分増加して週に半日 5 回として連日カウンセラーがキャンパス内に駐在することによって日常的なカウンセリング機会を提供する事が最低必要である。将来的には常駐するカウンセラー又は精神科医を配置すべきである。日常的に一人のカウンセラーがキャンパス内に居ることになれば自ずと教員や学生にとって取り立てて構えることなくカウンセリングを受けられるようになり、カウンセラーにとってもキャンパス内の生活の詳細が理解できるようになるのでより個別的、特異的なカウンセリングが可能となり、より高い効果が期待できるのである。

21 年度からは健康支援総合センターの精神科医が月に 1 回を限度に桐生キャンパスに向いてメンタルヘルスに問題を有する学生を抱えた教員の相談に応じる業務を開始したが、この業務も月に 1 回が限度である。理想的な解決策は上述したように桐生キャンパスに常駐するカウンセラー又は精神科医を配置することである。この配置計画を第二次中期計画としてあげてある。定員としての配置が困難であれば桐生キャンパスに非常勤のカウンセラーで週に半日 5 回（カウンセリングが受けられない曜日を無くする）の配置を目指すのが具体的な解決策であろう。

さらに今回も、群馬大学における学生の健康管理の改善策を具体化する上での構造的弱点を述べたいと思う。本学の学生の健康管理のための教職員数が絶対的に不足していることは先に述べ、その改善策を第二次中期計画案としてすでに大学当局に提出したところである。その不足を補っていくための具体策となると健康支援総合センターの努力だけでは限界がある。どうしてもキャンパス毎の教員のコンセンサスが必要となる。なぜなら 4 つに分かれたキャンパス毎に学生の健康管理の仕組みと学生の需要と利用状況が異なることから教職員の

不足状況もキャンパス毎に異なるからである。さらに教員の新たな配置はもはや当該学部内での教員数のやりくりでしか解決がつかないからである。当該学部で教員の増員ができなければ非常勤職員を雇うことで補うしかない。その場合でも経費が新たに加わるわけであるから、どうしても学生の健康管理に要する教職員の不足状況と補充策についての当該学部・大学院教員のコンセンサスが必要となる。

そのコンセンサスを形成する際に本学の抱える弱点が阻害要因となる。その弱点とは、各学部が各学部内に発生している学生の健康管理上の問題点を計画的に解決していく組織と制度を持たないということである。各学部の教務委員会や学生支援委員会などが学生に発生する正課、課外活動、日常生活上の様々な問題を所轄することになっており現にそのように機能している。しかし、これらの委員会は学生の当座の問題点を解決するために忙殺されており、学生が問題を抱えることになった要因に対して抜本的な解決策を策定して年次計画を立てるまでには機能してはいない。これら委員会の委員の任期は1～2年と短期であり、担当事務員も同様に担当期間は2年程度と短い、これらのことが抜本的な解決策を策定する際の弱点となる。

さらに、各学部の学生の健康管理の総括的責任者である学部長・大学院研究科長が管理すべき学部・大学院の学生の健康管理状況を知りうる公的な機会を持ってはいない、包括的な管理事項として認識されているに過ぎないと思われる。法人化前は保健管理センター管理委員会があり各学部長・研究科長が学長の下で学生の保健管理上の問題点を確認する機会があったが、現在の制度ではこの機能が失われている。さらに学部長・研究科長の任期が2年と短期である学部もある。この各学部長・研究科長が置かれた状況も各学部が学生の健康管理の抜本的な解決策を策定する際の弱点となっている。

以上の2つの弱点（学部内の委員会の機能的限界および学部長・研究科長が学生の健康管理の実態を把握しにくい状況に有ること）から各学部内では学生が抱える問題の抜本的な解決策を年次計画で策定することがほぼ不可能な状況にある。これが学生の保健管理業務の改善を図る上での本学の構造的弱点である。

現に工学部・工学研究科が抱えているメンタルヘルス専門家の常駐化問題は、工学研究科の教員の数を減らしてその分で常駐専門家のポストを作らなければならないので工学部・工学研究科の教員の協力が無ければ解決はおぼつかないし、医学部が抱えている学生のための保健師の配置問題の解決も工学部・工学研究科と同様に医学部・医学系研究科の教員の理解が無ければ進展は難しい。この構造的弱点を克服して改善を推し進めていくことが各学部長・研究科長の責務であろう。そして、その解決に向けて学部長・研究科長を補佐して解決策を提案していくのが健康支援総合センターの責務であると考えている。そしてその具体的行動は第二次中期計画（資料番号20）に示してある。

以上学生の健康管理上の問題点と改善の方向性について述べた。

特に21年度に作成された第二次中期計画には改善策の具体案が明記してある。大学の執行部の先生方には、今回の報告書の中で述べられている第二次中期計画をじっくりとご覧いただき、健康支援総合センターの組織としての実態をまずは正確に認識して頂き、あるべき将来の姿をイメージしていただき財政的支援（具体的には非常勤カウンセラーおよび医学部配置の非常勤保健師の配置用経費）を賜りますようによろしくお願いいたします。

## 4.20 健康支援総合センター資料集

平成21年度 業務

### 1. 健康支援総合センターの主体業務

月	業 務	対 象	内 容
通年	応急処置	突然発症の傷病 学生・教職員	医師・看護師による応急処置
	健康相談(身体的及び精神・心理的相談)	有症状の学生・教職員及び要継続管理の学生の一部	センター職員による治療、検査、保健指導、カウンセリング、医療機関紹介
	生活習慣病対策指導	肥満学生	センター教授による、採血検査、血糖検査、医療機関紹介による臨床検査、定期的保健指導
	カウンセリング	有症状の学生・教職員及び要継続管理の学生の一部	学外委嘱臨床心理士によるカウンセリング、医療機関紹介 桐生地区は半日週2回 荒牧、昭和地区は各週1日
		昭和キャンパス所属の有症状の学生・教職員及び要継続管理の学生の一部	医学科2名の教員によるカウンセリング、医療機関紹介
	整形外科・スポーツ障害相談	有症学生	月2回 専門の学校医による
レディースクリニック	有症女子学生	月1回 専門の学校医による	
4月	健康調査	入学生および編入生	健康状態記録票による調査
	学生の定期健康診断	教育学部、社会情報学部 医学科、工学部1年	既往歴、メンタルヘルスアンケート調査、身体計測、血圧測定、検尿、内科診察、胸部X線間接撮影
	2年生以上学生へのメンタルヘルススクリーニング(アンケートで)	アンケートにより抽出された在学学生	医師による面談・カウンセリング、医療機関への紹介
4月～2月	※B型肝炎ワクチン接種	医学科1学年生のウイルス抗体陰性者	3回は全員に接種、3回接種後の陰性者に4回目の接種を行い終了
4月～10月	学生の定期健康診断 二次検診	要再検者	血圧測定、学生検尿、心電図、医療機関への紹介、未受検への連絡
5月	新入生メンタルヘルススクリーニング	健康状態記録表により抽出した入学生及び編入生	医師による面談・カウンセリング、医療機関紹介
10月	外国人留学生の特別健康診断	外国人留学生	3キャンパスに出向いての血液検査、問診、メンタルヘルスアンケート、異常値保有者への指導と医療機関への紹介
11月～2月	メンタルヘルス研究会	学内カウンセラー、厚生補導関係教職員、県内大学等の厚生補導関係教職員、学生	学外専門講師による講演と懇談会

※ 平成18年度より実施

## 2. 刊行事業

健康支援総合センターの案内原稿作成・新入生用入学時健康管理用リーフレット作成  
 新入生用「健康ミニガイド」作成・メンタルヘルス研究会報告書作成

## 3. 諸会議

月	名 称	回数	主 な 議 題・備 考
4月 ～	健康支援総合センター運営委員会 (必要に応じて開催する)	随時	年度業務計画案等 学生定期健康診断日程表作成等 学生定期健康診断受検状況報告等 次年度学生定期健康診断日程等 概算要求関係・学内要求事項等
3月	学生支援センター学生相談・生活部会	適時	専任教員が委員として出席
	大学教育・学生支援機構連絡会議	適時	センター長・副センター長が出席

## 4. 講義

「健康学原論」教養教育学生を対象にセンター医による講義（健康管理学）  
 90分間の講義を合計8回行う。

## 5. 健康情報の発信

感染症、中毒など緊急の保健情報を全学に周知掲示する。

## 6. 研究集会等

名 称	回 数	出 席 者
全国大学保健管理研究集会	年1回	教員・看護師
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会	年1回	教員・看護師
北関東・甲信越地区メンタルヘルス研究協議会	年1回	教員・看護師
フイジカル・ヘルス・フォーラム	年1回	教員（内科医）
国立大学法人保健管理施設協議会総会	年1回	センター長
全国メンタルヘルス研究会	年1回	教員（精神科医）
全国大学保健管理協会総会	年1回	教員
群馬県内大学等保健管理担当者会議	年2回	看護師
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会保健看護分科会運営委員会	年3回	看護師
北関東甲信越地区メンタルヘルス研究協議会運営委員会	年3回	教員（精神科医）
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会	年1回	教員・看護師
全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会幹事会	年2回	教員
全国大学保健管理協会評議員会	年1回	教員

## 7. 学内行事等に伴う協力事業

月	行 事	対 象	内 容
4月	(入学式)	学生・教職員・保護者等	救護
	新入生オリエンテーション	全学部の入学生	健康支援総合センターの案内
	群馬大学新任教員説明会	新任教員	学生へのメンタルヘルス対応法講話
5月	教育学部体育大会	教育学部の学生及び教職員	救護
	関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験	受験者	救護
8月	大学説明会	参加高校生	救護
10月	新規採用職員研修	新規採用職員	健康管理講話
～ 11月	教職員の定期健康診断	荒牧地区(事務局・図書館・教育学部・社会情報学部) 放送大学	身体計測. 血圧測定. 検尿 血液検査. 心電図. 内科診察 胸部X線間接撮影. 便潜血 喀痰等検査時の器材および 会場の提供
	社会情報学部スポーツ大会	社会情報学部の学生・教職員	救護
	(生涯生活設計セミナー)	45歳以上の職員及び特に参加を希望する者	講演 (健康管理プラン)
	推薦入学試験(教育・社会情報学部)	受験生	救護
12月	(定年等退職予定者説明会)	定年等退職予定者	保健講話 (健康管理)
1月	大学入試センター試験	受験生	救護
1月 ～	身体に障害を有する入学志願者との事前相談	該当受験希望者	受験可否の判断
	個別学力検査 (前期・後期)	(教育・社会情報)学部受験生	救護
3月	学位授与式	卒業生. 教職員. 保護者等	救護

( ) は必ずしも例年とは限らない。

## 8. 産業医業務 (教授が荒牧事業場の産業医を兼ねている)

内 容	回 数	業 務 内 容
職場巡視	毎月1回	職場巡視と巡視記録の作成
荒牧事業場安全衛生委員会出席	毎月1回	産業医としての提言

## 9. 学内教育・広報活動等の協力業務等

寄稿：学内情報誌等の依頼により健康支援総合センターより全学生、教職員向けに活動状況および健康管理情報を掲載

講演：上記7. 以外に各学部より依頼の学生向けの健康管理に関する講話

## 10. 地域貢献事業

地域の各種団体の依頼により、教員が講演会等の講師や健康管理業務に参画する。

整理番号1

## 平成21年度 学生定期健康診断日程表（前橋地区）

受付時間 実施日	午 前		午 後		対象数(概数) 3,950人
	9:00 ～ 10:15 (75分)	10:15 ～ 11:30 (75分)	13:00 ～ 14:15 (75分)	14:15 ～ 16:00 (105分)	
4. 2 (木)	医学部 (医学科・保健学科) 2年		医学部 (医学科・保健学科) 3年		午前410人 午後420人 <u>合計830人</u>
	医学部 医学科 5年				
	大学院 医学系 2～4年				
4. 3 (金)	医学部 (医学科・保健学科) 4年		社会情報学部 2年	社会情報学部 3年	午前435人 午後375人 <u>合計810人</u>
	医学部 医学科 6年				
	大学院 医学系 2～4年				
4. 6 (月)	教育学部 2年		教育学部 3年		午前355人 午後360人 <u>合計715人</u>
	教育学部 4年				
4. 8 (水)	社会情報学部 4年		社会情報学部 1年		午前295人 午後300人 <u>合計 595人+α</u>
	教育学部 1年 <small>ワクチン接種用採血あり</small>		特別支援教育特別専攻科 大学院 教育学 1年 <small>ワクチン接種用採血あり</small>		
			大学院 教育学 2年		
			大学院 社会情報学 1～2年		
	予 備 日				
4. 9 (木)	医学部医学科 1年 <small>ワクチン接種用採血あり</small>		医学部保健学科 1年 (検査・理学・作業) <small>ワクチン接種用採血あり</small>	医学部保健学科 1年 (看護) <small>ワクチン接種用採血あり</small>	午前240人 午後230人 <u>合計 470人+α</u>
	大学院 医学系 1年		医学部医学科 2年次編入生 医学部(医学科・保健学科) 3年次編入生 <small>ワクチン接種用採血あり</small>		
	予 備 日				
4. 10 (金)	工 学 部 1 年				午前255人 午後275人 <u>合計530人</u>
	生産システム	社会環境デザイン		応用化学・生物化学	
	環境プロセス	情報工学			
	機械システム		電気電子		

- 1) 健康診断項目：既往歴、身体計測、血圧測定、検尿、胸部X線撮影、内科診察、アンケート。
- 2) 健康診断会場：健康支援総合センター
- 3) 原則として割り当てられた日程で健康診断を受けてください。どうしても都合の悪い方は、予備日・予備時間を利用して受けて下さい。
- 4) 健康診断を受けないと健康診断書の発行はできません。
- 5) 学部第1年次生の健康診断日程については、当該年度の教養教育授業時間割により、同一健康診断日の範囲内で変更する場合があります。

## 平成21年度 学生定期健康診断日程表（桐生・太田地区）

場所	項目	検査日	時間	対象	対象数(概数) 2,860人
桐生 キャンパス	胸部X線撮影 及び 検尿	4/14 (火)	13:00~16:00 17:00~19:00	4年生 夜間主学生	710人
		4/15 (水)	9:00~11:30 13:00~16:00	3年生 大学院生	960人
		4/16 (木)	9:00~11:30 13:00~16:00	3年生 2年生	940人
	内科診察 及び 計測	4/22 (水)	13:00~17:00	2年生・3年生	840人
		4/23 (木)	13:00~16:00	2年生・4年生	510人
			16:00~19:00	4年生・夜間主学生	500人
		4/24 (金)	13:00~17:00	大学院生	760人
	太田 キャンパス	全 項目	5/13 (水)	18:30~19:30	夜間主学生
5/14 (木)			10:20~12:00	昼間学生・大学院生	140人

- ・クラスごとの実施割振りは、平成21年度前期授業時間割表により決定する。  
(授業の空き時間を活用する。)
- ・授業と重なった場合は休講措置とする。
- ・太田キャンパスの内科診察は、太田キャンパス学校医が実施する。

## ○ 健康診断項目

- 4月14・15・16日 胸部X線撮影・検尿・アンケート
- 4月22・23・24日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察
- 5月13・14日 既往歴・身体計測・血圧測定・内科診察・胸部X線撮影・検尿

## 平成21年度 学生定期健康診断受検状況（前橋地区）

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影	
		受検者数	受検率	受検者数	受検率
学部合計	3,222	3,069	95.3%	3,066	95.2%
大学院等の合計	656	233	35.5%	229	34.9%
合計	3,878	3,302	85.1%	3,295	85.0%

対象者数は平成21年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第二位を四捨五入

上記の他に教育学部特別聴講生6名、社会情報学部特別聴講生6名、工学部2年生2名が受検した。

## &lt;学部学生&gt;

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影			
		受検者数	受検率	受検者数	受検率		
教育学部	1年	227	227	100.0%	227	100.0%	
	2年	228	215	94.3%	215	94.3%	
	3年	225	220	97.8%	220	97.8%	
	4年	250	235	94.0%	235	94.0%	
	合計	930	897	96.5%	897	96.5%	
社会情報学部	1年	108	107	99.1%	107	99.1%	
	2年	106	95	89.6%	95	89.6%	
	3年	118	113	95.8%	113	95.8%	
	4年	128	114	89.1%	113	88.3%	
	合計	460	429	93.3%	428	93.0%	
医学部	医学科	1年	98	98	100.0%	98	100.0%
		2年	102	95	93.1%	95	93.1%
		3年	102	86	84.3%	86	84.3%
		4年	108	82	75.9%	81	75.0%
		5年	99	88	88.9%	88	88.9%
		6年	99	93	93.9%	92	92.9%
		合計	608	542	89.1%	540	88.8%
	保健学科	1年	169	169	100.0%	169	100.0%
		2年	175	168	96.0%	168	96.0%
		3年	181	176	97.2%	176	97.2%
		4年	180	178	98.9%	178	98.9%
		合計	705	691	98.0%	691	98.0%
		合計	1,313	1,233	93.9%	1,231	93.8%
		工学部	1年	519	510	98.3%	510
学部合計	3,222	3,069	95.3%	3,066	95.2%		

## &lt;大学院学生&gt;

	対象者数	血圧測定・尿検査・内科診察		胸部X線撮影				
		受検者数	受検率	受検者数	受検率			
教育学研究科	1年	49	46	93.9%	43	87.8%		
	2年	48	29	60.4%	29	60.4%		
教育学部特別支援教育特別専攻科	合計	16	15	93.8%	15	93.8%		
合計	113	90	79.6%	87	77.0%			
社会情報学研究科	1年	10	7	70.0%	7	70.0%		
	2年	14	7	50.0%	7	50.0%		
	合計	24	14	58.3%	14	58.3%		
医学研究科	医科学専攻	修士課程	1年	11	11	100.0%	11	100.0%
		2年	12	8	66.7%	8	66.7%	
		博士課程	1年	52	25	48.1%	24	46.2%
			2年	61	9	14.8%	9	14.8%
			3年	69	9	13.0%	9	13.0%
			4年	120	7	5.8%	7	5.8%
	合計	325	69	21.2%	68	20.9%		
	保健学専攻	博士前期課程	1年	55	34	61.8%	34	61.8%
		2年	67	6	9.0%	6	9.0%	
		博士後期課程	1年	16	3	18.8%	3	18.8%
			2年	15	14	93.3%	14	93.3%
			3年	41	3	7.3%	3	7.3%
		合計	194	60	30.9%	60	30.9%	
合計		519	129	24.9%	128	24.7%		
大学院等の合計	656	233	35.5%	229	34.9%			

## 平成21年度 学生定期健康診断受検状況(桐生・太田地区)

区 分			対象者数	内科診察・計測		胸部X線撮影・検尿		
				受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	
工 学 部	昼 間	2年	569	506	88.9	521	91.6	
		3年	650	507	78.0	513	78.9	
		4年	551	511	92.7	517	93.8	
		昼間計	1,770	1,524	86.1	1,551	87.6	
	夜 間 主	1年	31	24	77.4	24	77.4	
		2年	31	20	64.5	20	64.5	
		3年	50	28	56.0	30	60.0	
		4年	133	101	75.9	104	78.2	
		夜間計	245	173	70.6	178	72.7	
	学部計		2,015	1,697	84.2	1,729	85.8	
	工 学 研 究 科	修 士	1年	359	341	95.0	350	97.5
			2年	345	318	92.2	326	94.5
			修士計	704	659	93.6	676	96.0
		博 士	1年	36	16	44.4	16	44.4
2年			40	20	50.0	23	57.5	
3年			54	21	38.9	21	38.9	
博士計			130	57	43.8	60	46.2	
研究科計		834	716	85.9	736	88.2		
合 計			2,849	2,413	84.7	2,465	86.5	

※対象者数は、4月1日現在の学生数(休学者を除く)

受検率は、小数点第二位を四捨五入

整理番号 5

平成 21 年度 学生定期健康診断における疾患別要観察者数  
(継続要観察者を含む)

		要 管 理 者			疾患別 合 計
		男	女	合 計	
循 環 器 疾 患	高血圧	3		3	22
	高血圧疑い	3		3	
	低血圧	3		3	
	先天性心疾患	5		5	
	WPW	3		3	
	心電図異常	1		1	
	心雑音	1		1	
その他	1	2	3		
呼 吸 器 疾 患	気管支喘息	11	11	22	24
	気胸	2		2	
消 化 器 疾 患	潰瘍性大腸炎	1	2	3	5
	クローン病	1		1	
	胃潰瘍		1	1	
腎・泌尿器疾患	慢性腎炎		1	1	18
	ネフローゼ	2		2	
	腎結石	1		1	
	蛋白陽性	1		1	
	潜血陽性	8	4	12	
蛋白・潜血陽性	1		1		
代 謝 疾 患	肥満	232	62	294	672
	やせ	131	236	367	
	1型糖尿病	1	2	3	
	2型糖尿病	1		1	
	腎性糖尿	2	2	4	
	高脂血症	3		3	
内 分 泌 疾 患	バセドウ氏病		3	3	4
	その他		1	1	
血 液 疾 患	貧血	1	1	2	4
	その他	1	1	2	
神 経・筋疾患	片頭痛	2		2	9
	てんかん	3	1	4	
	その他	2	1	3	
膠 原 病 お よ び 類 縁 疾 患			3	3	3
アレルギ－性疾患	アトピー性皮膚炎	24	21	45	81
	その他	16	20	36	
精 神 疾 患		5	5	10	10
整 形 外 科 疾 患		2	2	4	4
皮 膚 疾 患		2	2	4	4
眼 科 疾 患		2	1	3	3
耳 鼻 科 疾 患		3	1	4	4
歯科・口腔外科疾患			1	1	1
産 婦 人 科 疾 患			24	24	24
<b>合 計</b>		<b>481</b>	<b>411</b>	<b>892</b>	<b>892</b>

平成 21 年度 学生定期健康診断結果

(1) 身体測定

	受検者数	結 果							
		やせ		正常		肥満			
		BMI 18.6未満		BMI 18.6~24.9		BMI 25.0~29.9		BMI 30.0以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	987	87	8.8%	804	81.5%	78	7.9%	18	1.8%
社会情報学部	443	68	15.3%	337	76.1%	33	7.4%	5	1.1%
医学部	1,362	186	13.7%	1,095	80.4%	67	4.9%	14	1.0%
工学部	510	63	12.4%	370	72.5%	61	12.0%	16	3.1%
合 計	3,302	404	12.2%	2,606	78.9%	239	7.2%	53	1.6%

(2) 血圧測定

1) 一次検査

	受検者数	結 果					
		正常血圧		高血圧疑い		低血圧症	
		人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	987	972	98.5%	11	1.1%	4	0.4%
社会情報学部	443	438	98.9%	5	1.1%	0	0.0%
医学部	1,362	1,340	98.4%	22	1.6%	0	0.0%
工学部	510	494	96.9%	15	2.9%	1	0.2%
合 計	3,302	3,244	98.2%	53	1.6%	5	0.2%

2) 二次検査

	対象者数	結 果				精 密 検 査 結 果			
		正常血圧	経過観察	要精査	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
教育学部	11	8	1	1	1	0	0	0	1
社会情報学部	5	5	0	0	0	0	0	0	0
医学部	22	16	0	3	3	1	1	0	1
工学部	15	14	1	0	0	0	0	0	0
合 計	53	43	2	4	4	1	1	0	2

(3) 尿検査

1) 一次検査

	受検者数	結 果		陽 性 項 目 内 訳			
		陽性者数	%	蛋白	潜血	蛋白・潜血	糖
教育学部	987	14	1.4%	1	8	1	4
社会情報学部	443	11	2.5%	1	7	0	3
医学部	1,362	23	1.7%	4	13	0	6
工学部	510	6	1.2%	1	5	0	0
合 計	3,302	54	1.6%	7	33	1	13

2) 二次検査

	対象者数	結 果						精 密 検 査 結 果				
		異常なし	蛋白陽性	潜血陽性	蛋白・潜血陽性	糖陽性	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし	備 考
教育学部	14	8	1	3	1	1	0	2	4	0	0	腎性糖尿1名、腎結石1名
社会情報学部	11	5	0	3	0	1	2	1	2	0	1	腎性糖尿1名
医学部	23	18	0	1	0	1	3	1	1	0	0	腎性糖尿1名
工学部	6	4	0	2	0	0	0	0	2	0	0	
合 計	54	35	1	9	1	3	5	4	9	0	1	

#### (4) 胸部X線間接撮影検査

	受検者数	要 精 検		精 密 検 査 結 果			備 考
		人数	%	異常なし	経過観察	要治療	
教育学部	984	4	0.4%	4	0	0	
社会情報学部	442	0	0.0%	0	0	0	
医学部	1,359	5	0.4%	4	1	0	自然気胸1名
工学部	510	0	0.0%	0	0	0	
合 計	3,295	9	0.3%	8	1	0	

#### (5) 内科診察

	受検者数	要 精 検						精 密 検 査 結 果				
		心雑音		貧血(眼瞼結膜所見)		甲状腺腫		異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし	備 考
		人数	%	人数	%	人数	%					
教育学部	987	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	1	0	0	1	
社会情報学部	443	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
医学部	1,362	4	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	0	0	0	
工学部	510	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
合 計	3,302	5	0.2%	1	0.0%	0	0.0%	5	0	0	1	

#### (6) 心電図検査

健康診断時に心雑音が聴取されず不整脈が理学的に認められたり、過去の心電図検査において異常を指摘されたが確定診断が不明である者を対象とした。

	対象者数	検 査 結 果			精 密 検 査 結 果				
		正常範囲	要精検	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし	備 考
教育学部	1	1	0	0	0	0	0	0	
社会情報学部	0	0	0	0	0	0	0	0	
医学部	1	0	0	1	0	0	0	0	
工学部	2	1	1	0	0	0	0	1	
合 計	4	2	1	1	0	0	0	1	

#### (7) 健康支援総合センターでの精密検査

	受検者数	結 果		
		異常なし	要教育者	要治療
血糖・脂質測定	38	22	16	0
糖負荷試験	3	3	0	0
合 計	41	25	16	0

異常なし：異常な理学的所見はあるが、精密検査の結果、放置してもよい病態と診断された者  
 要教育者：治療を直ちに行う程ではないが、センターで健康教育および定期的な医療機関での観察を要すると診断された者。  
 要治療：医療機関での治療が必要と判断された者

## 平成 21 年度 外国人留学生健康診断結果

本学では、過去 10 年間に於いて感染性結核症が学生 3 名に発生し、すべて外国人留学生であった。そのため第 8 回健康支援総合センター運営委員会（平成 21 年 8 月 3 日開催）において、外国人留学生に対し、クオンティフェロン T B - 2 G 検査（結核感染診断マーカー検査）を特別健康診断項目としておこなうことが決定された。

## 1. 受検状況

	対象者数	受 検 者	
		人数	%
教育学部	16	16	100.0%
社会情報学部	23	17	73.9%
医学部	25	13	52.0%
工学部	85	47	55.3%
留学生センター	0	0	
合 計	149	93	62.4%

対象者：学部および大学院 1 年生、学部 3 年次編入生  
対象者数：平成 21 年 11 月 1 日現在の学生数

## 2. 検査結果

	受検者数	(-) 陰性		(+) 陽性		(±)		判定不可	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
教育学部	16	15	93.8%	0	0.0%	1	6%	0	0%
社会情報学部	17	15	88.2%	2	11.8%	0	0%	0	0%
医学部	13	12	92.3%	1	7.7%	0	0%	0	0%
工学部	47	41	87.2%	1	2.1%	4	9%	1	2%
留学生センター	0	0		0		0		0	
合 計	93	83	89.2%	4	4.3%	5	5%	1	1%

## 3. 事後指導

- ・ (+) 陽性 → 今年度の健康診断で胸部レントゲン検査をうけて「異常なし」と診断された学生に対しては、毎年、健康診断で胸部レントゲン検査を受けるよう指導し、今年度の健康診断を受検していない学生に対しては、医療機関を受診するよう指導
- ・ (±) および「判定不可」 → (+) 陽性者と同様に対応

平成21年度 医学部1年ウイルス性疾患(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)抗体価検査

検査項目	受検者数	陰性		陽性	
		人数	%	人数	%
麻疹抗体	261	16	6.1%	245	93.9%
風疹抗体	261	22	8.4%	239	91.6%
水痘抗体	261	11	4.2%	250	95.8%
流行性耳下腺炎抗体	261	64	24.5%	197	75.5%

113

～備考～

- ・1種のウイルスに対して抗体価陰性者は72名(27.6%)
- ・2種のウイルスに対して抗体価陰性者は19名(7.3%)
- ・3種のウイルスに対して抗体価陰性者は1名(0.4%)

\* 学科別内訳

学 科	検査項目	受検者数	陰性		陽性	
			人数	%	人数	%
医学科	麻疹抗体	95	4	4.2%	91	95.8%
	風疹抗体	95	10	10.5%	85	89.5%
	水痘抗体	95	1	1.1%	94	98.9%
	流行性耳下腺炎抗体	95	22	23.2%	73	76.8%
保健学科	麻疹抗体	166	12	7.2%	154	92.8%
	風疹抗体	166	12	7.2%	154	92.8%
	水痘抗体	166	10	6.0%	156	94.0%
	流行性耳下腺炎抗体	166	42	25.3%	124	74.7%

平成21年度 医学部1年B型肝炎ワクチン接種状況

(1) B型肝炎抗体検査結果(4月)

受検者数	結果			
	陰性		陽性	
	人数	%	人数	%
261	255	97.7%	6	2.3%

(2) B型肝炎ワクチン接種

接種対象者数	接種人数			副作用人数
	1回目(6月)	2回目(7月)	3回目(11月)	
255	255	255	253	0

整理番号 9

平成 2 1 年度 利用人数

所属学部等		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教育学部	51	64	59	51	19	10	34	41	25	19	14	13	400
	社会情報学部	19	26	17	21	10	7	36	21	27	19	7	1	211
	医学部	16	33	29	20	4	1	24	13	7	14	8	5	174
	工学部	19	26	28	40	10	2	22	28	17	20	4	1	217
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医学部	25	5	7	8	2	2	4	2	2	6	4	4	71
桐生キャンパス	工学部	2	2	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	10
合計		132	156	141	140	46	23	121	105	79	78	38	24	1,083

整理番号 1 0

平成 2 1 年度 利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
健康相談	96	130	110	104	33	12	86	85	54	52	20	6	788
精神保健相談	23	25	31	31	9	11	32	20	24	27	14	17	264
健康診断書発行	17	1	2	6	4	0	4	1	1	0	4	1	41
合計	136	156	143	141	46	23	122	106	79	79	38	24	1,093

整理番号 1 1

平成 2 1 年度 健康相談・精神保健相談の対応内容

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
健康相談	肥満治療	5	4	8	33	11	85	13	21	10	11	0	0	201	
	スポーツ障害・整形外科相談	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	レディースクリニック	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	5	
	外傷処置	3	6	4	1	2	1	4	5	3	6	3	0	38	
	検査	3	4	4	4	1	2	2	10	1	1	0	0	32	
	投薬	46	75	64	34	10	4	30	15	12	11	8	2	311	
	休養ベッド使用	4	5	3	4	0	0	2	1	0	0	2	0	21	
	健康・保健用器具貸し出し	1	0	1	18	2	0	0	1	1	0	0	0	24	
	医療機関紹介	29	31	21	12	7	2	26	26	13	16	8	3	194	
救急転送	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3		
精神相談	カウンセリング	准教授	8	4	5	7	2	3	11	10	12	11	6	11	90
		カウンセラー	15	21	26	24	7	8	21	10	12	16	8	6	174
	カウンセラー紹介	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	5	
	投薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療機関紹介	3	2	1	6	0	1	2	0	0	1	1	0	17	

整理番号 1 2

平成21年度 疾病領域別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	8
	呼吸器系	34	46	39	21	5	3	39	38	24	17	8	3	277
	消化器系	9	8	9	5	4	0	6	2	7	3	0	0	53
	腎臓系	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4
	内分泌・代謝系	5	5	8	33	11	1	14	22	12	11	0	0	122
	その他	13	21	14	14	7	3	7	5	3	4	3	0	94
精神科		24	25	31	31	12	14	32	22	25	27	15	17	275
外科・整形外科		15	27	17	12	12	3	13	14	10	13	12	4	152
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	5
耳鼻咽喉科		3	7	2	3	1	0	2	2	2	1	0	1	24
眼科		2	6	6	2	1	1	2	2	0	1	0	0	23
皮膚科		11	2	11	12	4	2	3	6	0	1	0	0	52
歯科・口腔外科		2	0	3	1	0	0	1	1	0	1	0	0	9
産婦人科		2	6	6	3	1	0	3	0	0	3	1	0	25
合計		123	156	148	138	59	29	122	114	84	83	42	25	1,123

整理番号 1 3

平成 2 1 年度 医療機関紹介の診療科分類

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循環器系	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
	呼吸器系	7	6	1	2	2	2	12	14	7	6	3	1	63
	消化器系	2	2	3	0	2	0	5	0	4	0	0	0	18
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	4	4	2	1	2	0	0	2	0	0	0	0	15
精神科		3	2	1	6	0	1	2	0	0	1	1	0	17
外科・整形外科		4	9	5	3	1	0	4	4	2	6	5	1	44
脳神経外科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
耳鼻咽喉科		3	3	1	1	0	0	1	1	0	1	0	1	12
眼科		2	4	3	1	0	0	1	1	0	0	0	0	12
皮膚科		4	2	2	3	0	1	2	4	0	1	0	0	19
歯科・口腔外科		2	0	3	1	0	0	1	1	0	1	0	0	9
産婦人科		0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4
合計		34	33	24	18	8	4	28	27	13	18	10	3	220

整理番号 1 4

平成 2 1 年度 精神保健相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	教育学部	8	4	14	9	4	3	4	6	7	9	5	9	82
	社会情報学部	7	8	8	8	2	4	9	6	13	9	5	1	80
	医学部	1	1	0	0	0	0	8	4	1	3	0	5	23
	工学部	0	0	2	6	2	2	2	1	0	1	1	0	17
	留学生センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昭和キャンパス	医学部	6	11	6	8	1	2	8	3	3	5	3	2	58
桐生キャンパス	工学部	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
合計		23	25	31	31	9	11	32	20	24	27	14	17	264

ほかに教職員の総数 1 1 名に対して応急措置としての精神保健相談を行った。

整理番号 1 5

平成 2 1 年度 精神保健相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	0	1	4	0	1	1	5	6	5	9	3	4	39
対人関係	2	4	6	5	3	1	9	10	13	11	6	3	73
心体の不調	12	8	8	14	5	7	13	9	9	13	4	12	114
修学	4	8	5	6	3	1	7	6	9	7	2	0	58
その他	6	7	8	6	2	4	7	6	3	1	4	2	56
合計	24	28	31	31	14	14	41	37	39	41	19	21	340

1 回の相談につき、相談内容が複数の場合があります。

## 平成21年度 薬剤別使用数（処方日数による）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
抗 生 剤	5	15	17	7	3	0	6	0	5	0	3	0	61
解熱・消炎・鎮痛剤	29	56	79	23	7	3	35	19	23	4	9	2	289
感 冒 剤	68	104	93	32	8	3	41	22	15	17	11	0	414
気管支拡張剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健胃剤・抗潰瘍剤	3	7	18	13	7	0	6	2	25	2	1	0	84
整 腸 剤	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	9
止 瀉 剤	0	3	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	9
鎮 吐 剤	11	6	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	19
抗ヒスタミン剤	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
精 神 安 定 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
含 嗽 剤	0	5	0	1	1	0	1	0	1	1	1	1	12
口腔内塗布剤	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外用副腎皮質ホルモン剤	2	0	5	2	2	1	1	1	0	0	0	0	14
外用抗生剤	3	4	2	3	3	1	2	3	1	0	0	0	22
外用抗ウイルス剤	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
外用抗ヒスタミン剤	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	8
外用消炎剤	8	14	8	2	1	1	4	3	2	2	4	1	50
点 眼 薬	1	2	4	0	1	1	0	1	0	0	0	0	10
解熱消炎鎮痛坐薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 液	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	130	225	235	93	33	10	96	51	75	31	29	4	1,012

## 平成21年度 常備薬使用数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
ケフラール	30	72	48	18	18	0	18	0	12	0	18	0	234	321
タリビット	0	12	36	15	0	0	12	0	12	0	0	0	87	
スバラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボルタレン	78	153	0	32	18	9	33	0	33	0	18	6	380	751
カロナール	0	0	216	0	0	0	18	51	36	9	0	0	330	
インデパルsp	3	5	0	1	1	0	2	6	0	1	0	0	19	
SG顆粒	0	0	2	20	0	0	0	0	0	0	0	0	22	939
PL顆粒	204	285	3	96	24	9	123	66	45	51	33	0	939	
メブチンエア	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	
セルベックス	0	11	0	20	2	0	14	6	39	4	1	0	97	176
タケブロン	9	0	48	5	5	0	0	0	12	0	0	0	79	
ラックB	0	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	18	
ロベミン	0	6	9	0	0	0	0	0	9	9	0	0	33	33
プリンペラン	33	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	40	40
ジルテック	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
セルシン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イソジンガーグル	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	1	6	6
デспа	0	5	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	7	7
アフタッチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
コルテスクリーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
リンデロンVG	1	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	5	14
デルモベートクリーム	1	0	3	1	2	1	0	1	0	0	0	0	9	
エリスロシン軟膏	2	4	2	3	1	1	2	3	1	0	0	0	19	
ゲンタシン軟膏	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	22
アラセナーA軟膏	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
レスタミン	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
MS湿布	20	32	14	7	5	1	0	3	3	5	6	1	97	97
タリビット点眼薬	1	2	4	0	1	1	9	1	0	0	0	0	19	19
インダシンスp	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生理食塩水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ソルデム3A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	383	603	667	236	80	22	233	137	203	86	77	8	2,735	3,014

## 平成21年度 精神保健調査

## (1) 新入生の精神保健調査

新入生の精神保健調査は、入学時提出の健康状態記録票を基に行われた。  
例年行っている方法で要面接学生を抽出し、健康支援総合センター准教授、臨床心理士および  
附属病院精神科医師9名との面接をすすめた。

対象学生は、各学部入学生の健康状態記録票提出者とし、大学院入学生(医学部・工学部を除く)、  
特別支援教育特別専攻科、編入生(社会情報学部・医学部・工学部)、工学部夜間1年生を含めた。

	対象学生数	要面接		面接を うけた 学生数	結 果			
		人数	%		問題なし	経過観察	カウンセリング 継 続	要医療
教育学部	292	25	8.6%	16	13	1	1	1
社会情報学部	139	11	7.9%	6	5	1	0	0
医学部	310	14	4.5%	9	8	1	0	0
工学部	580	51(2)	8.8%	29(1)	25(1)	2	2	0
合 計	1,321	101	7.6%	60	51	5	3	1

( )は留学生数で内数

## (2) 学生(新入生の精神保健調査対象者を除く)の精神保健調査

精神保健調査として新入生以外にも対象者を広げ、特に自殺との関連が深いうつ病に関するアンケート  
調査を行った。本調査は、健康診断時にDSD調査票(うつ状態の自己診断票)の用紙に記入してもらい、  
陽性判定者には、健康支援総合センター准教授、臨床心理士が面接を行った。

対象学生は、荒牧・昭和・桐生・太田地区の健康診断時にDSD質問票を提出した学生とした。

	対象学生数	陽性判定者		面接を うけた 学生数	結 果			
		人数	%		問題なし	経過観察	カウンセリング 継 続	要医療
教育学部	675	28	4.1%	25	22	2	1	0
社会情報学部	283	19	6.7%	15	12	1	1	1
医学部	1036	39	3.8%	29	15	8	4	2
工学部	2,207	63	2.9%	27	12	3	7	5
合 計	4,201	149	3.5%	96	61	14	13	8

陽性判定者に留学生0名

## (3) 追記:

面接実施状況について

面接施行にあたって、准教授が桐生キャンパスに4回、太田キャンパスに1回赴いた。  
臨床心理士は、昭和キャンパスと桐生キャンパスの定期相談日に面接を施行した。  
附属病院医師には、荒牧キャンパスに2週間にわたって順次来所していただき面接をお願いした。

今年度の結果について

- 呼び出し基準について、在校生の呼び出し基準を広くとったため(症状の閾値)、従来より面接人数が大幅に増えた。
- 判定基準について、これまで要観察という基準が高かったが、今年は問題なしに多くが含まれた。  
この中には、診察時点で問題ないが、今後何かあれば相談するよう強く勧めたケースが入っている。  
これまで要観察とされたであろう事例は、今年度はカウンセリングもしくは相談継続を薦めた。
- 新入学面接率の低下は、新入生の面接が在校生に遅れること1ヶ月で、すでに問題や症状が解決消失していることが推測される。

## 学外臨床心理士による心理カウンセリング数《平成21年度》

### ～学生～

#### カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	5	6	12	11	4	4	9	5	6	6	5	4	77
昭和地区	4	9	5	7	1	2	5	3	1	4	1	1	43
桐生地区	8	6	12	12	9	9	13	11	12	13	11	11	127
太田地区							1	2	0	1	0	2	6
合計	17	21	29	30	14	15	28	21	19	24	17	18	253

#### カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	9	10	20	15	6	6	13	8	11	11	7	5	121
昭和地区	6	11	6	8	1	2	8	3	1	5	1	1	53
桐生地区	14	12	25	17	11	15	22	25	25	23	21	17	227
太田地区							1	2	0	1	0	2	6
合計	29	33	51	40	18	23	44	38	37	40	29	25	407

#### カウンセリング動機内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	0	0	3	1	0	0	0	0	0	3	1	1	9
対人関係	2	2	8	6	4	6	9	12	15	14	14	7	99
心体の不調	16	17	25	20	8	8	13	11	13	11	5	7	154
修学影響心理等	6	7	7	4	4	7	14	11	8	11	8	8	95
その他	5	7	8	9	2	2	8	4	2	1	1	2	51
合計	29	33	51	40	18	23	44	38	38	40	29	25	408

1回のカウンセリングにつき、動機内訳が複数の場合があります。

### ～職員～

#### カウンセリング人数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	1	0	5
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桐生地区	4	1	2	1	0	0	2	2	2	0	0	1	15
太田地区							0	0	0	0	0	0	0
合計	4	1	2	1	0	1	2	4	3	0	1	1	20

#### カウンセリング回数

実施キャンパス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	1	0	5
昭和地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
桐生地区	4	1	2	1	0	0	2	2	2	0	0	1	15
太田地区							0	0	0	0	0	0	0
合計	4	1	2	1	0	1	2	4	3	0	1	1	20

#### カウンセリング動機内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心体の不調	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
修学影響心理等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	1	2	1	0	0	2	3	3	0	1	1	17
合計	4	1	2	1	0	1	2	4	3	0	1	1	20

1回のカウンセリングにつき、動機内訳が複数の場合があります。

10月～太田キャンパス 大山先生カウンセリング開始  
桐生キャンパス 鈴木先生カウンセリング追加【月・木曜日の午前中（不定期）】

# 群馬大学保健管理センター規程

( 昭和 52. 7.25 制定 )

改訂 昭和 58. 4. 1 昭和 60. 4. 1  
平成 8. 4. 1 平成 10. 2. 1  
平成 12. 4. 1

## ( 趣 旨 )

第 1 条 この規程は、群馬大学学則第 11 条の規定に基づき、群馬大学保健管理センター(以下「センター」という。)に関して必要な事項を定める。

## ( 目 的 )

第 2 条 センターは、学生及び職員の健康の健康の保持増進を図り、その将来にわたる健康の確保に寄与することを目的とする。

## ( 業 務 )

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の定期及び臨時の健康診断を実施すること。
- (2) 職員の定期健康診断等の保健に関する専門的業務の実施について協力すること。
- (3) 身体的及び精神的健康相談に応じ、応急処置又は保健指導等を行うこと。
- (4) 保健思想の普及及び啓蒙等の健康の保持増進上必要な教育・指導を行うこと。
- (5) 健康の保持増進について必要な企画、立案について指導助言を与えること。
- (6) 学内の環境衛生及び伝染病の予防について指導助言を行うこと。
- (7) 保健管理の充実向上のための調査研究を行うこと。
- (8) その他健康の保持増進について必要な専門的業務を行うこと。

## ( 組 織 )

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

- (1) 所長
- (2) 専任教官
- (3) 学校医
- (4) カウンセラー
- (5) 技術職員
- (6) その他必要な職員

## ( 所 長 )

第 5 条 所長は、本学の教授又は助教授をもって充てる。

2 所長は、センターの業務を掌理する。

3 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠の所長の任期は、前任者の残任期間とする。

4 所長及び専任教官の選考は、群馬大学保健管理センター管理委員会(以下「管理委員会」という。)の議に基づき、学長が行う。

## ( 保 健 管 理 医 )

第 6 条 保健管理医は、センターの専任教官をもって充てる。

2 保健管理医は、センターの専門的業務に従事する。

## ( 技 術 職 員 )

第 7 条 技術職員は、センターの技術的業務に従事する。

## ( 運 営 委 員 会 )

第 8 条 センターの円滑な運営を図るため、群馬大学保健管理センター運営委員会を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

## ( 分 室 )

第 9 条 保健管理上必要があるときは、センターに分室を設けることができる。

## ( 事 務 )

第 10 条 センターの運営に関する事務は、当分の間、学生部厚生課において処理する。

## ( 規 程 の 改 廃 )

第 11 条 この規程の改廃は、管理委員会の議を経て学長が行う。

## 附 則

この規程は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

# 保健管理センターの設置について

〔 昭和四十一年五月二十日 〕  
〔 文部省大学学術局 〕

## 1 設置の趣旨

保健管理センターは、大学の保健管理に関する専門的業務を一体的に行う厚生補導のための施設として設置し、学生の心身の健康の保持増進をはかることを目的とする。

## 2 業務内容

保健管理センターにおいては、概ね次のような業務を行うものとする。

- ① 学生の定期及び臨時の健康診断の業務を行うこと。
- ② 学生のため随時健康相談に応じること。
- ③ 学生に対し健康診断の事後措置等健康の保持増進について必要な指導を行うこと。
- ④ 学内の環境衛生及び伝染病の予防について指導援助すること。
- ⑤ 学内保健計画の立案について指導援助すること。
- ⑥ 保健管理の充実向上のための調査研究を行うこと。
- ⑦ その他学生の健康の保持増進について必要な専門的業務を行うこと。

## 3 施設及び設備

保健管理センターの施設及び設備は、「国立大学における厚生補導に関する基準的な施設・設備（昭和40年2月学生課作成）」に規定する保健管理センターの施設及び設備を標準として整備するものとする。

## 4 組織及び運営

- ① 保健管理センターは、学部に属しない全学共通施設とする。
- ② 保健管理センターに所長を置き、教授又は助教授をもってあてるものとする。所長は、保健管理センターの所務を掌理するものとする。
- ③ 保健管理センターに所長のほか、教授、助教授、講師又は助手及び技術職員を置くものとする。
- ④ 保健管理センターの運営については、必要に応じ、その審議にあたるものとして保健管理センター運営委員会を置くものとする。

## 平成21年度健康支援総合センター所属教職員等及び工学部所属学校医等名簿

整理番号	健康支援総合センター所属				工学部所属			
	職種等	氏名	専任・兼任, 常勤・非常勤別	備考	職種等	氏名	専任・兼任, 常勤・非常勤別	備考
1	理事・教授・医師	石川 治	センター長兼任		看護師	小野里 清美	専任, 常勤	事務部学生支援係所属
2	教授・医師	大島 喜八	専任, 常勤, 副センター長兼任		学校医	藤江 篤	非常勤	工学部保健室に勤務
3	准教授・医師	上原 徹	専任, 常勤		学校医	沼部 敏夫	非常勤	工学部保健室に勤務
4	看護師	八重樫 聡子	専任, 常勤		学校医	北川 洋	非常勤	工学部保健室に勤務
5	カウンセラー・臨床心理士	鈴木 志津	非常勤(業務委託)		学校医	矢部 潔	非常勤	工学部保健室に勤務
6	カウンセラー・臨床心理士	大山 理也子	非常勤(業務委託)		学校医	山口 治見	非常勤	工学部保健室に勤務
7	事務補佐員	吉野 陽子	非常勤	学生支援課所属で健康支援総合センターに勤務	学校医	梅山 佳美	非常勤	工学部保健室に勤務
8	学校医, 教授	渡邊 秀臣	兼任		学校医	有坂 實	非常勤	工学部保健室に勤務
9	学校医, 教授	田村 遵一	兼任		学校医	小島 章	非常勤	工学部保健室に勤務
10	学校医, 教授	土橋 邦生	兼任		学校医	檀原 暢	非常勤	工学部保健室に勤務
11	学校医, 教授	清水 弘行	兼任					
12	学校医, 教授	伊藤 理廣	兼任					
13	学校医, 教授	内海 英貴	兼任					
14	学校医, 教授	須賀 達夫	兼任					

## 第8回（平成21年度第1回）健康支援総合センター運営委員会次第

1 日 時 平成21年 7月 6日（月） 13時00分～

2 場 所 国際教育・研究センター3階会議室

### 3 議 題

#### ○ 協議事項

- (1) 平成22年度学生の定期健康診断日程（案）について 【資料1】
- (2) 平成22年度中期計画実施計画（案）について 【資料2】
- (3) 外国人留学生特別健康診断について 【資料3】
- (4) 工学部におけるカウンセラーの配置・増員等について 【資料4】
- (5) 健康支援総合センターからのメーリングリストによる教職員への「メンタルヘルス通信（仮称）」の配信業務の開始について 【資料5】
- (6) その他

#### ○ 報告事項

- (1) 健康支援総合センターの新准教授の就任について
- (2) 平成21年度学生定期健康診断結果について 【資料6】
- (3) 新入生への「健康ミニガイド」の配布及び「文教速報」掲載結果について 【資料7】
- (4) 第10回メンタルヘルス研究会の実施結果について 【資料8】
- (5) 平成21年度医学部新入生への小児感染症およびB型肝炎へのワクチン接種について 【資料9】
- (6) 平成21年度教育学部新入生への麻疹ワクチン接種状況について 【資料10】
- (7) 平成21年度胸部X線撮影検査留学生未受検のリストアップ作業について 【資料11】
- (8) 平成21年度教育研究環境重点整備費（施設及び設備（学生支援））の要求について 【資料12】
- (9) AED（自動対外式除細動器）及び心肺蘇生訓練機の使用方法的トレーニング実施並びに同トレーニングのインストラクターアルバイト学生の雇用について 【資料13】
- (10) 平成19年度群馬大学大学教育・学生支援機構報告書による平成19年度健康支援総合センターの業務実施状況の報告結果について 【資料14】
- (11) その他

第9回（平成21年度第2回）健康支援総合センター運営委員会次第

1 日 時 平成21年12月14日（月） 14時00分～

2 場 所 留学生センター3階会議室

3 議 題

○ 協議事項

- (1) 平成22年度健康支援総合センター業務計画（案）について
- (2) 平成21年度メンタルヘルス研究会の開催（1/22）について
- (3) 平成21年度中期計画に係る実施状況調書の提出について
- (4) 健康支援総合センターの第Ⅱ期（平成22年度～27年度）中期目標・計画の実施計画（案）について
- (5) 昭和地区に通学する学生の急病、怪我等の応急処置対応医師等グループの構築（案）について
- (6) 各学部からの提案事項について
- (7) その他

○ 報告事項

- (1) 平成22年度学生定期健康診断担当附属病院医師の派遣依頼について
- (2) 平成21年度全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会幹事会参加報告について（4/17）
- (3) 第47回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会参加報告について（7/31～8/1）
- (4) 第1回群馬県内大学等保健管理担当者会議の報告について（9/22）
- (5) 平成21年度全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会看護分科会運営委員会参加報告について（9/27）
- (6) 第48回全国大学保健管理研究集会参加報告について（10/29～30）
- (7) 平成21年度国立大学法人保健管理施設協議会参加報告について（10/31）
- (8) 外国人留学生特別健康診断結果について
- (9) インフルエンザ感染予防情報の周知状況について

- (10) 学生等のインフルエンザ感染状況の周知について
- (11) 桐生地区のカウンセリング時間増及び太田地区のカウンセリング開始について
- (12) 平成22年度カウンセラー謝金予算の増額要望結果について
- (13) 工学部外国人留学生のメンタルヘルス支援に係るTA等の配置結果について
- (14) メンタルヘルス通信の配信状況について
- (15) 本学ホームページへの「学生健康支援に関するお知らせ」の掲載結果について
- (16) AEDの使用方法及び心臓マッサージ方法の実技講習について
- (17) 定期健康診断経費予算の要求について
- (18) その他



平成21年度

健康支援総合センター運営委員会委員名簿

平成21年4月1日

所属・職名	委 員			関 係 職 員		
	氏 名	内 線	規定第3条	職 名	氏 名	内 線
センター長・委員長 理事(病院担当)	石 川 治 osamuish@med.	8280	1号委員			
副センター長 健康支援総合センター専任教員	大 島 喜 八 kihachi@aramaki.	7160	2号委員	看護師	八重樫 聡子	7161
健康支援総合センター 健康支援総合センター専任教員	上 原 徹 toruaki@	7162	3号委員			
教育学部 学生支援委員長	上 原 景 子 kuehara@edu.	7354	4号委員	教務係長	笠 井 好 之	7223
社会情報学部 学生委員	荒 木 詳 二 tiger@si.	7465	4号委員	教務係長	野 本 晃 良	7404
医学系研究科医科学専攻 教務部会長	田 村 遵 一 jtamura@showa.	8665	4号委員	学生支援係長	堀 越 昇	7796
医学部保健学科 厚生補導専門委員長	保 坂 公 平 khosaka@health.	8978				
工 学 部 国際交流・学生支援 委員長	志 賀 聖 一 shiga@me.	1514	4号委員	学生支援係長	吉 田 潔	1023
				看護師	小野里 清美	1044
総務部長	尾 藤 広 幸 bito@jimu.	7002	5号委員	福利係長	村 田 謙 一	7028
学務部長	桐 生 賢 一 kiri@jimu.	7121	5号委員	学生支援課長	佐 藤 剛 史	7135
				副課長	柳 澤 健	7136
				学生支援係長	加 藤 みゆき	7138

## 編集後記

前任者よりバトンタッチして、第4号（本号）の企画・調整を担当させていただきました。前号にひきつづき機構所属の全てのセンター報告を掲載することができましたが、不慣れもあり報告書の発行が大変遅くなってしまったことをお詫びいたします。原稿を執筆された皆様、本当にありがとうございました。

### 平成21年度 群馬大学大学教育・学生支援機構報告書

編集・発行 群馬大学大学教育・学生支援機構  
群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地  
TEL (027) 220-7125 (学務部教務課)  
E-Mail:ka-ggakusei@jimu.gunma-u.ac.jp